

# 2022年度 活動報告書

法政大学ボランティアセンター

# 2022年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書 目次

## 2022年度ボランティアセンター活動報告

巻頭言（朝比奈 茂 全学ボランティアセンター長）	1
ボランティアセンターについて	3

## 市ヶ谷ボランティアセンターについて

2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要	5
2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会	7
2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計	8
2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター学生団体紹介	9
2022年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー	11
2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告	23

## 多摩ボランティアセンターについて

2022年度 多摩ボランティアセンターの活動の概要	103
（郊部 俊二 多摩ボランティアセンター長）	
2022年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計	105
2022年度 多摩ボランティアセンター学生団体紹介	106
2022年度 多摩ボランティアセンターイベントカレンダー	107
2022年度 多摩ボランティアセンター活動の報告	109

## 小金井ボランティアセンターについて

2022年度 小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括	
（相原 建人 小金井ボランティアセンター長）	125
2022年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）	126
2022年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）	
	127

2022年度採択された助成金一覧・メディア掲載一覧	128
---------------------------	-----

## ボランティア活動の振り返りと今後の課題

法政大学ボランティアセンター長  
市ヶ谷キャンパスボランティアセンター長  
人間環境学部 朝比奈茂

2020年2月27日木曜日、突如、政府から新型コロナウイルス（Covid-19）感染拡大防止のため、4日後の3月2日月曜日より、全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に対して、臨時休校の要請がだされました。その第一報を受けた時、身体が震えるほど驚いた記憶があります。当時、私はボランティアセンター長として、任務に就いていませんでしたが、世間において、ボランティアどころではなかったと察しております。その後、政府は「三密の回避」、「マスクの着用」、「手洗いと手指消毒の徹底」などの対策を指示しました。その結果、学生はこれまでの生活が一変しました。特に深刻だったことは、三密を回避するために、「ステイ・ホーム」を徹底したことにより、人との関わりがなくなり、一人で部屋の中にいる時間が増えたことでした。それにより感染は防げたかも知れませんが、職場の人や友人などと話す機会が失われ、人によっては言葉を発する機会が全くなり、「孤独」の状態が増えてしまいました。ある研究によると世間とのつながりを断ち、4週間ほど経過すると健康を揺るがす事態が増加するとされています。パンデミックを防ぐために、「ステイ・ホーム」を徹底することは有効であったかも知れませんが、非接触を問えば問うほど、「孤独」が深まっていく、これは人間が生きていく上で大切なことの一つ、「コミュニケーション」を断つことを意味するのではないのでしょうか。その結果、私たちの身の回りに何か起こったのでしょうか。残念なことに多くの命が失われました。

地域福祉・ボランティア情報ネットワーク（全国社会福祉協議会／全国ボランティア・市民活動振興センター）：[https://www.zcwvc.net/volunteer/beginner.html#vol\\_c03](https://www.zcwvc.net/volunteer/beginner.html#vol_c03)）によれば、意外にも「ボランティア活動の明確な定義はない」とされています。またボランティア活動は「**自発的な意思に基づき他人や社会に貢献する行為**」であり、「自主性・主体性」、「社会性・連帯性」、「無償性・有償性」を特徴としており、さらに以下の3点が期待できるとされています。

- 強制や義務で行ったりするものでなく自分の意思で行うことで、多様な問題に柔軟に取り組むことができる。
- 自分のための活動でなく、自分以外の他者や社会の利益のために取り組む活動であり、活動を通じて感動や喜び、発見、知識や技術、充実感や達成感などさまざまなことが得られる。
- 自分の意思で取り組むため、既存の仕組みや発想にとらわれず、創造的な取り組みが実現でき、新しい社会の仕組みやサービスなどが生まれる可能性がある。

上記のように、ボランティア活動は、「**自発的な意思に基づき他人や社会に貢献する行為**」であるため、副次的には「孤独」を防ぐ役割があると考えています。つまり人と人及び人と社会の関係が前提となるため、多くは一人では成立しません。したがって、ボランティア活動をすることは、「孤独」にならない、「孤独」を救う、一つの手段となる可能性があります。

世界保健機関（WHO）憲章の前文に以下のような「健康の定義」が謳われています。

「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.」

これによると、「肉体的にも、精神的にも、社会的にも、全てが満たされている状態が健康である」となっています。「ステイ・ホーム」によって、運動機会が減少することで肉体的に不調が起これ、SNSにより他者と自己を比べることで精神的に不安になり、人とのコミュニケーションがなくなったことで社会から断絶したような感覚になり、これらの結果、うつ状態の人が増えました。ボランティア活動に参加することは、その性質上、WHOの健康の定義を包含する最適なツールであると考えます。本来のボランティア活動の趣旨とは少し外れますが、私たちの健康にも寄与する大事な活動であると言えるのではないのでしょうか。

最後に次年度以降に向けて、是非取り組んで頂きたいことを申し上げます。

私たちは何らかの行動を起こす時、その行動が公理を前提として、成り立っているかどうかを考える必要があります。2022年度もたくさんのボランティア活動を行ってきました。その数、3キャンパス合わせて、220を超え、ボランティアの種類も内容も多岐に渡り実施されました。決して一筋縄に進んだわけではありません。コロナ禍において学生は幾多の制限を乗り越え、オンラインなどを活用して、事前の調査から実施に至るまで、多くの議論を重ね十分に準備を行ってきました。そのことは、私自身、いくつかのボランティア活動に同行させてもらい、実感しております。

今後より良い活動を継続するために、一度原点に立ち返ってみる必要があると感じています。

これまで実施したボランティア活動を整理してください。一つ一つを検証し振り返ってください。それには、まず何を前提として、ボランティア活動を行うのか、その前提を示すことが重要です。前述した地域福祉・ボランティア情報ネットワーク（全国社会福祉協議会／全国ボランティア・市民活動振興センター）：[https://www.zcwvc.net/volunteer/beginner.html#vol\\_c03](https://www.zcwvc.net/volunteer/beginner.html#vol_c03)の内容は、大変参考になると思います。そうすることで、法政大学のボランティア活動の傾向（特徴）がわかるとともに、今後の方針や方向性を得ることができるとでしょう。さらに法政大学のボランティア活動とは、何であるかを明確に述べることもできます。

是非、時間をかけて実施していただくことをお願い申し上げます、巻頭の挨拶にかえさせていただきます。

2022年度の一年間、一緒に考え、学んでくれた学生の皆さん、本学のボランティア活動にご理解、ご協力して下さった学外の皆様、教職員の方々、本当に有難うございました。感謝申し上げます。



2023年3月7日 東北被災地スタディーツアー 石巻市防災まち歩きにて

# ボランティアセンターについて

## 1 活動内容

### (1) ボランティアコーディネート（情報収集／情報提供）

大学に数多く寄せられるボランティア情報を審査し通過したボランティア情報を、掲示板／ラック／ファイリング／メーリングリスト等で学生に公開しています。

### (2) ボランティア啓発活動

ボランティアの啓発活動の一環として学生スタッフとボランティアセンター教職員が協力してボランティア講座を実施しています。

### (3) ボランティア団体活動支援

ボランティアセンターに所属している学生スタッフが活動を円滑に進めることができるようにボランティアセンターで物品の貸し出しや打ち合わせの参加、各種相談を受け付けています。

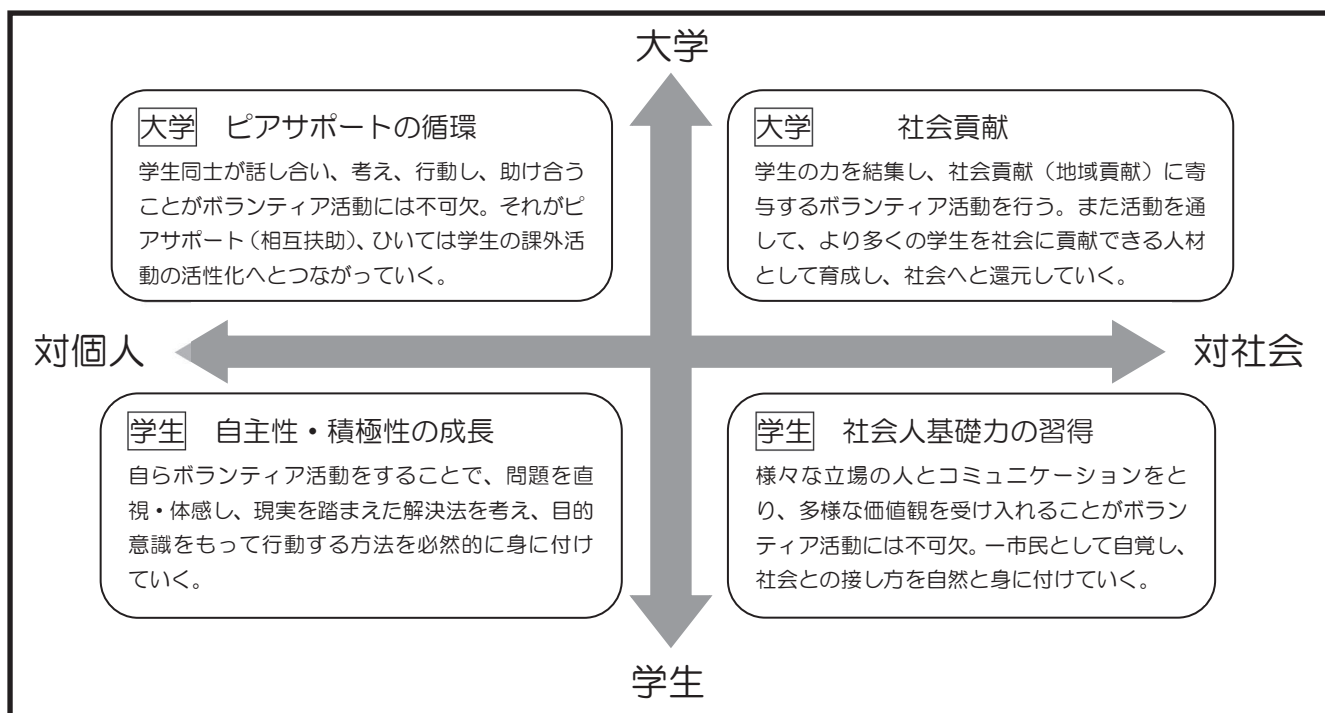
### (4) 学内外ネットワークの構築

各キャンパス周辺地域やボランティア活動先の自治体、教育機関、大学近隣の千代田区などと相互に連携をとり、地域貢献を主とする活動をしています。さらに学生スタッフが中心となり、他大学とも交流をはかっています。

### (5) 学生スタッフの募集・育成

学生スタッフと協力したボランティア説明会の開催など学生募集のサポートを行っています。またボランティア活動やボランティア講座の企画、運営を通して学生スタッフの育成もおこなっています。

## 2 ボランティアセンターの役割



## 3 ボランティアセンター全学運営委員会

日程：2023年1月30日（月）

議題：各地区からの活動報告、組織変更に伴う規程の改正について、災害学生ボランティアの組織化について、未来教室サティフィケートプログラム実施に伴う学生受け入れについて

# 市ヶ谷ボランティアセンターについて

2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要・・・・・・・・・・・・・・ 5

2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会・・・・・・・・・・・・・・ 7

2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計・・・・・・・・・・・・・・ 8

2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター学生団体紹介・・・・・・・・・・・・・・ 9

2022年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー・・・・・・・・・・・・ 11

2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告・・・・・・・・・・・・・・ 23

# 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

## 1. 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2022年度）

- (1) 近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施
- (2) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続
- (3) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施
- (4) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施
- (5) 学生スタッフの育成
- (6) キャンパスボランティアセンターの連携

## 2. COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の活動への影響について

2022年度のイベントについてはコロナの影響をほとんど受けずに活動ができた。コロナ以前と比較して異なる運用をしているのは基本的な感染対策の実施と、被災地に行く際に夜行バスが使えない（運行していないため新幹線使用）。宿泊先を個室にしている（コロナ前は4人一部屋、又は広間に雑魚寝）点である。一方で、定例ミーティング等については引き続き Zoom と対面を併用している。

## 3. プログラム数及び学生参加人数

2022年度の活動総プログラム数は212個、学生参加者総数は3584名となった。プログラムのうち学生募集などを行ったうえで天候により中止又は延期になった企画が2個ある。

## 4. 2022年度活動の報告

### (1) 近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施

- 「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」に働きかけを行い「インクルーシブデザイン講座」や「一緒に優しい社会を作りませんか？～ダウン症の子と一緒に文化祭をまわろう～」などの企画に参加してもらった。また、三輪田学園様も引き続き企画にご招待し、複数の企画に三輪田学園の生徒の皆様も参加いただいた。
- 例年行われている地域のお祭り関係では、「神田すずらん祭り」は中止となったが、「MIW 祭り」「神保町ブックフェスティバル」は実施されたためボランティアを派遣した。また、富士見二丁目町会と協同し「高齢者向けスマホで LINE 講座」の運営補助や LINE 講座の派生企画、「高齢者支援企画～スマホを使ってまち歩きしてみよう～」も実施した。また、昨年に引き続き「01u01u 発達障がい児サッカー教室」「手賀沼での外来魚・外来生物駆除ボランティア」「高円寺子供食堂ボランティア」など千代田区外の団体と協力するボランティア活動も継続し、関係を強化した。
- 今年は特に新たなボランティア先として「ちよだで多世代交流Ciao！（千代田区社会福祉協議会管轄）」様にご協力いただき多世代交流を目的として3つのイベントに協力させていただいた。
- 3大学連携（法政・明治・関西）のプログラムの実施  
明治大学 他大学の皆様に案内できるイベントを案内。5企画で合計15名参加。  
関西大学 他大学の皆様に案内できるイベントのうち、遠隔で参加できるイベントを案内。5企画で合計12名参加。その他、関西大学主催の琵琶湖の環境保全企画に9名が参加した。また、本学と関西大学合同企画のスポーツゴミ拾い企画は2回実施し、合計51名が参加した。

### (2) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続

- 被災地ボランティア、被災地スタディツアーの継続実施  
ボランティアセンター学生スタッフが主体となり、「福島スタディツアー」「東北被災地スタディツアー」を継続的に実施し、一般学生の被災地に対する理解を深め風化防止に貢献することができた。「東北被災地ボランティアツアー」に関しては例年通り8月に実施し、合計37名がボランティアを行った。

- 学外での防災啓発活動  
例年行われている「防災クイズ&ゲーム Day」や「みらいの防災リーダー育成講座」などの学外のイベントが再開し、チーム・オレンジが防災クイズカルタを出展した。
  - 学内での被災地支援・防災啓発活動の実施  
昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の対策をしたうえで、学内宿泊訓練である防災キャンプを実施することができた。
- (3) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施
- 東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施  
今年度は例年通り6月に研修会を1回実施することができた。駅での活動も人数制限（同時間帯に4名まで）という制約はあるものの、精力的に活動を実施した。今年度は新入生が多く入り、新入生の活躍が目立った。3月には報告会も実施した。
  - 継続実施活動
    - ・キャンパス周辺清掃及びエコキャップ回収ボランティアについては通年を通して実施できた。また九段・靖国通り地区清掃ボランティアについても年間を通して活動できている。
    - ・富士山でのボランティアについては3年ぶりに2回実施することができた。
- (4) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施
- 「Beach Clean Project」「高齢者支援企画～スマホを使ってまち歩きしてみよう～」「大学生とピアノタイム ピアノがつながく、多世代の輪！～みんなで奏でてみよう～」等の新しい視点を取り入れた企画を実施、学内に提供することができた。また、その時々的情勢に合わせて、オンラインを並行して使用した。
- (5) 学生スタッフの育成
- 学生イベントの企画・運営支援  
学生スタッフが開催するミーティング（VSP、チーム・オレンジ）への参加や、各プロジェクトごとの打ち合わせに職員が同席、学生企画の進捗状況を確認し、必要に応じて企画の促進やアドバイス、相談等を行った。
  - 昨年に引き続き、入会する学生スタッフと面談を行った。面談では学生スタッフやボランティアセンターの役割、各団体のイベント情報などを案内した。
  - 第6回「自由を生き抜く実践知大賞」に「VSP」「チーム・オレンジ」共に応募し、ノミネートされた。うち「VSP」については「とらわれることなきつながり賞」を受賞することができた。
  - ピアネット研修会は12月に1回実施し、ボランティアセンター学生スタッフも参加した。
- (6) キャンパスボランティアセンターの連携
- 六大学連絡協議会を9月に本学主催でZoomを利用して行った。また、3キャンパスの連携を図る全学運営委員会を1月に実施した。



## 2022年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回	日程	参加人数	議 題
第1回	4月22日(金)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、各団体より報告：新入生歓迎会、ボランティア・KYOPRO説明会の実施について、春のボランティア・KYOPRO WEEKの実施について 進捗状況・結果報告：メトロ（報告会について、駅での活動再開について）・VSP（ペイラー大学「お茶の時間」HAPPY VALENTINE 2022、HOSEIパラ五輪、フードロスヘキサゴン2、足立区イベント「謎解きSDGs」、市ヶ谷キャンパスツアー、動物愛護企画、今後の企画の進捗状況）・チーム・オレンジ（3.11を再考する、岩手・宮城スタディツアーの中止、災害救援ボランティア講座登壇、もしもの体験をしてみよう～HUGと防災食体験会～など）
第2回	5月26日(木)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（4月、5月のメンバーの活動状況について）・VSP（動物愛護企画、Beach Clean Project、はじめの一歩カフェ（環境問題編）、富士山での森林保全活動、外来種・外来魚について考える、今後の企画の進捗状況、その他報告事項（新入会員について等）・チーム・オレンジ（3.11つながるゼミ、東北被災地ボランティアツアーについて、防災ゲームDay、未来の防災リーダー（7/30）への出展について、防災キャンプ、その他報告事項（新入会員について等）・大学より 学内献血について、災害救援ボランティア講座について、インクルーシブデザインワークショップについて、6大学ボランティアセンター連絡協議会について、東北被災地ボランティアツアーの日程について
第3回	6月23日(木)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（6月のメンバーの活動状況について、東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会について）・VSP（スポゴミWith 関西大学、外来魚駆除ボランティア活動、点字企画、インクルーシブデザインワークショップ、ダウン症企画、高齢者企画、子どもの貧困企画、学内献血について、音楽で多世代交流）・チーム・オレンジ（3.11つながるゼミ、防災ゲームDay、未来の防災リーダー、東北被災地ボランティアツアー（下見）、東北被災地ボランティアツアー、防災キャンプ）
第4回	7月28日(木)	11名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（6・7月のメンバーの活動状況について）・VSP（ダウン症企画、高齢者企画、子どもの貧困企画、学内献血について、音楽で多世代交流、ダウン症企画②、外来魚駆除ボランティア、音楽・工作企画、野鳥の自然保護ボランティア、）・チーム・オレンジ（防災ゲームDay、未来の防災リーダー、東北被災地ボランティアツアー（下見）、東北被災地ボランティアツアー、防災キャンプ、HUとのコラボグッズ作成について、）・大学より 共立女子大でのボランティア説明会の実施について、関西大学との合同ボランティア（琵琶湖での外来植物駆除作業）について、手話講座の実施について、10/8（土）～10/9（日）の防災キャンプの出欠の確認について、10/23（日）の富士山での森林保全ボランティアの出欠について、3キャンパス連携企画について（ご提案）
第5回	10月4日(火)	10名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（8・9月のメンバーの活動状況について、定例会（9月）について、HOSEI DIVERSITYWEEKs 2022）・VSP（音楽で多世代交流、ダウン症企画②、外来魚駆除ボランティア、音楽・工作企画、MIW祭り（ポッチャ出演）、富士山企画（講義）、富士山で森林保全ボランティア、平塚市海岸清掃ボランティア、野鳥の自然保護ボランティア）・チーム・オレンジ（未来の防災リーダー、東北被災地ボランティアツアー（下見）、東北被災地ボランティアツアー、東北被災地ボランティアツアー事後報告会、防災キャンプHUとのコラボグッズ作成について）・大学より 共立女子大でのボランティア説明会の実施について、関西大学との合同ボランティア（琵琶湖での外来植物駆除作業）について、手話講座の実施について、ブックフェスティバルについて
第6回	11月9日(水)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（定例会（10月）について、HOSEI DIVERSITYWEEKs 2022）・VSP（富士山保全ボランティア（講義）、Beach Clean Project 第2弾！、富士山保全ボランティア、ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画、一緒に優しい世界を作りませんか？～ダウン症の子と一緒に大学祭をまわろう～、～あなたのその手で野鳥を助けてみませんか～野鳥保護区の保全活動、高齢者支援企画～スマホと使ってまち歩きしてみよう～、移民・外国人労働者について考える、清掃工場見学～清掃工場の新しい一面を発見しよう！～など）・チーム・オレンジ（防災キャンプ、HUとのコラボグッズ作成について、東北被災地ボランティアツアー展示会、福島被災地スタディツアー）大学より 関西大学との合同ボランティア（琵琶湖での外来植物駆除作業）について、ブックフェスティバルについて、大学内献血について
第7回	12月21日(水)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（定例会（11月）について、HOSEI DIVERSITYWEEKs 2022、ボランティア報告会について）・VSP（～あなたのその手で野鳥を助けてみませんか～野鳥保護区の保全活動、高齢者支援企画～スマホと使ってまち歩きしてみよう～、移民・外国人労働者について考える、0から学ぶLGBT、清掃工場見学～清掃工場の新しい一面を発見しよう！、Ciao!でクリスマス会～、伝統工芸品で環境問題を解決するなど、「清掃をしながら観光地を巡ろう」）・チーム・オレンジ（福島被災地スタディツアー、KUGで学ぶ避難所運営、東北被災地スタディツアーなど）大学より 大学内献血について（11/22、24）、手話講座（特別講義）について、全学ボランティアセンター運営委員会について
第8回	3月14日(火)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：各団体（ボランティア・KYOPRO説明会の実施について）・メトロ（1月以降の活動について、東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会について）・VSP（多世代交流クリスマス会～大学生とゲームをしよう！～、伝統工芸品で環境問題を考える、観光地清掃活動、法政大学・関西大学コラボ企画 スポーツ×ゴミ拾い、子ども企画（学習支援）、発達障害企画、清掃×防災企画、川の清掃企画、ブラインドサッカー企画、セラピードッグ企画など）・チーム・オレンジ（東北被災地スタディツアーなど）・大学より 学内献血、首都圏外郭放水路、障がい理解企画 ・1年間の総括（朝比奈先生、土屋先生、小林課長）

【付記】 ●運営委員会は新型コロナウイルス感染症の影響の為、Zoomにて開催。

●ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成・一部2019年改定）に照らし合わせて判断。

## 2022 年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

月	来室者総数	学生	その他	相談数	開室日数
4月	247	220	6	21	22
5月	185	140	5	40	17
6月	189	162	3	24	22
7月	185	180	2	3	20
8月	39	37	2	0	17
9月	156	151	0	0	20
10月	280	275	1	4	20
11月	245	242	0	3	20
12月	119	116	3	0	17
1月	101	100	1	0	16
2月	60	58	2	0	19
3月	92	91	1	0	22
合計	1,898	1,772	26	95	232

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント  
 ※ 3月 31 日までの集計になっています。

## 市ヶ谷ボランティアセンター 学生団体紹介 ～学生スタッフのことは～

学生スタッフの視点で行うボランティアの企画・実施

### VSP（ボランティア支援プロジェクト）

学生スタッフが興味のある分野のボランティアプログラムの企画を、企画立案から携わり進めていきます。環境・福祉・地域貢献など様々なジャンルのボランティア活動を行っています。

2022年度は、学生が大学を飛び出して、外部で活動するボランティア企画が復活した1年でした。6月に実施した海岸清掃では、砂浜に残された多くのゴミを目の当たりにし、全てを回収する難しさを実感しました。年間を通して実施した子ども食堂でのボランティアでは、大学生と子ども達が一緒に遊ぶという貴重な場所を創出できました。他にも、野鳥保護や外来魚駆除など多くの外で活動するボランティア企画を実施しました。これらに共通するのは、そこでしか学べないものがあるということです。自分の目で現場を見て、何が必要なのかを考えるというのは、ボランティアを自主的にあるいは継続的に行うきっかけになると考えています。

しかしながら、オンラインを使用したボランティア企画が全て無くなったわけではありません。コロナ禍での3年間の中で、オンラインだからこそできる特性を理解し、それを有効的に利用したボランティア活動も実施しました。3月に実施したスポーツ×ゴミ拾い企画では、オンラインで関西大学とつながった状態でゴミ拾いを行いました。関東と関西にある大学が同時にゴミ拾いすることで、お互いの地域のゴミの状況を理解できるため、より広い視野を持ってゴミ問題を解決しなければならないという意識付けが可能になりました。

来年度は、今までよりも制約がなくなると同時に、多くのボランティア活動の在り方が生まれてくるでしょう。私たちは、そのような新たなボランティア活動を実施する第一線として、VSPとボランティア活動自体を盛り上げていきたいと考えています。

2022年度 VSP 代表 国際文化学部国際文化学科2年 長尾 美紅

被災地支援・防災に取り組む

### チーム・オレンジ

チーム・オレンジは、東日本大震災の被災地・被災者のために「何かしたい」という学生が集まってできた組織です。被災地支援及び防災啓発活動について、学部生に活動の輪を広げるために教職員と協働し、活動しています。

2022年度も、コロナ禍での活動となりましたが、対策をしっかりと行い年間を通して活動することができました。そのため、実際に現地に行くこともでき、そこでしか体験できないことや、感じられない思いを、一人一人が心に刻むことができたと思います。また、コロナ禍がきっかけで始めた、現地の方とのオンライン上での交流も行いました。コロナ禍というハンデのさなか模索して企画を続けることができ嬉しく思います。

2023年度の目標は、これから起こりうる災害にも目を向けることです。東日本大震災に迫るレベルの災害は、そう遠くない将来に必ず起きます。そしてそれは、私たち自身や、身の回りの人に襲い掛かる可能性があります。私たちは、チーム・オレンジの活動を通し、たくさんのことを学んできました。現地の方に、東日本大震災の悲惨さをたくさんの言葉で語っていただきました。その教訓を、防災啓発活動として、法政大学の学生や身の回りに人に伝えたいと思います。将来起きる災害で、救えるはずの命を決してなくさないように、防災啓発活動に力を入れていきます。

2022年度チーム・オレンジ代表 法学部政治学科2年 磯網 巴

## 市ヶ谷ボランティアセンター 学生団体の紹介 ～学生スタッフのことば～

大学から一番近い地域貢献

### 東京メトロ飯田橋駅ボランティア

サービス介助基礎研修の受講を通して高齢者や身体の不自由なお客様の介助方法を学び、飯田橋駅にて見守りや道案内などのボランティア活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により一昨年、昨年と我々の活動は大きな制約を受けていましたが、依然コロナ禍が続く中ではあるものの活動制限が緩和されました。駅での活動においては外国人の方々が以前と比べて増加し自粛ムードも薄れる中で、様々なご案内を行う場面が多くみられ、多いときには1時間程度の活動で10人程にご案内を行うこともありました。新入生は慣れない中でも積極的に声掛けやご案内を行い、駅を利用される方々の助けになっている場面を多く見かけることとなりました。

今年度は7名のメンバーが駅での活動について表彰を受けましたが、うち6名は新入生であるなど、新入生の活躍ぶりは顕著でした。例年新規メンバーの定着が課題とされる中で、今年度は19名中15名の新入生が23年度への継続をするなど、2年生が1名のみという中で新入生の活躍は驚くものがありました。この流れを来年も引き継ぐべく、来年度もより手厚いサポートを実施していきます。

今後、新型コロナウイルス感染症に関する制限がさらに緩和され、観光客がより一層増加することが見込まれます。それに伴い、我々のご案内の内容もより多様化し、活動の重要性も増してくるものと想定されます。その中でも円滑かつ適切に見守る目としての活動を行うことができるよう、運営体制の強化を行ってまいります。

東京メトロ飯田橋駅学生スタッフ 代表 社会学部社会政策科学科2年 鈴木瑛士



VSP (ボランティア支援プロジェクト)



チーム・オレンジ



東京メトロ飯田橋駅ボランティア

2022 年度市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー

NO.	実施日	プログラム	概要
1	3月下旬～ 4月下旬	防災リーフレットの作成①・配布	大学で被災した際に役立つ防災リーフレットの作成・配布。配布は主に新歓祭時や防災食体験時に配布。
2	4月1日(金)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
3	4月3日(日)～ 4月6日(水)	新歓祭	大学で行われている新入生歓迎会
4	4月7日(木)	市ヶ谷キャンパスツアー 2022 (オンライン)	新入生向けイベント。学生スタッフが新入生のためにオンラインでキャンパスツアーを企画
5	4月8日(金)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
6	4月9日(土)	2022 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会	新入生に向けた学生スタッフ募集のための説明会・相談会
7	4月10日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供の CP サッカーのサポート
8	4月11日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
9	4月11日(月) ～15日(金)	春のボランティア・KYOPRO WEEK	新入生に向けた団体紹介のパネルを1週間掲示、昼休みには学生が団体紹介も行う。
10	4月11日(月) ～20日(水)	防災食体験(防災食の配布)	千代田区社会福祉会経由でいただいた防災食 300 職分を学生に配布
11	4月13日(水)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
12	4月13日(水)	市ヶ谷キャンパスツアー 2022 (対面)	新入生向けイベント。学生スタッフが新入生のためにキャンパスツアーを企画
13	4月15日(金)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
14	4月18日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
15	4月21日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
16	4月21日(木)	動物愛護企画保護犬猫 ～私たちにできることはなんだろう～	保護犬猫の現状・課題・学生にできること等を講義いただき意見交換をおこなった。また、実際の保護犬猫の見学もした。
17	4月22日(金)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
18	4月25日(月)	はじめの1歩カフェ～環境問題編～	新入生歓迎イベント。学生同士で環境問題について何ができるかを考え、共有した。
19	4月25日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
20	4月28日(木)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
21	4月27日(水) ～28日(木)	今こそ献血へ(学内献血企画)①	献血バスを呼び、学内献血を実施。学生は案内板などの掲示物の作成・設置・アンケート作成などを行った。
22	5月～3月末	HUコラボグッズ作成企画	チーム・オレンジと(株)エイチ・ユーが協同してグッズ販売、作成。デザインは学生が行い、グッズ販売をエイチ・ユーが行った。売り上げの一部は被災地への募金される。
23	5月2日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
24	5月9日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
25	5月13日(金)	Beach Clean Project (講義)	一日目は海の問題についての講義いただき意見交換、二日目はビーチでの清掃ボランティア活動
26	5月14日(土)	Beach Clean Project (海岸清掃)	一日目は海の問題についての講義いただき意見交換、二日目はビーチでの清掃ボランティア活動
27	5月14日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室 (オンライン)	脳性麻痺の子供の CP サッカーのサポート。今回は雨天のため Zoom を使ってエクササイズ
28	5月16日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
29	5月17日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
30	5月19日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
31	5月21日(土)	Beach Clean Project (海岸清掃)	一日目は海の問題についての講義いただき意見交換、二日目はビーチでの清掃ボランティア活動
32	5月21日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
33	5月22日(日)	富士山自然保全ボランティア	富士山での自然保全ボランティアツアー。薪割りや階段作り、道づくり等を行った。
34	5月23日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
35	5月24日(火)	外来魚・外来生物駆除について考えよう！(講義)	外来魚、外来生物についての問題点を講義いただき、学生同士での意見交換を行う。また、6/4には実際に駆除ボランティア活動もする
36	5月24日(火)	「スマホでLINE講座」運営補助ボランティア	地域の高齢者を対象に、LINEの使い方をレクチャーする
37	5月25日(水)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会①	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
38	5月29日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供の CP サッカーのサポート。
39	5月29日(日)	法政大学×関西大学 チーム対抗！遊び感覚でゴミ拾い！?	拾ったゴミに点数がついており、拾ったゴミの分だけポイントを加算。取得ポイントを競う新感覚のゴミ拾い企画
40	5月30日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
41	5月30日(月)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
42	6月4日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
チーム・オレンジ	市ヶ谷キャンパス	500							500	配布枚数(概算)
VSP、ベイラー大学	Zoom	4							4	
VSP、チーム・オレンジ	外濠校舎3階S307教室、S505教室	-							-	F
VSP	Zoom	12							12	
VSP、ベイラー大学	Zoom	3							3	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、KYOPRO	大内山校舎6階Y603、Y604、Y605	110							110	
特定非営利活動法人OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1							1	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	1							1	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、KYOPRO	外濠校舎1階メディアラウンジ	15							15	学生スタッフのみ集計
チーム・オレンジ	外濠校舎1階メディアラウンジ	300							300	300食配布
VSP、ベイラー大学	Zoom	1							1	
VSP	市ヶ谷キャンパス	9							9	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	22							22	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	6							6	
VSP、NPO法人みなしご救援隊犬猫譲渡センター	外濠校舎523～526会議室、527・528会議室	26							26	
VSP、ベイラー大学	Zoom	2							2	
VSP	外濠校舎523～526会議室	17							17	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	15							15	
VSP、日本赤十字社	市ヶ谷キャンパス	135							135	内献血者数109名(26名は献血できず)
チーム・オレンジ、(株)エイチ・ユー	法政大学オリジナルグッズショップ他	4							4	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	7							7	
VSP、公益財団法人かながわ海岸美化財団	外濠校舎523～526会議室	24							24	
VSP、公益財団法人かながわ海岸美化財団	平塚ビーチセンター付近	-							-	雨天のため延期
特定非営利活動法人OluOlu、VSP	Zoom	2							2	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	4							4	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	11							11	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	9							9	
VSP、公益財団法人かながわ海岸美化財団	平塚ビーチセンター付近	19							19	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
VSP、認定特定非営利活動法人富士山クラブ	富士山麓	30	2				4		36	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	4							4	
VSP、手賀沼水生生物研究会	Zoom	21				5			26	
VSP、ちよだボランティアセンター、富士見二丁目町会	千代田区民館	4							4	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、東京メトロ	527・528会議室	4							4	
特定非営利活動法人OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上など	4							4	
VSP、関西大学ボランティアセンター学生スタッフ	市ヶ谷キャンパス及びその周辺	15					11		26	
VSP、NPO法人バイタルプロジェクト	Zoom	4							4	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	15							15	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	

NO.	実施日	プログラム	概要
43	6月4日(土)	外来魚・外来生物駆除について考えよう！(駆除活動)	四つ池での外来魚駆除ボランティア活動やトンボの観察などを行った。5/24の講義企画と連動しているボランティア活動
44	6月4日(土)	オンラインで東北と繋がる つながるゼミ	オンラインで被災地の方から現地の暮らし、様子、震災から現在までの話などを伺い震災について考える、被災地と繋がる企画
45	6月6日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
46	6月10日(金)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
47	6月11日(土)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会	東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修
48	6月12日(日)	日本補助犬協会でのボランティア活動	日本補助犬協会での講義を受けた後に庭の草取りのボランティア活動を実施
49	6月12日(日)	空と大地の図書館でのボランティア活動	空と大地の図書館でのボランティア活動、菜園や催し物の手伝いなどを行う
50	6月13日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
51	6月15日(水)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
52	6月16日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
53	6月17日(金)	はじめての点字～知ってつながる社会の輪～	点字を探すワークショップと視覚障害のある方から話を聞くことでその意味や役割を学び、視覚障害の方の理解を深める講義企画
54	6月18日(土)	学生災害ボランティア講座(石川県)	石川県内の大学生などが参加するボランティア講座にチーム・オレンジの学生が登壇、活動を紹介する
55	6月18日(土)	災害救援ボランティア講座(第1回)	災害救援ボランティアの基本、災害と防災対策の基本、千代田区社会福祉協議会・区内学生の活動、災害ボランティア活動ケースワーク、被災地での安全衛生
56	6月18日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている
57	6月20日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
58	6月21日(火)	インクルーシブデザイン講座	インクルーシブデザインやリードユーザー(高齢者や障害者)の生活について講義及びワークショップで学ぶことで、リードユーザーを含め人々が使いやすいデザインや社会について考える
59	6月24日(金)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会②	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
60	6月25日(土)	災害救援ボランティア講座(第2回)	災害模擬体験と実技、出火防止と初期消火、災害ボランティア活動図上演習
61	6月25日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート。
62	6月27日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
63	6月29日(水)	一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症から考える共生社会～①	ダウン症から共生社会を考える企画。ダウン症とは何かを学び、実際にダウン症の子を持つ親からその暮らしを聞いて共生社会の実現には何が必要かを考える。
64	6月30日(木)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
65	7月1日(金)、4日(月)	今こそ献血へ(学内献血企画)②	献血バスを呼び、学内献血を実施。学生は案内板などの掲示物の作成・設置・アンケート作成などを行った。
66	7月2日(土)	災害救援ボランティア講座(第3回)	応急手当活動(上級救命技能講習)、認定証授与
67	7月2日(土)	子ども×学習支援～夢と希望をもてる社会を考えよう～	子どもの貧困を学習支援の側面から考える企画。講義やディスカッションを通して現状を知り、自分たちができることを考える。最後にはキッズドアからのボランティアの紹介も行った。
68	7月2日(土)	「スマホでLINE講座」運営補助ボランティア	地域の高齢者を対象に、LINEの使い方をレクチャーする
69	7月3日(日)	防災クイズ&ゲーム Day2022in そなエリア東京	チーム・オレンジが防災クイズカルタでブース出展と体験会を行った。
70	7月4日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
71	7月7日(木)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
72	7月10日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室(オンライン)	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート。今回は雨天のためZoomを使ってエクササイズ
73	7月11日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
74	7月14日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
75	7月21日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
76	7月23日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室(オンライン)	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート。今回は雨天のためZoomを使ってエクササイズ
77	7月25日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
78	7月27日(水)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
VSP、手賀沼水生生物研究会	四つ池（NEC我孫子事業場内）	19							19	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク、ゲストハウス3710	Zoom、Y 801	37	7				1	2	47	岩手大学 3名参加
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
VSP	外濠校舎 527・528 会議室	10							10	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、東京メトロ、日本ケアフット共育機構	富士見ゲート学生ホール 東京メトロ飯田橋駅	31							31	
公益財団法人日本補助犬協会、VSP	公益財団法人日本補助犬協会横浜訓練センター	3							3	
空と大地の図書館、VSP	空と大地の図書館（新宿区）	3							3	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	10							10	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	7							7	
三宅隆氏（日本視覚障害者団体連合）、KYOPRO、VSP	外濠校舎 523～526 会議室	21							21	
公益財団法人石川県民ボランティアセンター、学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会、宮崎賢哉氏（災害支援・防災教育コーディネーター）、チーム・オレンジ	Zoom	2							2	
災害救援ボランティア推進委員会	大内山校舎 4 階 Y 405 教室	27							27	第 1 回～第 3 回全出席が必要
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	4							4	
VSP、インクルーシブデザイン・ソリューションズ、高山希氏（リードユザー）	外濠校舎 523～526 会議室	25	5					7	37	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、東京メトロ	東京メトロ飯田橋研修室	6							6	
災害救援ボランティア推進委員会	本所防災館 大内山校舎 4 階 Y 405 教室	25							25	第 1 回～第 3 回全出席が必要
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上など	1							1	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	1							1	
VSP、NPO 法人アクセプションズ	Zoom	29	3				4	4	40	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	15							15	
VSP、日本赤十字社	市ヶ谷キャンパス	106							106	内献血者数 73 名（33 名は献血できず）
災害救援ボランティア推進委員会	市ヶ谷総合体育館柔道場	25							25	第 1 回～第 3 回全出席が必要
VSP、特定認定非営利活動法人キッズドア	大内山校舎 Y 405 教室	30	15						45	
VSP、ちよだボランティアセンター、富士見二丁目町会	千代田区民館	7							7	
チーム・オレンジ、一般社団法人防災教育普及協会、東京臨海広域防災公園管理センター	そなエリア東京	6							6	18 名が体験会に来場
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
VSP	外濠校舎 527・528 会議室	6							6	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	Zoom	1							1	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	1							1	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	6							6	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	5							5	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	Zoom	3							0	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	1							1	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	10							10	



NO.	実施日	プログラム	概要
79	7月30日(土)	みらいの防災リーダー育成講座	チーム・オレンジが未来の帽子リーダーを育成する本イベントの運営の補助ボランティア及びイベントコンテンツの1つとして防災クイズを実施。
80	8月1日(月)～ 8月2日(火)	東北被災地ボランティアツアー(下見)	8月下旬に行われる東北被災地ボランティアツアーの行程の下見、お世話になる方々へのご挨拶・打ち合わせ
81	8月4日(木)	大学生とピアノタイム ピアノがつなぐ、多世代の輪！ ～みんなで奏でてみよう～	VSPとちよだで多世代交流Ciao!が協力して実施する音楽を使った多世代交流イベント。演奏はピアノの会に協力いただいた。
82	8月8日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
83	8月8日(月)	共立女子大学でのボランティア講座	共立女子大学からの依頼で本学ボランティアセンター及び学生スタッフがボランティア講座に登壇、団体の説明やトークセッションを実施した。
84	8月8日(月)	東北被災地ボランティアツアー(事前説明会)	8月下旬に行われる東北被災地ボランティアツアーの説明会
85	8月10日(水)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会③	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
86	8月22日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
87	8月24日(水)	一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症から考える共生社会～②	ダウン症から共生社会を考える企画。第2回は意見交換形式で話し合いをしながらダウン症についての理解を深める
88	8月25日(木)～ 8月27日(土)	東北被災地ボランティアツアー(45、46次隊)	東日本大震災の被災地で、講話や施設見学を通して東日本大震災について考える。又被災地支援ボランティア活動を行う。
89	8月28日(日)～ 8月30日(火)	東北被災地ボランティアツアー(47、48次隊)	東日本大震災の被災地で、講話や施設見学を通して東日本大震災について考える。又被災地支援ボランティア活動を行う。
90	8月29日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
91	8月31日(水)	外来魚・外来生物駆除ボランティア	四つ池での外来魚駆除ボランティア活動
92	9月～3月末	エコキャップ投票箱作成企画	VSPがエコキャップ回収の啓発活動の一環として、投票形式のエコキャップ回収箱を2つ作成し設置した。
93	9月3日(土)	高円寺寺供食堂ボランティア	高円寺寺供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
94	9月5日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
95	9月10日(土)	高円寺寺供食堂ボランティア	高円寺寺供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
96	9月10日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
97	9月14日(水)	琵琶湖の環境 保全～琵琶湖 ツーリズム! 大学生で考える環境 ボランティアの未来 2022～	関西大学主催のイベント。関西大学、明治大学の学生と共にオンライン講座で琵琶湖の環境問題について考える
98	9月15日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
99	9月15日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
100	9月16日(金)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会④	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
101	9月17日(土)	高円寺寺供食堂ボランティア	高円寺寺供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
102	9月17日(土)	大学生と簡単・楽しい楽器作り	VSPとちよだで多世代交流Ciao!が協力して実施する音楽・手作り楽器を使った多世代交流イベント。
103	9月20日(火)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
104	9月25日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
105	9月26日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
106	9月26日(月)	東北被災地ボランティアツアー 事後報告会	東北被災地ボランティアツアー活動後の事後報告会。各隊の実施報告とお世話になった活動先へのお礼状の作成をする。
107	9月27日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
108	9月30日(金)～ 10月1日(土)	千代田区男女共同参画センター 第9回MIW祭り	男女共同参画センターMIWにて、ボランティアセンター団体の活動発表展示。VSPはポッチャを出展
109	10月初旬～3月末	エコキャップでカラフルカメレオン	エコキャップを楽しく回収できるようにカメレオンの形の回収ボックスを作成・設置した
110	10月1日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
111	10月2日(日)	外来魚・外来生物駆除ボランティア(ゼニタナゴ放流)	四つ池でのゼニタナゴ放流会の運営補助ボランティア
112	10月3日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
113	10月4日(火)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
114	10月5日(水)	手話講座(入門編)①	手話通訳士 中野佐世子氏
115	10月6日(木)	一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症から考える共生社会～③	ダウン症から共生社会を考える企画。第3回となる本企画は実際にダウン症がある子供とZoomを使ってゲームなどをして交流する。ダウン症の子供と接することから学びを得る企画。
116	10月8日(土)～ 10月9日(日)	「もしも」に備える防災キャンプ	防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、チーム・オレンジ

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
千代田区、千代田区社会福祉協議会	千代田区役所 1 階 区民ホール	6							6	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県遠野市、陸前高田市、釜石市、大槌町	3							3	
VSP、ピアノの会、ちよだで多世代交流 C iao ! (千代田区社会福祉協議会)	かがやきプラザ 1 階ひだまりホール	10							10	千代田区在住の方 30 名が参加
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、チーム・オレンジ。共立女子大学	共立女子大学	4	36						40	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	富士見ゲート 2 階 G 201 教室	34							34	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア	外濠校舎 523 ~ 526 会議室	5							5	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	4							4	
VSP、NPO 法人アクセプションズ	Zoom	11	2			2	1		16	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県陸前高田市、大槌町、釜石市	17							17	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県陸前高田市、大槌町、釜石市	20							20	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	1							1	
VSP、手賀沼水生生物研究会	四つ池 (NEC 我孫子事業場内)	17							17	
VSP	外濠校舎 1 階、2 階	4							4	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1							1	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	4							4	
関西大学ボランティアセンター	Zoom	10				2	18		30	関西大学主催のボランティア講座イベント
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	15							15	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	6							6	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア	東京メトロ飯田橋研修室	3							3	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
VSP、ちよだで多世代交流 C iao ! (千代田区社会福祉協議会)	かがやきプラザ 1 階ひだまりホール	14							14	千代田区在住の方 21 名が参加
VSP、バイラー大学、バイラー大学協定校等	Zoom	3							3	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	2							2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
チーム・オレンジ	大内山校舎 Y 406 教室	32							32	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	20							20	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア	千代田区役所	3							3	
VSP	市ヶ谷キャンパス	2							2	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	2							2	
VSP、手賀沼水生生物研究会	四つ池 (NEC 我孫子事業場内)	4							0	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、バイラー大学、バイラー大学協定校等	Zoom	2							2	
手話講座入門 (手話ゲームブック) 歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	35							35	
VSP、NPO 法人アクセプションズ	Zoom	7					2		9	
大学構内にて首都直下地震を想定したキャン	外濠校舎、市ヶ谷総合体育館	39		2	3				44	

NO.	実施日	プログラム	概要
117	10月11日(火)	富士山企画～よりよい環境づくりへの挑戦～(講義・事前説明会)	VSP、富士山クラブ
118	10月12日(水)	手話講座(入門編)②	手話通訳士 中野佐世子氏
119	10月13日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
120	10月14日(金)～10月20日(木)	東北被災地ボランティアツアー報告展示会	東北被災地ボランティアツアーの展示会をし、被災地の現状をボランティアツアーに参加していない学生にも知ってもらおう
121	10月15日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
122	10月16日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
123	10月16日(日)	琵琶湖の環境 保全～琵琶湖 ツーリズム! 大学生で考える環境 ボランティアの未来 2022～(実践編)	関西大学主催のイベント。関西大学、明治大学の学生と共に実際に琵琶湖で外来植物の駆除作業を行う
124	10月17日(月)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
125	10月17日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
126	10月18日(火)	バイラー大学「お茶の時間」	バイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
127	10月19日(水)	手話講座(入門編)③	手話通訳士 中野佐世子氏
128	10月下旬～11月6日(日)	防災リーフレットの作成②・配布	大学で被災した際に役立つ防災リーフレットの作成・配布。配布は主に新歓祭時や防災食体験時に配布。
129	10月20日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
130	10月21日(金)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会⑤	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
131	10月21日(金)	千代田区社会福祉協議会のヒアリング調査	千代田区社会福祉会からの依頼を受けて学生3名が社会福祉協議会からヒアリング調査を受けた
132	10月22日(土)	Beach Clean Project 第2弾!	ビーチでの清掃ボランティア活動
133	10月23日(日)	富士山企画～よりよい環境づくりへの挑戦～(自然保全ボランティア)	富士山での自然保全ボランティアツアー。薪割りや階段作り、道づくり等を行った。
134	10月24日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
135	10月26日(水)	手話講座(入門編)④	手話通訳士 中野佐世子氏
136	10月27日(木)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
137	10月29日(土)、30日(日)	第30回 神保町ブックフェスティバル	神保町のブックフェスティバルの運営ボランティア(交通案内、インフォメーションなど)
138	11月2日(水)	ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画～ユニバーサルシアターについて知ろう、その表現について考えてみよう～	視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターについて学ぶ
139	11月3日(木)	一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症の子と一緒に文化祭をまわろう～	ダウン症から共生社会を考える企画。第3回となる本企画は実際にダウン症がある子供とZoomを使ってゲームなどをして交流する。ダウン症の子供と接することから学びを得る企画。
140	11月6日(日)	チーム・オレンジ×HUコラボグッズ販売	チーム・オレンジが作成したコラボグッズの一部を大学祭で販売した。20点で合計19,360円を売り上げた。売上の一部はエイチ・ユーを通して被災地に寄付される。
141	11月6日(日)	フードロス～大学祭で廃棄になった食料を寄付しよう～	大学祭で廃棄になった食材や調味料をセカンドハーベストジャパンに送付する。キャンパスエコロジーフォーラムからの依頼を受け、送付はボランティアセンターで請け負った。
142	11月7日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
143	11月9日(水)	手話講座(入門編)⑤	手話通訳士 中野佐世子氏
144	11月10日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
145	11月12日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
146	11月12日(土)	～あなたのその手で野鳥を助けてみませんか～野鳥保護区の保全活動	行徳鳥獣保護区で鳥獣保護区についての講話を聞き、清掃活動、野鳥観察をいごなした。
147	11月13日(日)	高齢者支援企画～スマホを使ってまち歩きしてみよう～	地域の高齢者を対象に、靖国神社を散歩、ボアソナードタワー26階の展望を眺めながらスマホの使い方(天気アプリやグーグルマップ、LINEなど)をレクチャーする。
148	11月14日(月)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
149	11月14日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
10月に実施予定の富士山の森づくりに関わる保全活動に先駆けて、富士山が抱える様々な問題を取り上げ問題の予防と対策について講義とワークショップを通じて考える	大内山校舎Y 802 教室	28	1			2		2	33	
手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	31							31	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	6							6	
チーム・オレンジ	外濠校舎1階メディアラウンジ	5							5	展示のため学生スタッフのみカウント
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	3							3	
関西大学ボランティアセンター	琵琶湖湖畔	9					29		38	関西大学主催のボランティアイベント
VSP	外濠校舎 523 ~ 526 会議室	5							5	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
VSP、バイラー大学、バイラー大学協定校等	Zoom	4							4	
手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	31							31	
チーム・オレンジ	市ヶ谷キャンパス	5							5	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	2							2	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア	東京メトロ飯田橋研修室	4							4	
VSP、千代田区社会福祉協議会	外濠校舎1階101会議室	3							3	
VSP、公益財団法人かながわ海岸美化財団	平塚ビーチセンター付近	20							20	
VSP、認定特定非営利活動法人富士山クラブ	富士山麓	33				2			35	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	1							1	
手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	31							31	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	16							16	
神保町ブックフェスティバル実行委員会	神田ずらん通り、神保町三井ビルディング公開空地	40							40	29日 18名 30日 22名
シティ・ライツ、シネマチュブキタバタ、VSP	シネマチュブキタバタ(北区)	13							13	
VSP、NPO 法人アクセプションズ	市ヶ谷キャンパス	12	5						17	アクセプションズから9名の子供が参加
チーム・オレンジ、(株)エイチ・ユー	市ヶ谷キャンパス	4							4	人数はコラボグッズ担当者のみ
キャンパスエコロジーフォーラム、セカンドハーベストジャパン	市ヶ谷キャンパス	2							2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	1							1	
手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	26							26	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	8							8	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	3							3	
VSP、NPO 法人 NPO 行徳自然ほごくらぶ	行徳鳥獣保護区	20							20	
VSP、富士見二丁目町会	千代田区役所富士見出張所・区民館、靖国神社、市ヶ谷キャンパス	13	4						17	地域の参加者12名
VSP	外濠校舎 523 ~ 526 会議室	2							2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	

NO.	実施日	プログラム	概要
150	11月15日(火)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
151	11月16日(水)	手話講座(入門編)⑥	手話通訳士 中野佐世子氏
152	11月17日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
153	11月19日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
154	11月21日(月)	移民サポートボランティア講座	
155	11月22日(火)、 24日(木)	今こそ献血へ(学内献血企画)①	献血バスを呼び、学内献血を実施。学生は案内板などの掲示物の作成・設置・アンケート作成などを行った。
156	11月23日(水) ～12月3日(土)	HOSEI DIVERSITYWEEKs 2022	「HOSEI DIVERSITYWEEKs 2022」で東京メトロ飯田橋駅ボランティア学生スタッフが動画を作成した。
157	11月24日(木)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
158	11月25日(金)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア 定例会⑥	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動定例会。学生、メトロの社員の方、職員間で情報共有や活動の報告などを行う。
159	11月27日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
160	11月28日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
161	11月30日(水)	手話講座(入門編)⑦	手話通訳士 中野佐世子氏
162	12月～2月中旬	デザイン企画(オリジナル腕章の作成)	VSPが校外で活動する際に身につける腕章を作成した。
163	12月3日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
164	12月3日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
165	12月4日(日)	福島被災地スタディツアー	チーム・オレンジ
166	12月5日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
167	12月5日(月)	KUGで学ぶ避難所運営～あなたの知らない避難所運営～	法政大学版の帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)を使い実際の災害時を想定して図上訓練を行う。
168	12月7日(水)	手話講座(入門編)⑧	手話通訳士 中野佐世子氏
169	12月8日(木)	ゼロから学ぶLGBTQ～より良い社会を私たちが作るために～	LGBTQについて学び、共生社会の在り方について考える啓発イベント。
170	12月10日(土)	清掃工場見学～清掃工場の新しい一面を発見しよう!～	渋谷清掃工場を見学の後大学で環境・ゴミ問題の意見交換会を行う。
171	12月10日(土)	ピアネット研修会	ピアネット運営委員会主催が主催するピアネット組織に所属している学生の研修会。
172	12月12日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
173	12月15日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
174	12月15日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
175	12月17日(土)	自由を生き抜く実践知大賞表彰式	VSP、チーム・オレンジの活動が自由を生き抜く実践知大賞にノミネートされたため、表彰式に出席
176	12月17日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
177	12月18日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
178	12月19日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
179	12月21日(水)	手話講座(特別編)	手話講座の特別編として、講師に那須氏をお招きし、講演を実施。中野氏、佐伯氏には手話通訳をお願いする。
180	12月22日(木)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
181	12月24日(土)	多世代交流クリスマス会～大学生とゲームをしよう!～	VSPとちよだで多世代交流Ciao!が協力して実施するクリスマス会。VSPは絵しりとりとイントロクイズを実施
182	12月26日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
183	1月14日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
184	1月16日(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
185	1月16日(月)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
186	1月16日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	東京家政	二松学舎	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他 (職員、オブザーバー等)
VSP、バイラー大学、バイラー大学協定校等	Zoom	1							1	
手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	29							29	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	7							7	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
VSP、武庫川女子大学専任講師加藤丈太郎氏	外濠校舎 523～526 会議室	13						7	20	
VSP、日本赤十字社	市ヶ谷キャンパス	99							99	内献血者数 80 名(19 名は献血できず)
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、法政大学	法政大学 H P	-							-	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	5							5	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、東京メトロ	外濠校舎 527・528 会議室	6							6	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	2							2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	27							27	
VSP	—	6							6	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1							1	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
福島県の被災地や伝承館を巡り、東日本大震災での津波被害や原子力災害について学ぶツアー	福島県いわき市、双葉郡双葉町	40							40	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
チーム・オレンジ、KYOPRO、認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)	外濠校舎 523～526 会議室	12							12	富士見 2 丁目町会から 1 名参加
手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	富士見ゲート G 602 教室	26							26	
VSP、KYOPRO、NPO 法人 SHIP	外濠校舎 523～526 会議室	11							11	
VSP、渋谷清掃工場	渋谷清掃工場、大内山校舎 Y 505 教室	13							13	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、その他ピアネットに所属している団体	ポアソナードタワー 26 階スカイホール	10							10	ボランティアセンター学生スタッフのみカウント
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	5							5	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	4							4	
VSP、チーム・オレンジ	外濠校舎 6 階サッタホール	7							7	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1							1	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	1							1	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
那須映里氏、中野佐代子氏、佐伯富美子氏	富士見ゲート 6 階 G 602 教室	43	8	6		4		7	68	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	-								雨天のため中止
VSP、ちよだで多世代交流 C iao ! (千代田区社会福祉協議会)	かがやきプラザ 1 階ひだまりホール	4							4	千代田区在住の方 30 名が参加
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町店屋上	2							2	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	8							8	
VSP	外濠校舎 5 階 529～530 会議室	7							7	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	

NO.	実施日	プログラム	概要
187	1月19日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
188	1月21日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
189	1月23日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
190	1月25日(水)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
191	1月27日(金)	伝統工芸品で環境問題を考える	伝統工芸品を切り口にエシカル消費、環境問題について考える。また、エシカル消費を考えるにあたり、和紙作り体験も行った。
192	1月30日(月)	バイタルプロジェクトオンライン居場所ボランティア	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
193	2月4日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
194	2月5日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
195	2月6日(月)	令和4年度「学生ボランティア団体助成事業」	助成金を申請、VSPが採択されたため表彰式へ参加、表彰状を授与された。
196	2月18日(土)	高円寺子供食堂ボランティア	高円寺子供食堂でのボランティア。現在はフードパントリー運営の補助のボランティアを行っている。
197	2月18日(土)	バイタルプロジェクト主催イベント補助ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトで実施された子供向けイベントの補助ボランティア
198	2月20日(月)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
199	2月20日(月)	観光地清掃活動	浅草周辺の清掃活動、清掃後は浅草寺やその周辺を観光し、清掃と観光を楽しむ。
200	2月21日(火)	東北被災地スタディツアー事前説明会	3/7～9にかけて行われる東北被災地スタディツアーの事前説明会と交流会。
201	3月2日(木)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会	学生スタッフに寄る東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会
202	3月4日(土)	「災害時寄り添いサポーターの会」勉強会(登壇)	「災害時寄り添いサポーターの会」の勉強会にチーム・オレンジが登壇。活動紹介と防災カルタを行った。
203	3月7日(火)～ 9日(木)	東北被災地スタディツアー	震災学習・風化防止を目的として、岩手県・宮城県の被災地を巡るスタディツアー
204	3月13日(月)	法政大学・関西大学コラボ企画 スポーツ×ゴミ拾い	拾ったゴミに点数がついており、拾ったゴミの分だけポイントを加算。取得ポイントを競う新感覚のゴミ拾い企画
205	3月13日(月)	バイタルプロジェクト子供食堂ボランティア	NPO法人バイタルプロジェクトが行っている子供食堂の運営補助ボランティア
206	3月15日(水)	Ocha no Jikan (ベイラー大学とのオンライン交流会)	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
207	3月15日(水)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
208	3月15日(水)	エコキャップ分別ボランティア	回収したエコキャップの分別ボランティア
209	3月16日(木)	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
210	3月下旬～	防災食体験(防災食の配布)	千代田区社会福祉会経由でいただいた防災食300職分を学生に配布。チーム・オレンジ作成の防災リーフレットも配布
211	3月25日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室(オンライン)	脳性麻痺の子供のCPサッカーのサポート
212	3月27日(月)	防災食配布準備ボランティア	N T T ビジネスアソシエ株式会社様から頂いた防災食を学生に配布するための袋詰め準備ボランティア

210 プログラムに延べ 3,584 名が参加

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立 女子	東京 家政	二松 学舎	明治	関西	三輪田 学園	学生数 合計	その他 (職員、オブザーバー等)
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、 九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店 街	1							1	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	1							1	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	9							9	
VSP、NPO 法人伝統工芸つくも神	市ヶ谷キャンパス周辺	15							15	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	Zoom	3							3	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	イトーヨーカドー大井町 店屋上	1							1	
一般財団法人学生サポートセンター、 VSP	新宿NSビル30階 スカイカンファレンス ルーム	2							2	
高円寺子供食堂	高円寺子供食堂	2							2	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	3							3	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺	14							14	
VSP	台東区浅草駅周辺	25							25	
チーム・オレンジ	大内山校舎4階Y404 教室	22							22	
東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッ フ、東京メトロ、日本ケアフィット共育 機構	大内山校舎4階Y402 教室	12							12	その他関係者：8名
チーム・オレンジ、災害時寄り添いサポ ーターの会	かがやきプラザ4階 会 議室	3							3	
チーム・オレンジ	宮城県及び岩手県沿岸部	35							35	
VSP、関西大学ボランティアセンター学 生スタッフ	外濠校舎3階S305教 室	12					13		25	
VSP、NPO 法人バイタルプロジェクト	荒川区「吉まぐれや」	3							3	
VSP、バイラー大学、テキサス大学、西 南大学他	Zoom	5							5	他大学参加者：15名
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	7							7	
VSP	外濠校舎527・528会議 室	7							7	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、 九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店 街	6							6	
チーム・オレンジ	外濠校舎1階メディアラ ウンジ	150							150	人数は配布食数
特定非営利活動法人 OluOlu、VSP	Zoom	1							1	
チーム・オレンジ	外濠校舎523～526会 議室	3							3	



# 01. エコキャップ分別・回収ボランティア

1. 日程 2022年4月～2023年3月
2. 場所 市ヶ谷キャンパス各校舎、ペットボトル回収場所

## 3. 概要

VSPが定例活動として、毎月行っているエコキャップ分別・回収ボランティアは、今年も多くの学生が参加しました。学内で回収されるキャップは、回収可能なキャップとそうでないものに分ける分別活動を行い無料で引き取ってくださる業者さんにお渡しします。そのエコキャップはリサイクル素材の売却益より1kgにつき2円を、世界の子どもたちにワクチンを（JCV）にワクチン購入代金へと寄付されます。数年前からキャップを回収する際、数量などを記録しているため、回収量の変化を見る事ができ、参加者の活動に対する意識も変わったように思います。

## 4. 学生参加者数 のべ121名

日程	参加人数	日程	参加人数
4月15日(金)	22名	10月13日(木)(回収)	6名
5月17日(火)	11名	10月17日(月)(分別)	5名
6月10日(金)(分別)	10名	11月10日(木)(回収)	8名
6月15日(水)(回収)	10名	11月14日(月)(分別)	2名
7月7日(木)(分別)	6名	12月15日(木)(回収)	5名
7月14日(木)(回収)	6名	1月16日(月)(回収・分別)	8名
9月15日(木)(回収)	15名	3月15日(水)(回収・分別)	7名

## 5. 運営学生の感想

ペットボトルキャップの回収と分別を通じて、「手軽にできるボランティア」を広めるために活動をしてきました。初めてのボランティア活動として参加してくださる方もいたため、ボランティアへの足掛けとしていい機会になっているのではないかと思います。エコキャップ活動が無ければ関わりのなかった人たちと交流できたのも良かったです。学年も学部も全く異なる方々のお話は毎回新鮮で、とても楽しかったです。今後も、身近なボランティア活動として様々な人に参加してもらえるような活動を目指し、エコキャップ回収・分別の意義や意味についてより深く考えられる企画にしていきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科2年 富島 祐菜

## 6. 参加学生の感想

ペットボトルキャップを回収し、分別する過程を通して、集められたキャップの量から協力してくれる方の多さを感じられました。また、気軽にできるボランティアとして参加する方もおり、他学部や他学年の学生と交流する良い機会になっているように思いました。回収したキャップでどのように社会に貢献できるのか詳しく知りたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科1年 高田 結衣

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター 学生スタッフVSP 企画

### エコキャップ回収ボランティア 募集

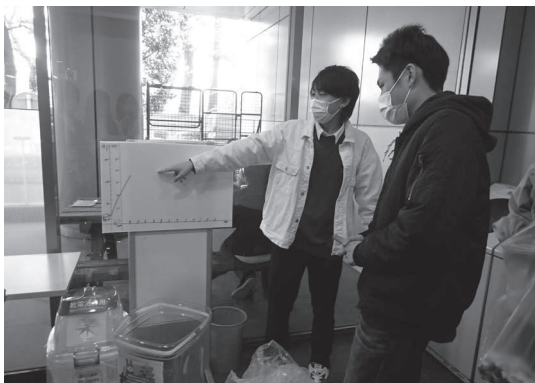
他学年・他学部の人とも友達になれる！

キャップを集める、分けるボランティアに加えて、「そこから何が出来るか？」を皆さんと考えていきます！環境ボランティアに興味のある方、是非ご参加ください！！

【日時】  
**4月15日(金)キャップ回収(キャップ分別)**  
12:25～12:55 お昼休み  
★12:25 市ヶ谷ボランティアセンター集合

VSP(ボランティア支援プロジェクト)では学生の皆さんが楽しくボランティアできるよう、メンバーと職員が企画を立案・実施しています。

●お申込は… ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp メールで  
●お問合せは… 市ヶ谷ボランティアセンター (外堀校舎1階学生センター内)  
TEL : 03-3264-9516 メール : ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



グラフで回収量を比較



交流しながらエコキャップ分別の様子

# 02. キャンパス周辺清掃ボランティア

1. 日程 2022年4月～2023年3月（基本は毎月1回 昼休み）

2. 場所 市ヶ谷キャンパス周辺（大学周辺、神楽坂、靖国神社周辺）

### 3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ VSP 主催。毎月1回、日程や清掃場所を決め清掃をしています。時間は30分、60分両コースを設け、神楽坂や靖国神社周辺などキャンパスの周辺を知ること目的とし、学生同士の交流という成果も得ることができました。学生スタッフ VSP のメンバーが、アルコール消毒やビニール手袋の使用、少人数でのグループ分けなどの感染予防対策を施し、活動しました。

### 4. 学生参加者数 のべ119名（3月8月は長期休暇期間のため中止）

日程	参加者数
4月28日（木）	15名
5月30日（月）	15名
6月30日（木）	15名
7月27日（水）	10名
9月27日（火）	20名
10月27日（木）	16名
11月24日（木）	5名
12月22日（木）	雨天中止
1月25日（水）	9名
2月20日（月）	14名

### 5. 企画学生の感想

キャンパス周辺清掃に参加してみて大学周辺で見つけられるゴミの多さを知ることができました。周辺清掃では目に映るゴミを回収することで、環境を良くしているという実感を得ることができました。また一緒に参加している人とのコミュニケーションができる場でもあり、やりがいを共有する良い機会となりました。参加することで環境をきれいにすることだけでなく、他の参加者と分け隔てなく交流するよききっかけとなり、自分の成長につながるものだと感じ、継続していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 2年 薄井 春彦

### 6. 参加学生の感想

一般参加として複数回参加させていただきました。市ヶ谷キャンパス周辺は一見するとゴミが少ないように見えますが、参加すると多くのゴミが落ちていることに気づき、毎回活動のしがいがあると感じます。また、清掃活動には VSP の方々のほか、一般参加の学生も多く参加しているため、そこでの他学部・他学年の方々との交流にも参加意義を感じました。この活動は一人でも気軽に参加することができるため、今後も継続的に参加したいと思います。

人間環境学部人間環境学科 3年 藤 龍斗

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ (VSP) 主催  
**地域清掃ボランティア**  
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。  
 「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽にできるボランティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

市ヶ谷キャンパス周辺清掃  
 法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトル飲料をプレゼント!

×九段・靖国地区清掃×  
 地域の町内会の方、千代田区の福祉の方等と一緒に、地域パトロールを兼ねた清掃活動を行います。(毎月20日前後)

**5月30日 (月)**  
 12:25~12:55  
 12:25~13:25

**5月19日 (木)**  
 15:30~17:00

※参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターでお申込みください。

お申込・お問合せ  
**市ヶ谷ボランティアセンター** (外濠校舎1階・学生センター内)  
 【電話】03-3264-9516 【e-mail】ichigayavo-apply@ml.hosei.ac.jp  
 【開室】月～金 (祝日除く) 9:00～17:00



交流しながら清掃活動



靖国通りにて活動する様子

## 03. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

1. 日程 2022年4月～2023年3月（基本は毎月第3木曜日）
2. 場所 九段さくら館→靖国通り周辺→市ヶ谷駅周辺→九段さくら館
3. 概要

毎月第3木曜日に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町警察署の職員、九段商店街、九段地域の小学校PTAの方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。地域や警察署の方たちと話をしながらの清掃は、普段知らない大学周辺を知ることができ、学生にとっても楽しいボランティアとなっています。

### 4. 学生参加者数 のべ47名

日程	参加者数
4月21日（木）	6名
5月19日（木）	9名
6月16日（木）	7名
7月21日（木）（中止）	5名（自主参加）
9月15日（木）	6名
10月20日（木）	2名
11月17日（木）	7名
12月15日（木）	4名
1月19日（木）	1名
2月16日（木）	冬季休暇中のため不参加
3月16日（木）	6名

### 5. 参加学生の感想

九段靖国清掃には、大学生だけでなく大学院生や年配の方など、幅広い世代の人が参加しました。清掃活動を通して様々な年代の人と交流をすることで、人脈を広げ、新たな気づきを得たりすることができました。また、清掃活動中に地域の方から感謝の言葉をいただくことができました。自分が社会に貢献しているという実感を得ることができて、やりがいを感じました。この清掃活動に参加する前までは、日々の生活で街中を歩いているときに、路上にポイ捨てされているゴミを意識することはありませんでした。しかし、ゴミ拾いに参加して大量のゴミを目の当たりにしたことで、ゴミの問題の深刻さを痛感しました。今後は、ゴミを拾う活動だけでなく、資源の使い方を見直すことでゴミの量を削減したり、ポイ捨てを抑止したりするような活動にも取り組んでいきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 渡邊 修

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催  
**地域清掃ボランティア**  
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。  
 「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽に行けるボランティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

キャンパス周辺清掃  
 5/16(木) 12:25~12:55  
 5/23(木) 12:25~13:25

九段・靖国通り地区清掃  
 6/16(木) 15:30~17:00

※九段・靖国通り清掃参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターまでメールでご連絡ください

QRコード  
 キャンパス周辺清掃の応募先  
 ご参加もお待ちしております!

お申込・お問い合わせ  
 市ヶ谷ボランティアセンター（外環駅舎1階・学生センター内）  
 【電話】03-3264-9516 【e-mail】shiwawv-ac@mhosei.ac.jp  
 【開催】月～金（祝日除く）9:00～17:00



靖国通りでの清掃



清掃活動の前に集合写真

# 04. 高円寺子ども食堂

1. 日程 毎月第1、3土曜日

2. 場所 高円寺子ども食堂

### 3. 概要

杉並区にある「高円寺子ども食堂」は毎月第1・3土曜日に開かれており、毎回多くの子どもたちや保護者の方が訪れています。今年度の主な活動内容はフードパントリーのお手伝いを行いました。お菓子やレトルト食品などの袋詰めやお弁当の包装をして、希望する子どもたちにお渡ししました。地域や他大学のボランティアの方とも交流が持てることもあり、今後も継続したい活動の一つとなっています。

### 4. 学生参加者数 延べ20名

日程	参加者	日程	参加者	日程	参加者
5月21日(土)	2名	9月17日(土)	2名	12月17日(土)	1名
6月4日(土)	2名	10月15日(土)	2名	1月21日(土)	1名
6月18日(土)	2名	11月19日(土)	2名	2月4日(土)	2名
9月3日(土)	2名	12月3日(土)	2名	2月18日(土)	2名

### 5. 参加学生の感想

子ども食堂の存在はニュースなどで以前から知っていたが、実際に訪問したのは今回が初めてでとても貴重な機会でした。新型コロナウイルスの影響で食事提供を行うことを控える状況下にあっても、食料品やお弁当を配布するという新しい形で工夫しながら子ども食堂の活動を続けておられました。今回は食材を家庭ごとにお渡しする袋詰のお手伝い等をさせていただきました。運営している方々が用意した食材だけでなく、近隣の中学校の修学旅行のお土産としていただいたもみじ饅頭も配布したり、地域間の繋がりの強さを感じました。保護者同行で子ども食堂に来る方もいれば、子供一人で作る方もいらっしゃる家庭環境によって様々であると思いました。コロナ以前のような運営方法に早く戻せれば良いなと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部環境デザイン工学部 1年 関下 桃可



活動に参加した学生



地域などから用意された食材

## 05. Oluolu 障がい児サッカー教室

1. 日程 2022年4月～2022年3月
2. 場所 品川区中央公園、大井町イトーヨーカドー屋上など
3. 概要

毎月1～2回（天候などにより異なる）品川区の特定非営利活動法人OluOluの方が運営を行っているCPサッカー・障がい児サッカー教室に参加しお手伝いさせていただいております。

OluOluのCPサッカー・障がい児サッカー教室は、脳性まひ、もしくは手足に何らかの障がいがあり、独歩ができる小・中学生または、身体の障がいや、発達障害により運動が苦手な子どもたちがスポーツを楽しみ、心も体も笑顔になれる場を提供することを目的としています。

私たちは、理学療法士や児童の発達に関する有識者であるコーチの方々と共に、学生ボランティアとして子どもたちが安全に活動できるようサポートしたり、子どもたちと一緒に楽しんでサッカーをしています。

### 4. 学生参加者数 のべ25名

日程 (月1～2回実施)	参加人数 (延べ人数)	日程 (月1～2回実施)	参加人数 (延べ人数)
4月	1名	10月	5名
5月	2名	11月	5名
6月	1名	12月	2名
7月	3名	1月	2名
8月	0名	2月	1名
9月	6名	3月	1名

【Oluoluについて】

Homepage: <https://www.oluolusports.org/>

FB: <https://www.facebook.com/oluolulsports/>

### 5. 参加学生の感想

子どもたちと一緒にスポーツを楽しみたいという気持ちで参加しました。あまり関わることはない小学生の子どもたちとどのように接すればいいのかと不安でしたが、参加回数が増えるごとに、子どもたちと話すことが多くなり距離を縮めることが出来ました。僕のことも元気にしてくれるほど子どもたちは毎回元気いっぱいです。また、参加するたびに子どもたちの成長を身近に見ることができ、自分もまだ成長できるなと感じることができました。これからも継続的に参加していきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 理工学部経営システム工学科1年 山本 樹輝



活動の様子



集合写真

## 06. バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所

1. 日程 2022年4月～2023年2月（毎週月曜日・全38回）

2. 場所 Zoom、吉まぐれ屋（荒川区）

### 3. 概要

VSPでは2020年度から、NPO法人バイタル・プロジェクト協力のもと、オンライン上で子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。今年度も引き続き、毎週月曜日にZoomを用いて、子ども食堂にお弁当を取りに来る子どもたちとクイズや絵しりとり、ワードウルフなどのゲームで交流しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策が徐々に緩和されてきた為、実際に子ども食堂がある荒川区の吉まぐれ屋に赴き、直接子どもたちと交流する機会が増えました。2月にはイベントのお手伝いをし、歯と口の健康に関する紙芝居や工作を行いました。昨年度はオンラインにより人との繋がりの大切さを感じましたが、今年度は直接交流する機会が増えた事により、人の温かさを感じた1年となりました。今後は対面での交流を主に行い、ニーズに応じてオンラインでの取り組みも行う予定です。対面ならではの臨場感とどこにいても繋がれるというオンラインの利点を上手く組み合わせ、子どもたちが他者とコミュニケーションを取ることができ、自分を肯定できる居場所づくりを模索していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科 2年 佐藤 莉乃

### 4. 学生参加者数 のべ86名

### 5. 企画学生の感想

今年1年間の活動は、昨年と比べて子ども食堂に実際に行って子どもたちと交流することができた。そのため、より子どもたちと親密になれたように思う。今後は対面でのイベント実施に向けて活動することになったが、オンラインツールを使っただけのコミュニケーションの利点も使って、子どもたちの将来に活きるような充実した時間を提供したいと思う。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科 2年 藤倉 まなみ

この企画に参加したことで、大学へ入学以後、初めて子供たちと交流する機会ができました。活動を始めた当初は、zoomを介してのオンライン上で交流をしていましたが、クイズや絵しりとりなど、できることは多様にあることを知り、非常に充実した経験になりました。感染対策が多少緩和されることを踏まえ、今後は対面での交流を主体とする予定であることもあり、これから子供たちにさらなる「楽しい居場所」を提供していきたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科 1年 早川 大心



オンラインでの活動風景



イベントでのお手伝いの様子

## 07. ベイラー大学「お茶の時間」

1. 日程 2022年4月8日～4月22日、9月20日～11月15日

2023年月日～月日（ベイラー大学授業期間中に実施）

2. 場所 Zoom

### 3. 概要

本企画は日本語を学ばれているアメリカのベイラー大学の学生とzoomを介して行う日本語交流会で、国際交流ボランティアの位置づけで行っています。グループに分かれて日本語を交えながら交流をし、時には日本語を教えてあげるなど、アットホームな雰囲気のもと新たなつながりを構築することができます。

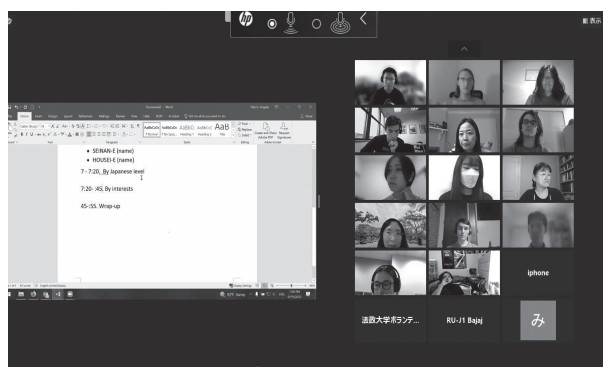
目的は2つあり、1つ目は日本語を母国語としている人が参加することでベイラー大学の学生への刺激を与えられること、2つ目は異文化のリアルな体験を感じること、以上2つを掲げています。西南学院大学等他大学も加わり、より充実したプログラムになっており、今後も継続的に実施したい企画です。

4. 学生参加者数 延べ18名

### 5. 参加学生の感想

法政大学が、大学外の機関と繋がることができる、それがVSPの特徴だと私は感じています。ベイラー大学との国際交流ボランティア企画は、その中でも海外と繋がることができる珍しい企画です。交流会では様々な海外の学生さんに出会うことができました。日本語が上手な方、日本に興味のある方、また単純に交流を楽しみたい方などと一緒に、和気あいあいとおしゃべりすることができました。事前に用意されているテーマに関して話すという形なので、会話に困ることもありません。私はボランティアをしている感覚はほとんどなく、毎回楽しませていただきました。ぜひオススメしたい企画です。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部英文学科1年 佐々木 澄香



交流が深まるよう工夫して進行が行われた



グループに分かれて日本語を交えながら交流をはかる

# 08. 防災リーフレット

1. 日程 2022年4月（説明会で配布）11月（大学祭期間に配布）3月～（防災食配布期間に配布）

2. 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

### 3. 概要

チーム・オレンジ初の試みとして防災リーフレットを作りました。第1弾では手に取った学生に身近なものとなるように『もし大学で大震災が起きたら』というテーマを設定し、メンバーみんなで内容を考えていきました。大学内の防災設備や防災備蓄などを載せているので、学生の身近なところから防災について知ることができるものになったと思います。第2弾では「日頃から出来る防災について」をテーマに設定し作成しました。チーム・オレンジの防災かるたも交えて楽しく防災について学べる内容となっております。第1弾、第2弾ともに形は、手に取りやすいように3つ折りのコンパクトなものにしました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ法学部法律学科3年 石田 里菜

4. 企画学生数 6名

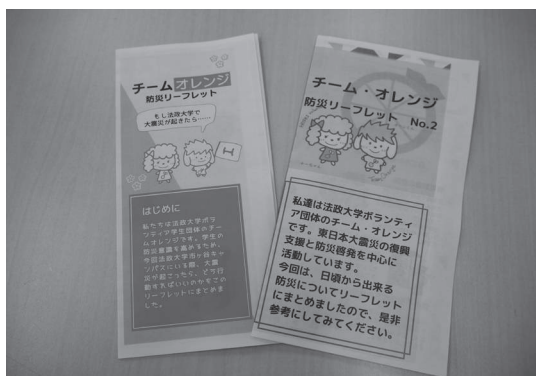
### 5. 企画学生の感想

リーフレットを作るとなると最初の会議の時に、どんなリーフレットを作るか1から考えたのですが、みんなで意見を出し合って、それを上手くまとめることが難しかったです。盛り込みたいことが色々ありましたが、今回は法政大学の学生に配ることを目的としていたので、防災を身近に感じてもらえる様に『もし大学で大震災が起きたら』というテーマに沿った内容に絞っていきました。文章やデザインなどはページごとに各担当の子に任せたので、みんなで作り上げたリーフレットができたと思います。

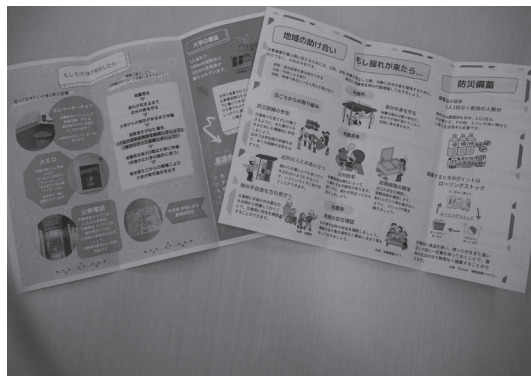
ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ法学部法律学科3年 石田 里菜

この防災リーフレットは、より多くの方々に防災に関する情報を伝えたいという思いで作成しました。防災リーフレット第2弾は、学祭で配布をし、法大生以外の一般の方にもこのリーフレットを配布できたと思います。今回は“日頃から出来る防災”をテーマとし、防災の知識を増やしてもらう事を目的としました。また、東京備蓄ナビや避難所マップなど、防災に関する役立つサイト情報も掲載し、実際に調べて書き込めるような工夫もしました。これらからも様々な防災啓発の方法を考え、多くの方に防災について関心を持ってもらえるような活動をしていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ文学部地理学科3年 宮本 花穂



新入生説明会や大学祭などで配布



写真や絵が入り見やすいリーフレットになりました



## 09. 春のボランティア・KYOPRO WEEK& 防災食体験

1. 日程 2022年4月11日(月)～15日(金)

2. 場所 外濠校舎1階メディアラウンジ

### 3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフの「VSP」、「チーム・オレンジ」、「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」及び課外教養プログラムスタッフ「KYOPRO」が合同で4月11日(月)～15日(金)までメディアラウンジを使い「春のボランティア・KYOPRO WEEK(以下春ボラ)」を実施しました。また、並行してチーム・オレンジでは企業様から譲り受けた防災食を配布する「防災食体験」も行いました。

春ボラでは5日間、各団体の紹介のパネル展示と個別相談会(昼休み)を実施し、ボランティアや課外教養プログラムに興味のある学生が足を止めてパネル展示を興味深く読んだり学生スタッフから話を聞いたりしていました。この春ボラは主に活動学生スタッフの活動を学内に周知、企画に参加してもらう目的で行われていますが、展示見て実際に団体に入会した学生もいるなど、スタッフの勧誘にも良い機会となりました。

春ボラと並行して行った「防災食体験」では1食分の防災食とチーム・オレンジが作成した防災リーフレットを配布しました。春ボラ期間中に150食分の防災食とリーフレットを学生に配布することができ、防災食の「今」を学生に感じてもらうとともに大学で被災した時のことを学生に考えてもらうことができたのではないかと思います(防災食体験は春ボラ終了後も行い合計300人に防災食とリーフレットを配布しました)。

市ヶ谷ボランティアセンターでは引き続き多くの学生にボランティアセンターの存在を知ってもらい、大学のボランティアの機運醸成に繋がる活動を行っていきます。

市ヶ谷ボランティアセンターでは引き続き多くの学生にボランティアセンターの存在を知ってもらい、大学のボランティアの機運醸成に繋がる活動を行っていきます。

4. 生参加者数 15名(主に展示の企画のため学生スタッフのみ集計)



掲示物を見る学生



学生スタッフが防災食を準備する(防災食体験)

# 10. 市ヶ谷キャンパスツアー 2022

1. 日程 2022年4月7日(木) オンライン 4月13日(水) 対面

2. 場所 オンライン:ZOOM 対面:市ヶ谷キャンパス

## 3. 概要

市ヶ谷キャンパスにはいくつかの校舎があり、授業によって使う校舎は異なります。どの校舎をどんな時に使うのか、どんな施設があるのか、分からずに迷ってしまう新入生が毎年続出します。そこで、私たち市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは新入生向けにキャンパスツアーを企画しました。オンラインとオフラインの両方を実施し、企画に参加しやすいようにしました。

当日は、企画メンバーがもっと早くに知っておきたかった場所を厳選して紹介しました。参加者から質問も多くいただき、活発的に情報共有ができたと思います。徐々に学校に来る機会が増えてきていますが、キャンパス内にはまだまだ知らない便利な施設があります。今回のキャンパスツアーが、学校の施設を有効活用するための助けになったのであればとても嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科 2年 富島 祐菜

4. 学生参加者数 ZOOM:12名 対面:9名

## 5. 企画学生の感想

総合的にみて、オンラインもオフラインも企画までに至る過程でメンバーとともに積極的な指摘をしたことが結果的にいい方向へと繋がった。また、参加者を楽しませるためにリハーサルにおいても試行錯誤を重ね、いかに退屈させないかを考えた点はよかった。

参加者からも知らないキャンパスを知れて良かったとの声や体験談を語ってくれたことで理解しやすかったとの声をいただいたので、次回も繋がれたらいいと思う。コロナ禍において人と接することの需要はあるだろうから、今回企画して改めて人との関わりを強く持とうと思った。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 3年 杉山 裕都

## 6. 参加学生の感想

正直、校舎に行って階層の案内図を見ないとわからなかったもので、ありがたかったです。

いろいろな名前の部屋があって覚えられませんが、なんとなく方向がわかるだけでも本当に助かります。

ありがとうございました。

人間環境学部人間環境学科 1年(対面参加)



実際に歩いているようなリアルさを実現



大内山校舎の案内をする様子

# 11. 2022 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会

1. 日 程 2022 年 4 月 9 日 (土)
2. 場 所 大内山校舎 6 階 Y603.604.605
3. 概 要

感染症の状況が少々落ち着いてきたため、今年度の説明会は対面で実施することができました。説明会に参加した団体は、VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、課外教養プログラムプロジェクト (KYOPRO) の 4 団体でした。

今回の説明会は 2 部制となっており、前半はスライドを用いた各団体の説明、後半は団体ごとにブースを設置して企画疑似体験や個別相談などの交流会を実施しました。

前半は、各団体 10 分程度で人数構成や特徴、活動内容などを新入生にスライドを用いて説明しました。活動していくと得ることができるグッズを、実際に持ってきた団体などもいて、工夫がみられました。

後半は、多くの新入生が企画を体験したり、団体への疑問点を質問したりと積極的に参加している姿がみられました。「入り方は?」「加入したいです」等の声が交流会では多く聞こえてきたことも印象的でした。

今回の説明会は、各団体の代表者が集まり、新入生に何を伝えたいか、新入生が興味を持つ内容は何か、幾度かのミーティングを重ねた上で実施しました。当日は新入生の流れを見ながら臨機応変に対応しました。80 名以上の新入生の参加もあり、各団体への新入生加入につながる企画になったのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 3 年 田中 みのり

4. 参加人数 110 人

## 5. 企画学生の感想

KYOPRO では、参加者の方が団体の雰囲気や実際の活動についてイメージしやすいように、心掛けて準備を進めてきました。準備を進めていく中で不安なこともありましたが、説明会後半の企画では想定していたよりも多くの方に参加していただき、本当に嬉しかったです。また、参加者の方とのコミュニケーションを通じて企画のニーズを知る事が出来ました。今後は、参加者の方からのニーズを参考にしつつ、法大生の「学びたい!」という思いに一層応えられるように、日々努力していきたいです。

課外教養プログラムプロジェクトスタッフ 人間環境学部人間環境学科 3 年 小谷 直輝

説明会前半の団体発表の時、新入生の皆さんがとても真剣で、必死にメモを取ってくれていたのでもっとうれしく感じました。後半の部で自団体に一気に人が来たときは、こんなにも自分の大好きな団体に興味を持ってくれた人がいたんだ!と驚きとともに有難みを感じました。来てくれた人全員に丁寧な対応ができたかはわかりませんが、その場で入会してくれた子もいて、自分たちの団体がこうやって続いていくんだ…と幸せを感じられる一日でした。

ボランティアセンター学生スタッフチームオレンジ 法学部法律学科 3 年 石田 里菜

今回複数の団体とともに企画に初めて関わりました。企画準備の仕方、進め方が団体ごとに様々で勉強になる部分が多くありました。ボランティアの魅力を知ってもらうこと、楽しんでもらうことを念頭に交流会ではポッチャを実施しました。ポッチャの周知、パラスポーツボランティアの必要性など学んでくれたように感じました。交流会を通して新入生同士のコミュニケーションも見受けられました。このボラセン説明会の参加をきっかけに何かの行動に繋がってくると嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科 2 年 小林 咲穂

当日はたくさんの新入生のみなさんが参加していただき嬉しかったです。事前の準備の甲斐がありました。メトロでは興味を持ってくれた



大学と協力しながら活動・プロジェクトを進めていく「学生団体」についての説明会を開催します。当日は実際に活動している学生スタッフとも交流することが出来ます。皆さんの参加をお待ちしております!!

### 『参加団体』



### 『対象者』

2022年度入学者

### 『参加方法』

参加フォームよりお申込みください



4月9日 (土) 大内山校舎6階 Y603.604.605  
13:30~15:30 (途中退出可)

—お問い合わせ先—  
市ヶ谷ボランティアセンター (外濠校舎1階学生センター)  
TEL:03-3264-9516 MAIL:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

新入生向けの企画を行ってから個別相談を行うという流れで運営してみました。特に個別相談ではメトボラメンバーも新入生も楽しそうに話していたのが印象的で良かったと思います。メトボラメンバーがたくさん来てくれたからこそ成功だと思うのでメンバーに感謝します。6月には研修会があります。今回の説明会に来てくれた新入生がより多くメトボラに参加してくれるように今後も新企画を実施していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ 人間環境学部人間環境学科3年 齊藤 総一郎



多くの学生が参加



団体ごとに活動内容などを説明

## 12. 動物愛護企画 保護犬猫～私たちにできることはなんだろう～

1. 日時 2022年4月21日(木) 16:50～18:50

2. 場所 外濠校舎5階523～526会議室

### 3. 概要

普段なかなか知ることのできない保護犬猫の現状を知ってもらうとともに実際に自分たちにできることは何かを考えるため、今回保護犬猫企画を実施しました。二部構成とし、前半では、まず自分の持っている知識の中で私たちにできることは何かをグループに分かれて話し合い考え、講師としてNPO法人みなしご救援隊犬猫譲渡センター様をお招きし、講義形式で保護犬猫の現状といま・10年後・未来においてそれぞれ私たちができることを教えていただきました。後半では、保護犬が大学に来校し触れ合い体験、保護猫は東京支部・広島支部の譲渡センターとZoom中継で見学、と保護犬猫の見学を行い、実際に自分の目で保護犬猫を見ることで保護犬猫に対する理解を深めました。その後グループで感想共有、講義前との意識の変化、自分たちが飼う前後に考えなければならぬことは何か、などを中心にディスカッションを行い、全体で共有し講師の方から講評もいただきました。本企画の参加者の方の感想の中には、初めてこのような企画に参加した人が多かったようで、勉強になった、行動に移していきたいという前向きな感想が多々ありました。今後もVSPでは動物企画を定期的実施していきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 学部政治学科3年 萩原 美優

4. 学生参加者数 26名

### 5. 企画学生の感想

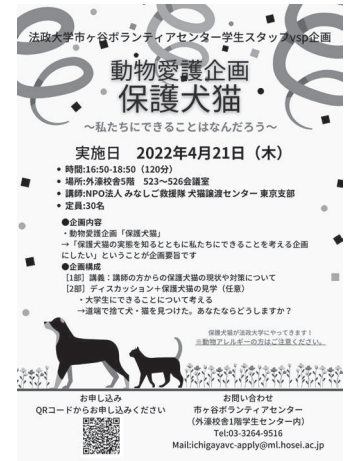
企画を通して「知らないことを知ることができた」という声が多く、保護犬猫について知ってもらうことを企画として実施することができてよかった。講義を聞き知識や現状を知ったうえでディスカッションでは意見共有を行い、多様な視点から保護犬猫のために何ができるのかを考えることができて有意義な時間となった。今回の企画を通して、身近な人に周知するなど一人でも多くの方が動物愛護のために何か行動を起こすきっかけとなったら嬉しい。企画に携わり得るものが多く、良い経験となった。ありがとうございました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科3年 福田 香緒里

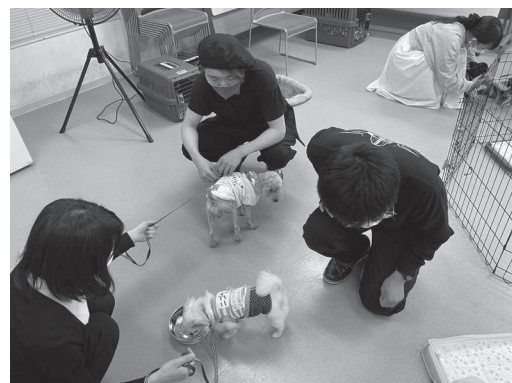
### 6. 参加学生の感想

大学でボランティアに参加するのは初めてでしたが、実際に活動をしている人からのお話はとても貴重で説得力がありました。自分は今犬を一匹飼っているのですが、保護犬猫を引き取ることは現状難しいのですが、今日学んだことを家族や友人に話したりSNSで発信したりとできることはあるので、勇気を持って行動したいです。また、個人的に犬派なのもあり猫についての知識が全然無いと感じました。今日の企画を通して保護猫の魅力を実感できたので、これから犬だけでなく猫の問題についてもしっかり目を向けていきたいです。

グローバル教養学部グローバル教養学科3年 平田 萌



NPO 法人みなしご救援隊による講義



保護犬とのふれあい 個体の性格をふまえコミュニケーション

## 13. はじめの一步カフェ～環境問題編～

1. 日程 2022年4月25日(月)
2. 場所 外濠校舎5階523～526会議室
3. 概要

「硬い、難しいといったイメージのある身近な社会問題について気軽に話し合おう」「問題解決のための1歩を今日から踏み出そう」をテーマに本イベントを企画、実施しました。コロナウイルスによる規制が緩和されたため、今年是对面での開催となりました。まずはアイスブレイクを行い、自己紹介をしました。その後、「地球温暖化を防ぐために普段意識していること、これから意識したいこと」について話し合いました。そして「今日から私が地球温暖化を防ぐためにすること」を紙に書いてもらい、共有しました。普段触れる機会の少ない地球温暖化について活発に話し合い、共有することができ、問題解決のための「1歩」を踏み出す場を提供できたのではないかと思います。今後も「はじめの1歩カフェ」を実施したいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科 太田 健介

4. 学生参加数 17人

### 5. 参加学生の感想

- はじめの一步カフェという名前だったからというのもあって関心はあるものの知識がなかったが、一歩踏み出して参加できてよかった。グループの話し合いに関しては企画の方がうまく進めてくださり楽しくできた。他の人が普段していることや他のグループの意見を聞いて、自分と違う意見もありおもしろかった。テーマについてもう少し絞った具体的なものがあたら、よりためになる企画になったかなとも思った。
- 私は今回の企画に参加して、改めて環境について考え直すことができてよかったです。普段はあまり環境問題について考えることがなかったので、自分が今何をしているのか、これからどんなことができるのか、考えるのは少し難しかったけど、グループの人と話し合いながら楽しく考えることができました。今日考えたことをぜひこれからの実生活で実践してみたいです。またVSPの企画にぜひ参加したいです。



班ごとに分かれて意見交換



自分が見つけた「はじめの一步」を発表

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター (VSP) 主催

## はじめの1歩カフェ

～環境問題編～

4/25 (MON)

17:00～18:00

場所：523～526会議室（外濠校舎）

定員：30名

### はじめの1歩カフェとは？

- ・身近な問題について話し合い、今から自分にできることを考えよう！というイベントです
- ・今回のテーマは「地球温暖化を防ぐために今日から私たちができること」です！

### 申し込み・お問い合わせ

Tel:03-3264-9516

Mail:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

## 14. 今こそ献血へ①

1. 日程 2022年4月27日(水) 28日(木)

2. 場所 富士見坂庭園

### 3. 概要

令和4年4月27日・28日に、日本赤十字社の方たちと献血企画を実施しました。今年度から対面授業が増加したこともあり、たくさんの方がご来場し、合計で100名以上の方が献血にご協力くださいました。ご協力して下さった皆様に感謝申し上げます。

今現在、血液を求めている方が多くいらっしゃるのとこのことで、日本赤十字社さんも今回の盛況を非常に喜んでおられました。今後も七月に献血企画を実施する予定ですので、引き続きたくさんの方のご協力をお待ちしております。今回の献血企画の課題として、ご来場された方をお待たせしてしまったことなどが挙げられましたので、今後の改善点として検討していきます。また、今後の活動として、東京都献血推進連盟さんとも提携していけたらと考えております。

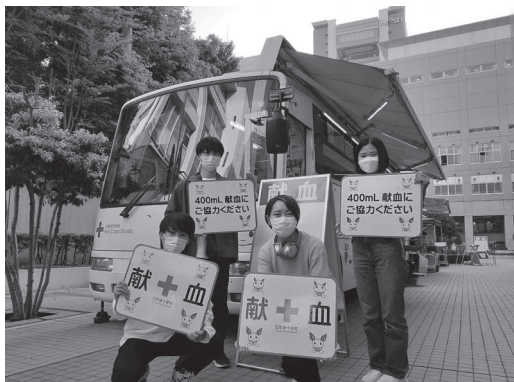
ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科 佐々木 澄香

4. 参加人数 135人(内献血者数109人、26名は献血できず)

### 5. 参加学生の感想

・初めての献血でしたが、看護師の方が優しく丁寧に対応して下さいととても意心がよかったです。献血中もお話をしてくださって、リラックスして献血をすることができました。400mlというのを想像して少し緊張しましたが、少しチクッとするだけであとは問題なかったのでよかったです。今まで特に世に貢献した事がなかった気がしますが、ここでやっと貢献できて嬉しいです。ちょっと献血マニアになりそうです。またこれからもやらせていただきます!

・注射を刺すのも、自分の血を見るのもとても怖く、とても不安でしたが受けてみて、看護師の方も血が見えないようにしてくださり、不安が解消し無事終わることが出来ました。今回の献血が初めてですとやってみたいと考えていたのでいい機会を大学の方が準備してくださり良かったです。今後も機会があったら是非献血をしてみたいと思いました。



VSPの献血企画メンバー



たくさんの学生が参加しました

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター (VSP) 企画

# 今こそ

# 献血へ

4/27(水)・4/28(木)

10:30~11:00/12:40~16:50(両日)

場所：富士見坂庭園

コロナ禍により、献血の機会が制限されてしまいました  
輸血を必要とする方のために皆様のご協力をよろしくお願いたします  
お問い合わせ

Mail:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

Tel:03-3264-9516

# 15. Beach Clean Project

1. 日程(講義) 2022年5月13日(金) 17:00~18:30  
(海岸清掃) 2022年5月21日(土) 11:00~12:30(5月14日:雨天延期)
2. 場所(講義) Zoom(ハイフレックス方式), 外濠校舎523-526会議室  
(海岸清掃) 平塚ビーチセンター付近

## 3. 概要

学生に向けて近年深刻化している海の環境問題について考える機会を作ることを目的として本企画を計画した。日本で唯一の海岸美化専門の団体である公益財団法人かながわ海岸美化財団様のご協力のもと、講義企画と海岸清掃を実施した。講義企画はハイフレックス方式で行い、講義を踏まえて「環境問題に関心の無い人へのアプローチ方法」「ゴミを発生させないための具体的な策」についてグループごとにディスカッションをした。海岸清掃は平塚ビーチセンター前にて実施した。雨天のため1週間延期したが、当日も雨天のためできる範囲での活動となり予定よりも早く解散することになった。



ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 守 綾乃

4. 学生参加者数 24名(講義) 19名(海岸清掃)

## 5. 企画学生の感想

今回の企画に参加してくれた学生は、環境問題に関心があり、とても意欲的に講義と海岸清掃に取り組んでくれた。講義では、環境問題に関するディスカッションの時間を設け、それぞれグループが積極的な意見交換が行われ、全体の雰囲気がよく終わることができた。次の日に予定していた海岸清掃は、雨のため次週に延期となったことで、予定が合わない学生もおり、参加人数が少し減ってしまうと思っていたが、予想よりも多くの学生に参加してもらえて安心した。また、当日は時折大雨になる時間もあったが、参加学生は雨の中でも海岸ゴミを一生懸命に拾う姿を見て、心を打たれた。グループごとに別れて活動したことにより、参加学生同士の交流も図れていい機会となった。天気が不安定な時期の開催ということもあり、海岸清掃当日もあいにくの雨に見舞われ、全体の士気が下がってしまうことを懸念していたが、最後の集合写真に笑顔で写る学生をみて、この企画を実施したやりがいを実感した。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 今給黎 優那

## 6. 参加学生の感想

今回の講義を通して、海のゴミのほとんどが客の不法投棄だと思っていたが、実際は川から流れ着いたゴミが全体の7割を占めるということが意外だった。近年はプラスチックのゴミ、特にマイクロプラスチックが非常に増えており、表面上のゴミを取るだけでなく、砂浜の内部にまで細かく流入しているため、掃除が困難であるということも知れた。また、水中花火による発砲スチロールゴミの大量発生に関して、10年前は特に問題とされていなかったことが衝撃を受けた。海のゴミ問題を無くしていくために、ゴミ問題に関心がある人よりも、無関心な人やその中間層の意識を改善するために、どのような策を考えられるかが今後の未来の分かれ道となるのでは無いかと思った。

法学部法律学科3年 鈴木 大聖



公益財団法人かながわ海岸美化財団の講義



神奈川県平塚ビーチセンターにて清掃作業



## 16. 富士山保全ボランティア

1. 日程 2022年5月22日(日)

2. 場所 富士山麓

### 3. 概要

昨年に続き、今年もNPO法人富士山クラブさんのご指導のもと、富士山保全ボランティアを実施することができました。富士山の麓で、環境保全や自然体験活動を行いました。今回は、法政大の学生の他、国立女子大学2名、関西大学4名を含む36名の学生が参加しました。

始めに富士山クラブさんによる活動のご説明を受け、その後1チーム6、7人のグループに分かれて森林保全活動に取り組みました。山に入ったことがあるかという話からご説明が始まり、環境問題や里山、オーバーユーズやアンダーユーズの重要性など様々なこととお話ししました。グループごとに分かれてからは、薪割りや枯れ葉集め、間引きを行ったり、斜面に階段を作ったり、広場の開拓を進めたりとグループごとになりました。休憩時には、高さ7、8mの木登りを行ったり、大きなブランコを乗らせていただいたりしました。今回初めてこのボランティアに参加する学生も多く、最初は緊張している一面も見られましたが、時間が経つにつれ、スタッフさんとも積極的にコミュニケーションを取っており、様々なことを学べたように感じました。都心では体験できないような貴重な体験をし、半日間とても充実した時間を送ることができました。今後も富士山の自然に関わるボランティアを継続していけたらと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科2年 小林 咲穂

4. 学生参加数 36人(法政30名、国立女子2名、関西4名)

### 5. 参加学生の感想

大学での思い出作りにと参加したボランティア活動だったが、想像していたよりも充実した1日だった。普通に暮らしているだけでは感じることの出来ない自然との距離が縮まったように感じた。私の班は薪割りをしたが、思ったよりも力とコツのいる作業でやりがいがあった。割った薪を組んで積み上げる作業も、頑張りが目に見えて形になっていくのを楽しんだ。やらないつもりだった木登りもスタッフの方の後押しで頂上まで登ることができた。今まで生きてきてやってこなかった体験をさせていただいて、新鮮で明るい気持ちになった。この日会った人たちはみんな初めましてだったけど、自然の中での活動を通して関わると、不思議と自分も自然体で居られたし、優しい気持ちにもなれた。一緒に活動していた人たちも輝いて見えた。自然が与えてくれるものは、人間関係にもあるんだなと、魅力的に感じた。本当に参加して良かった。

日帰りで行って、現地でするボランティアに参加したのは初めてで、想像以上に本格的で充実した内容でした。特に班に分かれてのフィールドワークでは、活動中に講師の方に直接質問にお答えいただきとても貴重な機会でした。木を切るということも見た目以上に難しく、職人さんのようにスムーズにはいきませんでした。チームのみんなでやると達成感があり、とても楽しかったです。このような貴重な機会を設けていただきありがとうございました。またぜひ参加したいです。

法政大学市ヶ谷キャンパスボランティアセンター企画

## 富士山保全ボランティア

5/22(SUN) 7:10~21:00

※当日の状況により多少前後する  
可能性があります



内容：保全活動

集合場所：法政大学市ヶ谷キャンパス

定員：本学学部学生40名

参加費：2000円



お申し込み：ichigaya-apply@ml.hosei.ac.jp

締め切り：5/6(FRI) 17:00 (定員に達し次第終了)

※件名欄に「富士山の自然保全活動参加希望」、  
学生証番号、学部学科、氏名、連絡先の記入を

お願いします



富士山クラブの方から説明を受け



のこぎりで木を切る様子



薪割りに挑戦！



活動の後の全員写真

# 17. 外来魚・外来生物駆除について考えよう！

1. 日程 2022年5月24日（火）講義企画

2022年6月4日（土）駆除ボランティア

2. 場所 千葉県我孫子市四つ池（NEC 我孫子事業場内（駆除ボランティア）・Zoom（講義企画）

### 3. 概要

本企画は手賀沼水生生物研究会様の協力のもと、外来生物全般についての講義を5月24日に行い、6月4日には午前中に神奈川県立生命の星・自然博物館主任学芸員の苅部氏より NEC 我孫子事業場四つ池に住む生物に関する講義を受け、午後にはそれらの講義で得た知識を活かし実際に外来魚駆除を行いました。5月24日の講義では外来生物の種類やその危険性、手賀沼水生生物研究会様や国がどのようにして外来生物駆除を行い在来種を守ろうとしているのかについて学びました。講義後には参加者がグループに分かれ感想共有も行いました。6月4日の午前中講義は実際に駆除活動を行なった場所に生息しているオオモノサシトンボや都市開発による在来種の影響などを説明していただきました。午後にはそれまでに学んだ知識も活かしながら外来生物の中でも外来魚に焦点を当て、釣りによってその駆除を行いました。当日は気温が高く、立っただけでも汗をかくような環境でしたが、全員で楽しみながら外来魚駆除を行うことができました。本企画では講義や実地活動のみでなくその両方を行うことにより、知識を経験としてその身に吸収することができました。外来魚を実際に釣り、目にしたことで、より外来種が在来種に与える危険性について肌で感じることができました。8月31日にも同様の実地活動を行います。今後も上記の活動を維持していけるように VSP でも努力していこうと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 山本 流功



4. 学生参加者数 26名（講義企画）ZOOM（法政21名 明治5名）19名（駆除ボランティア）

### 5. 参加学生の感想

（講義企画）

・普段注意して見ていないので、外来種が大変であることの実感がありませんでした。しかし、数字や写真を使って示されるとはっきりと分かりました。それらが生物だけでなく、人間の環境や食べ物にまで影響を及ぼしていることを知り、遠い世界の話では無いということを知ることが出来ました。

文学部文学科 3年

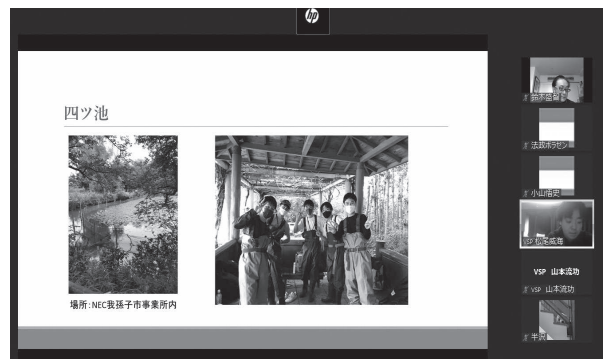
（駆除ボランティア）

・実際に現地に行ってみて、講義だけでは分かりづらい、手賀沼の生態系について知ることができた。釣りを行って、手賀沼に外来種がまだ、沢山残されていることを実感した。今まで、自然環境に人間の手が加わることにあまり良い印象を持っていなかったが、外来種の流入によって、人間が守らないと絶滅してしまう在来種がいるということを知って考えが変わった。新しいことを色々知れて良かったと思う。

人間環境学部人間環境学科 1年



手賀沼水生生物研究会の講義（ZOOM）



VSPが昨年のボランティアの様子を紹介

# 18. 法政大学×関西大学 チーム対抗！遊び感覚でゴミ拾い！?

1. 日程 2022年5月29日(日)
2. 場所 キャンパス周辺(飯田橋エリア、田町エリア)外濠校舎 S305
3. 概要

昨年実施した「チーム対抗!運動しながら素敵な街に!スポーツごみ拾い企画」が好評だったため、もっと良いスポーツごみ拾い企画を作りたい、ボランティアはお堅いものではない!ということを感じてもらいたいと思い、本企画を実施することにしました。そのため今回のスポーツごみ拾い企画は、新たな挑戦として、関西大学さんと zoom を使用し、地域を超えて、合同で実施しました。法政大学と関西大学とは大学周辺の状況が異なることから、前回よりもエリアの数を少なくし、公平に競技が行えるように両校合同チームを作ることにしました。また、ただ清掃をするだけではボランティア感が強いので、楽しめる要素として初めからごみに点数をつけておき、点数が高いチームを優勝とするチーム対抗戦にしました。他にも、両校で交流の機会を設けるためにクイズ大会を実施し、環境についても学んでもらうようにしました。企画当日は、外を歩くだけでも汗が出るくらい暑かったのですが、制限時間内に戻ってこられるようにチームで走ってゴールを目指して楽しんでいる姿を見ることができました。本企画を通して、オフラインだけがボランティアの全てではないことを改めて感じることができ、参加者にもボランティアがお堅いものではないことを感じ取ってもらえたのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科 3年 飯村 美南

4. 学生参加者数 26名(法政 15名 関西 11名)

## 5. 企画学生の感想

いろいろなゴミが落ちていましたが、特にタバコのゴミが多く、記入欄に間に合わないほどでした。これから、道路にポイ捨てをしないのはもちろん、地域の清掃活動に積極的に取り組んでいきたいと考えるきっかけになるようなイベントであったと思います。また、暑い中であるにもかかわらず、参加者の方が楽しく、かつ熱中症になることなく無事にイベントを終えることができて安心しました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 3年 太田 健介

## 6. 参加学生の感想

今回の活動を通じて都内のゴミをスポーツ形式で拾う一種のアクティブ活動をより全国に広げたいと考えた。また、ごみの放置が人目につかないところで行われている事に対してまだまだ人の目が届かない所での治安問題もあると感じた。そこからこのような活動を通じてより人の目を行き届かせることで都市環境でのゴミの放置問題をより解決できると感じた。そのためにもゴミ拾いを担う人たちがより多くなっていくためにもこのようなスポーツ形式のラフなタイプが非常に有効だと考えた。

人間環境学部人間環境学科 4年 紺野 卓大



点数化したゴミを拾ってゴール



最後に両大学で記念撮影

法政大学×関西大学  
チーム対抗!  
遊び感覚でゴミ拾い!?

5月29日(日)  
14:00~16:30  
定員:10名 場所:S205

スポーツごみ拾いとは?

- いくつかのチームに分かれてキャンパスの周辺でゴミ拾い&クイズ大会を行います。
- 最もスコアが高かったチームの優勝です!(スコアはゴミの種類や量で決まります。)
- 競技時間は1時間です(1時間のウォーキングで約200kcal【コーラ500ml分】消費できます)
- 優勝チームには景品が...!

お申込み・お問い合わせ先  
市ヶ谷ボランティアセンター  
(外濠校舎1階学生センター内)  
Tel:03-3264-9516 Mail:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

# 19. オンラインで東北と繋がる つながるゼミ

1. 日程 2022年6月4日(土)  
2. 場所 大内山校舎 Y801 または zoom

## 3. 概要

「つながるゼミ」はチームオレンジメンバーによる発表と震災の被害に被った講師の方の講話という二本立てで行われる企画で昨年から引き続き二回目の実施となります。対面とオンラインで開催し、本学生の他にも他大学や高校生の方にも参加していただき、参加者は50名になりました。前半はチームオレンジメンバーが、岩手、福島、宮城の震災当時の被害状況と現在の様子や魅力、そして昨年行われた東北被災地ボランティアツアーに行った感想を、パワーポイントを使って発表しました。後半は、岩手県大船渡市でゲストハウス3710のスタッフの村井さんに講話をしていただきました。村井さんは中学生の時に被災され、当時子供から見た震災の状況、そしてゲストハウス3710で働かれるまでの軌跡を語っていただきました。

今まで現地の方から震災のお話をお伺いしたこともありますが、自分たちと近い年代の村井さんのお話はよりリアリティがあって災害の恐ろしさを改めて知ることができました。参加者の皆さんからも村井さんにたくさんの質問があり、学びを深めることが出来たのではないかと考えています。今回のつながるゼミのように参加者の心に残る企画を実行し、被災した東北と将来の大災害について考える機会を作っていくことがチームオレンジの役割であり、そのために一層努力しなければいけないと考えさせられました。

ボランティアセンター学生スタッフチームオレンジ 法学部政治学科3年 竹内 健晃

4. 参加人数 50人(法政37名 共立女子7名 関西1名 三輪田学園2名 岩手大学3名)

## 5. 企画学生の感想

僕自身、プレゼンテーションに参加させていただいて、とても貴重な経験になりました。また、岩手県の講師の方のお話も、沿岸の被災に関して状況などを詳しく知ることができ、講師の方自身のお話はとても興味深いものでした。今回はありがとうございました。

## 6. 参加学生の感想

東北三県の発表で現地について知った後、お話を聞いたことでより理解が深まったと思います。そしてオンラインツアーで映像をリアルタイムで見て、現地に行きたいという思いが強くなりました。さらに現地の方からは、興味深いお話をお聞きして、震災について今までとは違った視点から考えることができました。自分は震災発生当時、小学一年生でしたがその時のことは今でもはっきりと覚えています。記憶を次の世代へとつなげ、防災をより強化していくことの大切さを改めて感じました。

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター チーム・オレンジ企画

## オンラインで東北と繋がる/ つながるゼミ



実施日 6月4日(土)  
13:30~15:30

- ・場所 大内山校舎Y801 or zoom
- ※zoom参加者の方は後日URLをメールでお伝えします
- ・定員 50名程度
- ・講師 村井旬 氏(岩手県宮古市 ゲストハウス3710スタッフ)
- ・申込 QRコードからお申込み下さい

### 企画概要

講師の方とオンラインで繋がり、東日本大震災や震災後の現地について学びます



お問い合わせ先  
市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)  
TEL:03-3264-9516 MAIL:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



オンラインでの参加者



イベントの最後に集合写真

## 20. 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会

1. 日程 2022年6月11日(土)
2. 場所 富士見ゲート1階 学生ホール、東京メトロ飯田橋駅構内
3. 概要

法政大学市ヶ谷ボランティアセンターでは、東京メトロと協力しながら飯田橋駅構内での「見守る目」としての駅構内見守り活動を実施しております。2017年から開始したこの活動は、今年で6年目となっています。今回、駅構内でボランティア活動を行うための「東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会」を行いました。まず、公益財団法人日本ケアフィット共有機構様より講師をお招きし、座学と実技を交え、活動にあたっての基礎知識や注意点、心構えを学びました。座学では、障がいというものに関する考え方、特徴などについて学びました。実技では、白内障の方の実際の見え方の体験、車いすに乗られている方へのご案内、視覚障がいの方へのご案内などを体験し、障がいや、障がいを持たれている方へのご案内の方法について理解を深めました。最後にはペーパーテストを実施し、全員が合格しサービス介助基礎研修の修了証が授与されました。その後、市ヶ谷キャンパスから飯田橋駅に移動し、駅構内での活動についての研修を受けました。東京メトロの社員の方々と一緒に駅構内を巡回することで構造を実際に理解したり、駅構内での活動のルールを学ぶことで、参加者も実際にボランティア活動をするにあたってのイメージを深められたのではないかと思います。法政大学市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後も飯田橋駅での駅構内活動を通し、大学周辺の地域貢献に努めてまいります。

東京メトロ飯田橋駅ボランティア学生スタッフ 社会学部社会政策科学科2年 鈴木 瑛士

4. 学生参加者数 31名

### 5. 参加学生の感想

今までは困っている人がいてもどのように声をかけて良いのかわからなかったのですが、今回の研修を通して、自分に何ができるのか、何をすべきなのかを学ぶことができました。また、困っている人に声をかける際には声のトーンや言葉遣い、振る舞いなどさまざまな面での配慮が必要だということもわかりました。今回学んだことを意識し、実際に活かせるよう、積極的に活動に参加したいと思います。

文学部日本文学科1年 中山 麻理奈



車椅子を通じて、配慮ある案内へ繋げる



研修を終えて全員で集合写真

## 21. 日本補助犬協会でのボランティア活動

1. 日 程 2022年6月12日(日)
2. 場 所 日本補助犬協会 横浜訓練センター
3. 概 要

昨年実施した企画「補助犬×ボランティア～私たちに何ができる？」の講師をして頂いた日本補助犬協会の元でボランティア活動を行った。主にドッグランの手入れを行い、施設の落ち葉清掃等も行った。短時間の活動だったが、補助犬、職員さんが過ごしやすい環境作りに貢献出来たのなら幸いである。また、ダイバーシティ・インクルージョンの講義、聴導犬・介助犬・盲導犬のデモンストレーションの見学をさせて頂いた。車椅子ユーザーと二足歩行者の立場が入れ替わった世界のビデオはとても衝撃的であった。マイノリティとマジョリティの考え方のズレがあることに大きな問題を感じた。現代社会に求められる多様性、公平と平等の在り方について深く知ることができとても有意義な時間だった。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 高木 倅大

4. 参加人数 3人

### 5. 参加学生の感想

今回補助犬協会さんに訪問し、学びながらもとても楽しむことができました。最初に受けた講義では、公平な社会について話し合いもしながら考え、中には実際に目が不自由な方もいて、普段考えていない視点の意見も聞くことができました。その後雑草取りをしました。職員さんとしゃべりながら楽しく作業していました。最後に盲導犬・介助犬・聴導犬の実演をしてもらい、トレーニングの仕方など新しいことを知ることができました。実演してくれた介助犬が、遊びまわっている子どもたちの側でも静かに伏せていて、威厳を感じたし可愛かったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科2年 菅原 光里



補助犬との交流



草取りのボランティア活動

## 22. はじめての点字～知ってつながる社会の輪～

1. 日 時 2022年6月17日（金）16:50～19:00

2. 場 所 外濠校舎5階523～526会議室

### 3. 概要

6月17日、法政大学課外教養プログラム「初めての点字～知ってつながる社会の輪～KYOPRO&VSP共同企画として実施いたしました。本企画は、点字を通して視覚障がいに関する教養を身につけることを目的とした企画です。点字についての知識や視覚障がい者の方の生活や体験談を学ぶ事で、視覚障がいに関する理解を深めて多様な社会について学生が考えるきっかけになることを期待して実施いたしました。講師には日本視覚障碍者団体連合組織部長の三宅隆氏をお迎えしました。三宅氏は22年間、盲学校の点字教科書や自治体広報などを製作する点字出版所に勤務したのち、全国の視覚障害者協会の連合組織である日本視覚障碍者団体連合に勤務されています。本企画は、対面にて実施しました。企画のはじめにグループワークとして、大学内の点字を探索し、その点字の意味やその場所に点字があることの背景をディスカッションしました。点字探索では、大学校舎内をグループごとに分担し探索を行いました。スタッフが想定していたよりも多くの点字を参加学生が発見するほど積極的な姿勢が見られました。またディスカッションにおいては、初対面ながらも各グループの議論が途絶えないほど熱心に取り組む様子が見られました。グループワークを行った後に講師の登壇パートとして、点字の読み方や点字の役割、視覚障害をお持ちの三宅氏の日常生活についてのお話を伺いました。三宅氏が点字シートや点字がついている商品を提供していただき、学生が実際に見たり触れたりしながらお話を聞くことにより、点字についての理解がより深まりました。講義の中では学生が点字シートを参考にして、実際に点字のついている商品の点字に触れながら点字の読解を行う様子が見られました。三宅氏の講演が終了した後は、質疑応答の時間と感想発表の時間を設け、参加学生が積極的に質問と感想発表を行っていました。電車内や駅のホームで視覚障がい者にあつたときどうすればいいのかという質問から、視覚障がい者を他人事ではなく、自分事として捉えている様子がうかがえました。また、感想の時間では、今回の企画を通して視覚障がい者の苦労がより分かったという声が聞かれました。新型コロナの感染が落ち着き、実際に大学内での点字探索や点字に触れながら理解を深めることができ、有意義な時間だったのではないかと思います。今回の企画で、視覚障がいを他人ごとではなく自分事として捉え、点字を通して多様な社会について考えるきっかけになってくれたならば幸いです。

KYOPRO スタッフ 法学部政治学科4年 吉村 秀斗

4. 参加者数 21名

### 5. 企画学生の感想

点字に触れたのは今回が初めてでした。点字も言語であるので、それを必要としている人は大勢います。その中で、点字企画として、今回僕が携われて、講師の方からお話を聞いたのは本当にありがたいことでした。最後の参加者の感想を改めて思い返してみると、車椅子の段差レスに対するニーズがある一方で、視覚障がい者の段差があることでの一つの信号となること、これはお互いのバリアフリーがバッティングしてしまう！ということを指摘されている参加者がいて、自分も感心してしまいました。まずは知ることがはじめての一歩だと思うので、課外教養プログラムプロジェクトさんとこのような企画ができて、有意義な時間を過ごせたので良かったです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科3年 杉山 裕都



身近な点字を確認する



発表の様子



## 23. 石川県学生災害ボランティア育成講座

1. 日 程 2022年6月18日(土)

2. 場 所 Zoom・石川県金沢市

### 3. 概要

公益財団法人石川県県民ボランティアセンター・学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会の主催による「石川県学生災害ボランティア育成事業講座」が6月18日(土)に行われ、チーム・オレンジのメンバー2名が講師として参加しました。

当イベントは新型コロナウイルス(COVID-19)感染症対策としてオフラインとオンライン両方での開催となり、私たちチームオレンジはオンラインで防災カルタ班と防災キャンプ班の活動報告を行いました。また、防災カルタ班からはzoomを通して参加者の方々と防災カルタの実演も行いました。

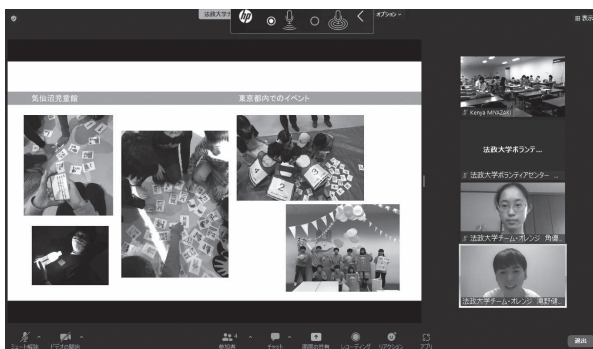
4. 参加学生者数 2名(チーム・オレンジより)

### 5. 参加学生の感想

2022年6月18日、石川県の金沢大学が主催している石川県学生災害ボランティア講座にオンラインで参加した。ボランティアセンターの小山さんにチーム・オレンジの概要を説明していただいた後、20分間オンラインで防災かるたを実施した。実施が20分間ということで問題数は7問に絞った。オンラインでの実施だったため、現地の反応は宮崎さんに伝えていただいた。

石川県でのイベントにオンラインで参加させていただけるという環境を有意義に活用できるよう、出題する問題の選出ややり方を試行錯誤し続けようと思った。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ文学部地理学科2年 角 優子



防災クイズカルタについての石川県の学生とオンラインで交流する様子



石川県の学生に災害についての問題を出す

## 24. 災害救援ボランティア講座

1. 日程 2022年6月18日、25日、7月2日（毎回土曜日）
2. 場所 大内山校舎4階Y405教室、本所防災館、市ヶ谷総合体育館
3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンターでは、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

第1日目は、市ヶ谷キャンパス大内山校舎Y402教室にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生、防災対策の基本などを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験と実技などを行い、大学に戻り被災地での安全衛生、「災害時のチームビルディングとリーダーシップ（図上訓練など）」などのグループワークを行いました。

第3日目は、本学市ヶ谷総合体育館柔道場にて、上級救命技術講習として応急手当活動について実技を交え学びました。人工呼吸、AEDの使用法、災害時などでのけがの応急処置を含めた実践的な講習内容でした。

災害救援ボランティア講座は毎年行われており、全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。市ヶ谷ボランティアセンターでは、災害時などにリーダーとしてボランティア活動ができる学生の育成を目標としています。

4. 学生参加者数 6/18 (27名)・6/25 (25名)・7/2 (25名)

### 5. 参加学生の感想

今回のボランティア講座に参加したことで、今までは漠然と怖いと思っていた災害を正しく理解したうえで怖いと感じることができた。そして正しく理解できたからこそ普段の生活で対策ができることもあることを知ることができた。大きな災害が発生したときは行政が動くのにも時間がかかるため、自助・共助が大切になり、そこではリーダーの存在が必要となる。その際には本講座を受講した私ができることは多くあると思うため、地域のリーダーとして災害に立ち向かっていきたいと感じた。

法学部法律学科3年 越川 結理

様々な災害が発生した時の動きや、考えるべき事をシミュレーション出来たおかげで、自分1人では考えなかったような事まで確認することができました。学んだ事を忘れず、いざという時活かせるようにしたいです。

社会学部社会学科4年 山中 一智也



応急手当の実習を行う



認定証授与の様子

法政大学 市ヶ谷ボランティアセンター 千代田区助成事業

# 災害救援ボランティア講座

万が一、災害にあった時、「自分が生き抜く方法」と「他人を助ける方法」を学びませんか？

受講生全員、資格が得られます！ ※全日程の出席が条件

① 上級救命技能認定 (東京消防庁より交付)  
② セーフティリーダー認定証 (災害ボランティア推進委員会より交付)

全3日間・定員30名 (参加費無料) ★開催：6月3日(金)

6月18日(土) 9:00~16:50  
6月25日(土) 8:50~16:30  
7月2日(土) 9:00~17:00

\*講座内容\*

- ◆第1日目(市ヶ谷キャンパス 大内山校舎4階 Y405教室)  
災害救援ボランティア基本、出火防止と初期消火、災害ボランティア活動ケースワーク、災害と防災対策の基本
- ◆第2日目(本所防災館/市ヶ谷キャンパス 大内山校舎4階 Y405教室)  
災害模擬体験と実技、千代田区社会福祉協議会、被災地での安全衛生、災害ボランティア活動図上訓練
- ◆第3日目(市ヶ谷キャンパス総合体育館3階柔道場)  
応急手当活動(上級救命技術講習)、認定証授与

申込み・問い合わせ  
市ヶ谷ボランティアセンター (外派1階)  
03-3264-9516 9:00~17:00受付 (月~金) [ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp](mailto:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp)

## 25. インクルーシブデザイン講座

1. 日程 2022年6月21日(火)  
2. 場所 外濠校舎5階523～526会議室  
3. 概要

グローバル化が進行する中、文化や国籍、言語の違いにかかわらず、すべての人が利用できるユニバーサルデザインが注目されています。しかし、高齢者や障がい者、外国の方などはデザインプロセスから除外されることがありました。そこで、彼らを取り組む(INCLUDE)ことを目的とした「インクルーシブデザイン」が誕生します。今回、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、「本当に必要とされているデザインはどのようなものなのか」と、学生たちに多面的な視点から問題を捉えてもらおうと本企画を実施しました。また、本企画では、株式会社インクルーシブデザインソリューションズの高山希氏とリードユーザーさんをお招きし、インクルーシブデザインに関する講義やワークショップを行いました。

参加した学生のほとんどはインクルーシブデザインについて何も知りませんでした。そのため、講義を通して、自分では気づけなかったところや想像もしていなかったところにインクルーシブデザインが存在し、それが誰かの助けになっているということに驚いている姿が印象的でした。本企画をきっかけに、「困っている人のためには何ができるだろう」と、様々な立場から考える意識が広がればいいなと願っています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科2年 長尾 美紅

4. 学生参加者数 37名(法政25名、共立女子大5名、三輪田学園7名)

### 5. 企画学生の感想

今回の講義を通して、インクルーシブデザインについて様々な知識を学ぶことができました。なかでも、iPhoneやシャンプーのボトルなど、身近に存在するインクルーシブデザインについてのお話が印象に残っています。他にも、自分の身の回りにどんなものがあるのか探してみたいくなりました。また、「最近経験した、お買い物中に感じた不愉快なこと」をテーマに行ったワークショップでは、自分の日常における経験がアイデアの発案に役立つことを実感できました。今後は生活の中で感じた不愉快や不便さを新しいアイデアの種として捉え、積極的にインクルーシブデザインに関わっていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文芸学部心理学科1年 丸茂 綾音

### 6. 参加学生の感想

ユニバーサルデザインは聞いたことがあったけど、インクルーシブデザインについて初めて知った。開発の時点からリードユーザが加わることで、実際にどこが困っているのかが分かるし、障がい者のみならず、高齢の方や、女性の方にも使いやすいデザインが生まれるのが良いことだと思った。いろいろな視点から考えて、誰にでも使いやすいものを創作していきたい。

経営学部経営学科1年 永田 唯華

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP主催



インクルーシブデザインとは高齢者、障がい者、外国人などデザインプロセスから除外されてきた人々を取り込む(INCLUDE)ことを目的としたデザイン手法です。

様々な視点からデザインを  
考えてみませんか？

【日時】 6月21日(火) 17:00～18:30  
【スケジュール】 17:00～17:05 はじめの言葉&講師紹介  
17:05～18:10 講義&グループワーク  
18:10～18:20 質問タイム  
18:20～18:30 終わりの言葉

【定員】 30名  
問い合わせ: 市ヶ谷ボランティアセンター  
(外濠校舎1階 学生センター内) 申込方法はこちら  
TEL: 03-3264-9516  
MAIL: ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



(株)インクルーシブデザインソリューションズ高山様の講義



リードユーザー猪狩様のお話を伺う

# 26. 一緒に優しい社会を作ませんか？～ダウン症から考える共生社会～

1. 日程 2022年6月29日(水)

2. 場所 Zoom

### 3. 概要

「ダウン症」という言葉は多くの人に知れ渡っている一方で、当事者の方々に対する理解や配慮が、現在の社会では不十分なのではないかという問題意識を持っている。当事者の方々に対して偏見の目を持たずに、理解や配慮ができるようになるためには、知識を得ること、知識を基に自分たちがすべきことを考えること、実際に交流することの全てが必要だと私たちは考えている。また、ダウン症に関する企画はこれまで3回実施してきており、事後アンケートの中で、月1でサークルのような活動がしたい、継続的に活動を続けたいという意見をたくさんいただいた。このような理由から、今回は月1回程度でダウン症についての考えを深められるような企画を行いたいと考えている。

今回は第1回目、ダウン症の導入として、オンラインにて協力団体さんによる「ダウン症の子どもを持つ親としての工夫」について学ぶご講義を実施した。

当日は、3名のダウン症のお子さんのいる親御さんに苦労や工夫についてご講義をしていただき、質問タイムを設け、参加学生からの質問や事前アンケートでの質問もお答えいただいた。最後にはZoomのチャット機能を利用して参加学生の感想共有をし、講師の方にまとめのお言葉を頂いた。また、最後には参加学生と協力団体の講師の方と交流する時間を設けた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 平津 桜那

4. 学生参加数 40名(法政29名、共立女子3名、三輪田学園4名、関西4名)

### 5. 企画学生の感想

これまでに私はダウン症をもつ子供達と学内を回るミッションツアーの企画にも携わった。その時は、ダウン症の子たちと楽しむということに焦点を当てていたが、今回は、ダウン症の子を持つ親としてのリアルな実情を学んだ。今回企画で学んだことや企画するにあたってアクセプションさんと会議を重ねたことで、ダウン症の子と次に会えるのが待ち遠しくも感じた。また、ダウン症の子供の一番身近な存在である親御さんの目線でお話を聞くことができ、とても貴重な体験だと感じた。このような貴重な経験を多くの学生さんにも経験してもらえたことがとても嬉しく、達成感も感じる事ができた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部2年 水上 明莉

### 6. 参加学生の感想

・自分では知っているつもりでも全然知らなかったダウン症に関する知識や、親御さん目線からのリアルな意見をお聞きすることができて、とても良い経験になりました。ダウン症のお子様本人が自信をもって発言ができることをはじめ、ダウン症をもつ本人や親御さんが生きやすい共生社会への貢献ができるよう私自身も行動を起こしていきたいと思いました。ダウン症や障がいなど関係なく、様々なことにチャレンジする皆さんの姿にとても感銘を受けました。次回の活動にもぜひ参加したいです。



司会を担当する学生の様子



ハワイで子育て中のダウン症の子のお話を伺う

## 27. 今こそ献血へ②

1. 日程 2022年7月1日(金)4日(月)

2. 場所 富士見坂庭園

### 3. 概要

令和4年7月1日(金)と4日(月)に市ヶ谷キャンパスの富士見坂庭園にて献血を実施しました。炎天下ではありましたが、2日間で合計100名を超える方にお越しいただき、その内73名の方に採血いただきました。ご協力ありがとうございました。

約半数の方が初めてのご参加ということであり、献血に携わるきっかけを作ることができたのではないかと思います。現在も血液を必要とされている方は多くいらっしゃり、献血の需要は高まっています。次回の大学における献血は秋に実施予定であるため、今後も日本赤十字社さんとコンタクトを取り合い、より広い周知を行っていきたいと思っています。

VSP学生スタッフ 法学部政治学科3年 太田 健介

4. 参加人数 106名(不採血者33名)

### 5. 参加者の感想

・元々興味はあったのですが、今回大学内で開催して頂けるとのことで、初めて献血に参加しました。何度も注意事項や、採血された血液の使い道などを提示していただき、スタッフの皆さんの指示も大変丁寧で、安心して終わることができました。

採血中は多少血を抜かれている感覚もあり緊張はしましたが、痛みもほぼありませんでした。ありがとうございました。

・以前から献血活動に参加しようと考えていたため、体験出来た今日は良い日であった。採集した自分の血液が、苦しんでいる誰かのために役立てて欲しいと強く願う。

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター(VSP)企画

# 今こそ

# 献血へ

7/1(金)・7/4(月)

12:00~16:30(両日)

場所：富士見坂庭園

コロナ禍により、献血の機会が制限されてしまいました  
輸血を必要とする方のために皆様のご協力をよろしくお願いいたします  
お問い合わせ  
Mail:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp  
Tel:03-3264-9516



富士見坂庭園にて実施



暑い中にもかかわらず多くの学生が参加

# 28. 子ども×学習支援～夢と希望をもてる社会を考えよう～

- 1. 日程 2022年7月2日(土)
- 2. 場所 大内山校舎4階Y405
- 3. 概要

新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもの貧困が浮き彫りになりました。そのため、子どもたちの貧困状況を学習支援という側面から考え、実際に学習支援のボランティア行動へ踏み出すきっかけとするために、本企画を実施しました。今日は子どもの貧困を筆頭に、子どもをめぐる社会問題の解決に取り組んでいる認定特定非営利活動法人キッズドア様を講師にお迎えし、キッズドア様の活動内容、学習会の様子などをお話いただきました。講義ではメモを取りながら熱心にお話を聞いている学生が多かったです。ワークショップでは、子どもの接し方の事例検討、学習支援活動をどのように広めていくのかというテーマで議論を行いました。事前にワークショップの資料を配布していたため、具体的な意見が多く挙がり、活発な議論が繰り広げられました。キッズドア様がやっている学習会は、勉強だけでなく、子どもたちの相談場所、異なる世代の人々との交流の場として重要な役割を果たしています。多くの学生がボランティアの存在の重要性を学んでいたように感じます。本企画がボランティア行動へ踏み出すきっかけになりましたら幸いです。

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP企画

## 子ども×学習支援


～夢と希望をもてる社会を考えよう～

2022年 7月2日(土)  
15:00～16:40  
場所: 大内山校舎Y405  
講師: 認定特定非営利活動法人  
キッズドア  
玉木絵梨氏 石野純子氏  
定員: 40名  
申込: QRコードからお申込み  
ください!

子どもの学習支援について考えよう!  
様々な状況で十分な学習ができない子どもたちがたくさんいます。私たちにできることは何でしょうか。

タイムテーブル  
15:00 企画説明  
15:05 講師の方による講義  
15:45 参加者による意見交換  
16:40 終了予定

～お問い合わせ～  
市ヶ谷ボランティアセンター  
(外塚校舎1階学生センター内)  
TEL: 03-3264-9516  
Mail: ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp





ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科 2年 小林 咲穂

- 4. 学生参加者数 45名(法政30名、共立女子15名)

### 5. 企画学生の感想

今回の企画を通して、子どもの貧困の現状やそうした現状に対してどのような取り組みが出来るのかについての理解を深めることが出来た。貧困問題解決において、政府が制度の見直しをすることに加え、キッズドアさんの様な学習支援活動をする事で子どもとコミュニケーションを取り居場所をつくっていくことが大切であり、様々な立場の人が丸となって取り組むべき課題であると感じた。その為、本企画が参加者にとって子どもの貧困に対して1歩踏み出すきっかけになったのなら嬉しい。私自身も今回学んだ、特に学習支援という面をVSPが定期的に行っている居場所支援活動において活かしていきたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科 2年 佐藤 莉乃

### 6. 参加学生の感想

キッズドアの活動を今回初めて知ることができ、1人親の子どもたちに何か支援できることがないか考えるきっかけになりました。さまざまな事業を展開しているのでもっとこの活動を多くの人に知ってもらいたいと思いました。グループディスカッションではさまざまな貴重な意見を聞くことができ、楽しかったです。ぜひ今度キッズドアのボランティアに参加してみたいと思いました。



多くの学生が参加しました



参加者による意見交換

## 29. 防災クイズ & ゲーム Day2022 in そなエリア 東京

1. 日 程 2022年7月3日(日)

2. 場 所 東京臨海広域防災公園 そなエリア東京

### 3. 概 要

7月3日に防災キャンプなどで大変お世話になっている宮崎様のお誘いでそなエリア東京で行われた防災クイズ&ゲームDay2022にチーム・オレンジの6名で参加しました。このイベントは防災ゲームを通じて災害や防災を楽しく学ぶというものです。チーム・オレンジでは防災クイズカルタを展示したり、実演したりしました。当日は大人だけではなく、小学校の低学年の方まで参加してくれました。とても賑やかで楽しい雰囲気の中でカルタを実演できました。参加者の意見としては「楽しかった」や「カルタだと誰でもわかるからやりやすい」などがありました。今後もカルタなどの防災ゲームを通じて、防災の啓発活動を続けていきたいと思っております。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 経済学部経済学科2年 滝野 健太

### 4. 学生参加者数

学生スタッフ 6名 体験会ブース来場者数 18名

### 5. 企画学生の感想

カルタ班での初めてのイベント参加だったので、うまく行くかどうかとても心配だった。しかし、宮崎さんをはじめ多くの人たちの協力もあり、無事に成功させることができた。一方でいくつかの問題点も浮かび上がった。一つ目は、ゲーム内容が平坦で後半につれて盛り上がりが見えなくなってしまう点である。そして二つ目は、小さなお子様などに対して配慮が足りていないという点だ。この二点のみならず、他の班員からも課題点が挙がっていて、本イベントを総括すると大成功とは言えないが、今後の課題が明確になったという点では参加した意味が大いにあると考えている。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 吉岡 拓人



防災クイズカルタの実演



終了後、企画した学生スタッフの集合写真

## 30. 미래の防災リーダー養成講座

1. 日程 2022年7月30日(土)
2. 場所 千代田区民ホール(千代田区役所本庁舎1階)
3. 概要

このイベントは未来の防災リーダーである千代田区内在学中の児童(小学校低学年)を対象に防災に関する講座を実施し、地域防災力の向上を図るものです。当日はおよそ20名の小学校低学年の児童が参加して、AR(防災シミュレーション)の体験をしたり、地震関係のビデオを観たり、起震車に乗ったりしました。私たちは主に防災クイズカルタの実演を行いました。他にも、子どもたちのAR体験の補助や起震車の消毒の手伝いもしました。さらに、向こうの方のご厚意で実際にARを体験したり、起震車に乗せてもらい震度7の地震を体験したりしました。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 経済学部経済学科2年 滝野 健太

4. 参加学生者数 6名(チーム・オレンジより)

### 5. 参加学生の感想

7月30日に我々は千代田区主催の「未来の防災リーダー養成講座」にて防災かるたを実演しました。今回のイベントにおける参加者数は前回のイベント時(防災クイズ&ゲームDay2022 in そなエリア Tokyo)よりも多かったため、最初はかなりの緊張でうまく成功させられるか不安だったが、最終的には参加者の防災対策意識を高めることができたと感じている。その一方で、今回のイベントでは防災かるたの改善点が浮き彫りになった。また、イベント終了後には区の職員の方にARを使った防災シミュレーションや起震車に乗せていただくなど多くの経験をさせていただき、今回のイベントは防災に関する知識を深めることのできた有意義な時間であったと感じている。ぜひこれからも防災啓発に努めていきたいと思っています。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ 経済学部経済学科2年 高橋 駿介

今回のイベントでは、今までにないほど大きな規模であったこともあり、多くの課題点が浮き彫りになった。特に課題だと感じたのは、今回使ったパワーポイント方式カルタの一方方向性である。今回使ったカルタは、パワーポイントで選択肢を映し、参加者に正解はどの選択肢か聞き、答えを発表するといった形のため、参加者が受け身になりやすかった。そのためカルタを「参加者の手で面白くなるゲーム」となるように改善していきたいと考えている。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 吉岡 拓人



# 31. 大学生とピアノタイム ピアノがつなく、多世代の輪！～みんなで奏でてみよう～

1. 日程 2022年8月4日(木)
2. 場所 かがやきプラザひだまりホール
3. 概要

本企画は千代田区社会福祉協議会の「ciao」さんのご協力のもと、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)による音楽ボランティアになります。新型コロナウイルスによって現在もまだ、エンターテインメントが充分ではないなかで、私達がどのように盛り上げればいいのか考えた時に、音楽を用いてボランティアをしたいということで企画をスタートさせました。Ciaoさんは、多世代交流をモットーに活動されており、子どもから親御さん、高齢者のかたまで幅広い世代の方を対象にしました。また、法政大学のサークル、「ピアノの会」さんにもご協力していただき、プログラム内容の中軸である歌やイントロクイズなどの伴奏として場を盛り上げてくれました。企画の準備の段階では、子どもたちが交流しやすいように、椅子ではなくマットを敷いたり、高齢者の方に対しては座りやすいように椅子を用意したりと、ciaoさんやメンバーと話し合いながら工夫できたところがよかったと思います。

企画当日は、1歳から90歳の方まで幅広い世代の方にお越しいただきました。イントロクイズでは世代問わずのグループになって、一緒に考える時間を設けました。子育て世代の親御さん同士や高齢者同士のふれあいや、あるいは子どもと高齢者とのつながりなど、スタッフ目線でみていると非常に新鮮で、温かくなりました。中には、好奇心旺盛な子どももいて、ピアノの会さんの演奏中にとりて来て一緒に弾いているシーンもあって場が和んでいた印象です。今まで私達が取り組んできたかっちりとした企画ではなく、このような企画の姿も、参加者の顔を見ていて大成功だと思います。親御さんから、グループワーク中に「このような企画をしてくれてありがとう」という生の声をいただけたので、次回も継続してやっていきたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 杉山 裕都

## 4. 学生参加数 10名

## 5. 参加学生の感想

千代田区の社協と共同で行う企画に今回初めて携わりました。大学生の音楽を楽しみに、参加してくださった方が多くいらっしや、とても嬉しく思いました。しかしどの世代の方にも楽しんでもらうための曲を選ぶことは難しいものであると感じました。イントロクイズでは多世代の方と交流することができ、小学生の子とご高齢の方が積極的にお話ししている姿が印象的でした。これからも多世代の地域の方々と学生が交流できる場を作っていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科2年 小林 咲穂



多世代で交流を楽しむ様子



ピアノに興味津々な子どもたち

## 32. 共立女子大でのボランティア活動の説明会

1. 日 程 2022年8月8日(月)

2. 場 所 共立女子大学

### 3. 概 要

共立女子大学の学生支援課ご担当者様より、共立女子大学内のボランティアの機運醸成のための講座を実施したいとのご相談があり、本講座が8月8日(月)に実施されました。

講座は全90分で、前半はボランティアセンター職員よりボランティアセンターの役割や説明について説明の後、学生スタッフ(VSP、チーム・オレンジ)より各の団体説明や活動紹介を行いました。後半は学生スタッフ4名でボランティアを始めたいきっかけや活動をして良かったこと、学んだこと、今後やってみたいこと活動などをテーマにしてトークセッションを行いました。最後は共立女子大学の学生部長の渡辺先生より講評をいただき講座は終了となりました。

講座は夏休みにも関わらず多くの学生の参加があり、またメモを取る質問を積極的にするなど熱意ある姿勢で聞いていただきました。今回のこの講座が共立女子大学の学生の皆様にとって実りある講座になっていれば大変嬉しく思います。また、今後も法政大学と共立女子大学間でのボランティアの連携を深め、連携して活動できる機会を多く作りたいと思います。

4. 学生参加数 40名(法政4名、共立女子36名)

### 5. 企画学生の感想

今回は、VSPとチームオレンジから2人ずつ説明会に参加させていただきました。共立女子大学からの参加者が予想を大きく上回っていたため最初はかなり緊張しました。しかし、参加者の方々が熱心にメモを取ってくださったり、質問をしてくださったりしたので、リラックスして説明やトークセッションを進めることができました。

今回の説明会が、「ボランティアをしたいけど勇気が出ない…」という人が一歩を踏み出すきっかけになればうれしいです。今後も学内・学外問わずこうしたボランティア啓発活動に力を入れていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部2年 富島 祐菜

普通の大学生活や学生団体の活動においては、講師をしてもらう側なので、講師をする側というのはとても新鮮でした。参加して下さる方はどのようなことを聞きたいのか、どうしたらわかりやく伝わるのか熟考しましたが、当日は多くの学生の方が真剣に話を聞いて下さり、とても貴重な経験をさせていただきました。また、トークセッションでは、自分自身も学生団体の活動を振り返る良い機会となりました。これを機に、さらに共立女子大学の方とボランティアの輪が広がればと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科3年 宮本 花穂



共立女子大学にて VSP からの発表



最後に各団体から発表する様子

# 33. 一緒に優しい社会を作ませんか？～ダウン症から考える共生社会②～

1. 日程 2022年8月24日(水)

2. 場所 Zoom

## 3. 概要

「ダウン症」という言葉は多くの人に知れ渡っている一方で、当事者の方々に対する理解や配慮が、現在の社会では不十分なのではないかという問題意識を持っている。当事者の方々に対して偏見の目を持たずに、理解や配慮ができるようになるためには、知識を得ること、知識を基に自分たちがすべきことを考えること、実際に交流することの全てが必要だと私たちは考えている。この企画では、ダウン症を持つ人たちと実際に関わることで、「ダウン症」に対して持っている心理的な壁を払拭すること、また、ダウン症について考えることから他のマイノリティについても目を向けてもらい、多様性を認め誰もが心地よく暮らせる共生社会の実現に繋がる行動を学んでもらうことを目的として実施した。本企画では、2回話し合いを行った。1回目の話し合いでは、アクセプションズさんに所属しているダウン症のある方々のプロフィールを基に、その方の困っていることをどうやって聞き出すのか、そして困っていることをどのように解決できるかについて話し合った。2回目の話し合いでは、グループのメンバーを変え、それぞれのグループで出た意見についての共有を行った後、アクセプションズさんの保護者の方々にお話をいただいた。また、ダウン症や障がいについての理解を深めるために、さらに話し合いを行った班もあった。最後に全体共有を行い、ダウン症のような障がいを持つの方々についての理解の深め方や、実際に関わることの重要性を学ぶことができた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 平津 桜那

4. 学生参加数 16名(法政11名、共立女子2名、明治大2名、関西大1)

## 5. 企画学生の感想

今回の企画は、話し合いという形で行われました。受け身ではなく自分から考えることで、ダウン症について知らないことや分からないことが浮き彫りになりました。例えば、ダウン症の方が困っているときにどうすればいいのか考えるとき、ダウン症の方の知識量や、得意とすること、苦手とすること、求めているものなど、いろいろな角度から疑問が湧いてきました。それがダウン症についてより深く知りたいという意欲に繋がった人も多いのではないかと思います。私自身はとても意義な時間を過ごせたと感じています。

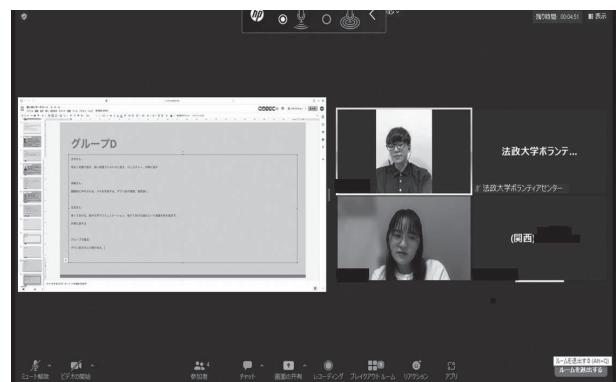
ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科1年 佐々木 澄香

## 6. 参加学生の感想

事後アンケートの感想を参照し記載する。まず、本企画全体の満足度を、5の満足から1の不満という、5段階評価で回答してもらった。その結果、「5」が81.8%、「4」が18.2%と高い評価をいただくことができ、全員にとって学びの多い企画にできたのではないかと考えている。参加者の感想として、「グループワークで考えたことで、自分事として捉えられた。」というものがあり、グループワークの形式や具体的な例を用いて考えてもらったことが効果的な学びに繋がったと言えるだろう。



アクセプションズさんより、アドバイスをいただく



グループに分かれて話し合う

# 34. 2022 年度 東北被災地ボランティアツアー

1. 日程 事前説明会 2022 年 8 月 8 日 (月)  
第 45・46 次隊 2022 年 8 月 25 日 (木) ~ 27 日 (土)  
第 47・48 次隊 2022 年 8 月 28 日 (日) ~ 30 日 (火)  
事後報告会 2022 年 9 月 26 日 (月)

2. 場所 岩手県陸前高田市・釜石市・大槌町

## 3. 概要

2022 年 8 月 25 日~ 27 日、8 月 28 日~ 30 日の 2 回にわたって東北被災地ボランティアツアーを行いました。本企画は、NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワークさんのご協力のもと、実際に現地へ足を運び被災地の今を知ること、現地の方の講和や資料館見学を通じた震災学習、そして現地でのボランティア活動、この 3 点の目的を中心に開催されました。去年は新型コロナウイルスの影響で 1 泊 2 日の活動でしたが、今年は 3 年ぶりに 2 泊 3 日の日程で、感染症対策を十分に行った上で活動を行いました。活動の前は、事前説明会として震災についての基本情報を共有し、顔合わせを行いました。活動後は事後報告会を行い、活動内容や活動に対する感想の共有を行いました。

ボランティアツアー 1 日目は、初めに陸前高田市役所を訪れ、現在の陸前高田市を展望ロビーから眺めました。震災前市の写真が展示されており、見比べると新しくなった建物や、そのまま残されている建物がよく分かりました。また、一本松の縮小モニュメントが置かれており、奇跡の一本松の歩みが分かるパネル展示もありました。次に栃ヶ沢公営住宅にて、草むしりや窓ふきのボランティアを行いました。その後、会長・副会長の方からお話を聞かせていただき、公営住宅の少子高齢化の現状・コミュニティづくりの課題を知りました。次に高田松原津波復興記念公園を訪れ、震災遺構や防潮堤、奇跡の一本松などを巡りながら現地の武蔵さんにガイドをしていただきました。遺構として残した意味や、災害の教訓を教えてください、復興の様子を感じるとともに震災の爪痕を間近で見る貴重な経験となりました。公園内にある東日本大震災津波伝承館（いわて TSUNAMI メモリアル）を見学しました。津波の被害を受けた実物を見て、当時の混乱の様子や津波の威力を知りました。

2 日目は、釜石市の宝来館にて女将さんに講話をしていただきました。津波から逃げる実際の映像を見て、その場にいることを想像すると恐怖を感じました。女将さんは市自体を震災前よりもさらに盛り上げようと様々な活動をされていて、その実行力に圧倒されました。その後は裏山にある避難道の整備と根浜海岸の清掃のボランティアを行いました。かなり体力勝負の活動でしたが、女将さんたちが植えたハマナスの実を取ったり、ホタテをいただいたりして、楽しい思い出を作ることが出来ました。

3 日目は、大槌町の吉里吉里国にて薪割りの体験をしました。吉里吉里国では薪を商品として売っており、一つの産業になっています。丁寧なご指導を受けながら、全員で斧を握り、薪を割りました。その後吉里吉里公民館で理事長の芳賀さんから講話をしていただきました。震災直後、行方不明者の捜索やヘリポートづくりを住民が老若男女問わず協力して行い、心のケアをする暇もなく現在まで活動してきたといいます。「斧を握っているときだけ辛いことを忘れられる」という言葉が非常に印象的で、町のために活動されている姿を見習いたいと思いました。

この活動を通して強く感じたことは、現地の方の温かみです。新型コロナウイルスの心配もある中、外部から来た私たちを温かく迎えて下さり、こちらが元気をもらうことが多々ありました。そして復興だけでなくさらにによりよい場所にしていこうと活動をされている姿に尊敬の念を抱きました。この 3 日間で震災によって失われた、もたらされた多くのものを知りました。実際に津波が通った道を歩いていると、現実とは思えない気持ちが生み出されました。しかしその景色になるまでには計り知れない努力があり、その復興までの道のりも含め、震災が起こったことを風化させてはならないということ、現地の方々のお話を聞いて改めて強く感じました。震災を知らない世代が増えてきている現在、現地を訪れた私たちが出来ることはボランティアで得たことを多くの人に伝えていくことです。この経験を糧に、チーム・オレンジとしてさらに積極的な活動を行っていきたくと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部哲学科 1 年 大津 夏帆

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター主催 ナーム・オレンジ企画

東北被災地  
ボランティアツアー

被災地に訪れ、現状を学ぼう!

8月25日(木)~8月27日(土)  
8月28日(日)~8月30日(火)

募集対象 本学学部生  
募集人数 各日程 20名  
宿泊場所 岩手県釜石市  
ホテルルートイン釜石  
参加費用 15000円 ※別途昼食自己負担  
事前説明会 8月8日(月) 14時30分~16時30分  
事後報告会 9月26日(月) 18時40分~20時  
大内山校舎4階Y406教室

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター  
(小金井・多摩キャンパス各ボランティアセンターでも受付可能です)  
[Tel] 03-3264-9516  
[Mail] ichigayave-apply@ml.hosei.ac.jp

#### 4. 学生参加者数 37名（第45・46次隊 17名、第47・48次隊 20名）

（事前説明会 34名 事後報告会 32名）

#### 5. 参加学生の感想

・今回が自分にとって初めてのボランティアツアー参加でした。今まで震災の現状については、切り取られた部分しか見たことが無かったのですが、今回フィールドワークをして、当時その場所で何が起きたのかなどを講話の内容を聞き、被災地の復興はまだ先になると感じました。また今回私たちが訪れた場所に関して、一つ共通したものを見つけることができました。それはそれぞれの場所に未来のビジョンがあるということです。やはりビジョンがあると言うことは、これからの復興するに際し、大きな原動力になると感じました。さらに今回の学びを通して、時には振り替えることも大切ではあるが、そこから復興へとかけ上がっていった方々のその姿勢に逆に自分自信勇気づけられました。そして最後に、災害時に正常な判断を下すために日頃の防災訓練がいかに重要かを改めて考えさせられました。

・今回初めて東北（被災地）を訪れ、街を見ればインフラは整備されて震災後に建てられたまだ新しい家々が立ち並んでいましたが、それらが必ずしも現地の人々のニーズに応えたものではなく、現地の方は不便を感じながらの生活を余儀なくされていることがわかりました。講師の方々が自らの苦しい、辛い経験を私たちに話してくださったことは本当にありがたいことであるし、今回のボランティアツアーで見聞きしたことを身近な人に伝えていくことが次なる自然災害で被害を最小限にとどめるための第一歩になると感じました。



奇跡の一本松の前で集合写真



公営住宅でのボランティア作業



海岸で清掃ボランティア



吉里吉里国での割り体験

# 35. 外来魚駆除ボランティア②

1. 日程 2022年8月31日(水) 駆除ボランティア

2. 場所 千葉県我孫子市四つ池 (NEC 我孫子事業場内 (駆除ボランティア))

### 3. 概要

本企画は昨年度に開催された「外来魚駆除企画」の延長企画である。前回同様に手賀沼水生生物研究会様、NEC様の協力のもと NEC 我孫子事業場四つ池でブルーギルの駆除活動を行った。また、今回は8月31日に外来魚であるブルーギルの駆除活動を行い、10月2日に外来魚が駆除された池に在来魚であるゼニタナゴの稚魚を放流するという2部構成の企画となっている。

8月31日に実施された駆除活動の内容は、釣りによるブルーギルの駆除である。参加学生は4～5名のグループに分かれ、手賀沼水生生物研究会様と一緒に4つある池の釣りポイントで駆除活動を行った。手賀沼水生生物研究会様が釣り竿の扱い方、餌のつけ方、釣り方まで丁寧に教えてくださったため、参加学生は楽しくスムーズに釣りを行っていた。当日は朝～夕方までの長い時間での駆除活動であったが、絶えずブルーギルが釣れる状況であった。これには参加学生も

驚いており、この活動を通して外来魚の問題性を伝えることができたのではないかとと思う。また、参加学生は1～2人で参加された方が多かったが、釣りを通して手賀沼水生生物研究会様や他の参加学生と楽しく喋っている様子が伺えたので非常に素敵な場だったと感じる。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 2年 高木 偉大

4. 学生参加者数 17名

### 5. 企画学生の感想

企画概要でも述べられているが、朝～夕方までの長い時間での駆除活動であるにも関わらず次から次へとブルーギルが釣れる状況であった。最終的にグループごとにバケツ一杯ほどのブルーギルが釣れたが、これでも氷山の一角に過ぎずまだまだ無数のブルーギルが池に潜っていると講師の方がおっしゃっていた。本企画だけではなく手賀沼水生生物研究会様が定期的に駆除活動をおこなっていてもこの現状を考えると、外来魚の恐ろしさと今の深刻な状況を切実に感じた。また、参加学生は釣り経験者の方が多かったが私は釣りの経験がなく当日まで不安を抱えていたが、講師の手賀沼水生生物研究会様が丁寧に釣り方を教えてくださり、活動中もたくさんのアドバイスや手助けをしてくださり戸惑うこともなく非常に楽しく活動を行うことができた。参加学生も手賀沼水生生物研究会様と共にグループごとに親睦を深め合い、和気あいあいとした様子が見られた。この企画は継続企画のため、今回の反省点も生かしつつさらにより良い企画にしていきたいと感じる。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 2年 高木 偉大

### 6. 参加学生の感想

私は、今回外来魚駆除ボランティアに参加し、実際に釣りをしてみて、外来魚しか釣れないということに衝撃を受けました。また数も想像を遥かに超えるもので、外来魚(特にブルーギル)の繁殖能力の高さを実感しました。このような外来魚を何もせずに放置してしまえば、いとまたやすく在来種と完全に入れ替わってしまうということも考えられるので、我々人間が駆除を続けることの必要性を感じました。

法学部法律学科 2年 大山 司恩



駆除した外来魚



駆除後の記念撮影

## 36. エコキャップ投票箱

1. 日 程 2022年9月～（設置期間）

2. 場 所 外濠校舎

3. 企画学生数 4人

### 4. 概要

はじめに、エコキャップを回収することにより、①プラスチック製品へのリサイクル、②ゴミとして焼却した際に発生するCO<sub>2</sub>の削減、③医療支援・ワクチン支援などの社会貢献活動などのメリットが得られます。しかし、エコキャップを分別せずにペットボトルを捨てる様子を多く見かけます。そこで、本企画ではエコキャップを“楽しく”分別できるようエコキャップ投票箱を製作しました。エコキャップ投票箱とは、“たけのこの里”と“きのこの山”どちらが好きか”などの2つの選択肢を設けて投票してもらうものです。これはイギリスの街中で実際に行われている、タバコのポイ捨てを減少させるために設置された“Ballot Bin”をモチーフにしています。エコキャップを“楽しく”分別してもらうため、お題を“身近な事柄”にし、また、投票箱をかわいくデザインするよう心掛けました。投票箱を2つ設置してから数ヶ月経ちましたが、多くの方に投票してもらい大変嬉しく思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 鶴田 淳

### 4. 活動報告

2022年9月29日 企画メンバーミーティング（顔合わせ、企画内容の確認）

2022年10月6日 エコキャップ投票箱製作①（製作開始）

2022年10月13日 エコキャップ投票箱製作②

2022年10月20日 エコキャップ投票箱製作③

2022年10月27日 エコキャップ投票箱製作④（製作終了）

第1回投票開始（大学内に設置）

投票箱①：犬派 or 猫派

投票箱②：たけのこの里派 or きのこの山派

2022年12月15日 第1回投票終了

2022年12月20日 第1回投票結果発表

投票箱①：1位 猫派・2位 犬派

投票箱②：1位 きのこの山派・2位 たけのこの里派

第2回投票開始

投票箱①：夏派 or 冬派

投票箱②：ロッテ トッポ派 or 明治 アーモンドチョコレート派

### 5. 企画学生の感想

エコキャップ回収に新たな工夫をいれてみては、という発想から生まれたこの企画は4人という少数チームでありながら、約1ヶ月という短い製作期間の中でチーム全員のアイデアを取り入れた素晴らしい回収箱を作り上げることが出来ました。そして設置後、投票式回収箱の票数が動いているのを見かけ、企画で目指した“楽しく行えるエコキャップ回収”を達成できたと思いました。

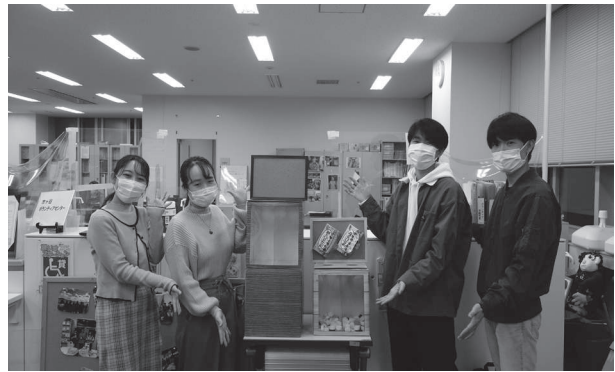
ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科3年 伊東 茉鈴

エコキャップ回収を楽しく行えるよう、回収箱を投票式にしたことや投票のお題、設置場所など、投票したくなるような工夫を施しました。製作期間は短かったものの、企画メンバーと協力して楽しく作業する事が出来、完成度の高い回収箱を作製出来たと思います。また実際に設置してからは、多くの学生が楽しく投票しているのを見聞きし、投票式回収箱に興味を持ってもらえている様でとても嬉しく思います。

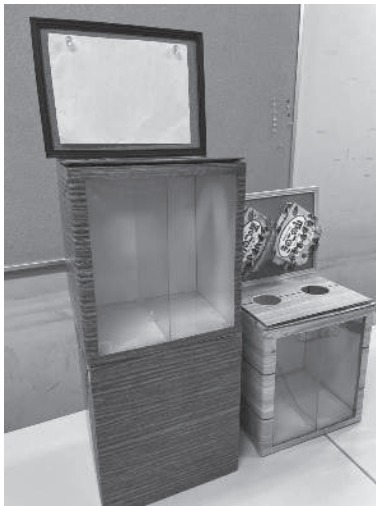
ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科2年 佐藤 莉乃



製作中の様子



完成！企画メンバー集合写真



近くで見ると



投票箱①（設置直後）



投票箱②（設置直後）



投票してみた！



投票箱①（設置2か月後）



投票箱②（設置2か月後）



# 37. 琵琶湖の環境保全～琵琶湖ツーリズム！大学生で考える環境ボランティアの未来 2022～

1. 日程 オンライン講座、事前説明会 2022年9月14日(水)  
実践編(ボランティア活動) 2022年10月16日(日)

2. 場所 Zoom・滋賀県 琵琶湖湖畔

## 3. 概要

関西大学主催ボランティアイベント「琵琶湖の環境保全～琵琶湖ツーリズム！大学生で考える環境ボランティアの未来 2022～」に昨年に引き続きご招待いただきました。本イベントは9月14日(水)のオンライン講座と、10月16日(日)の駆除活動の二部構成で本学からは延べ19名の学生が参加しました。

オンライン講座では、前半には滋賀県立琵琶湖博物館特別研究員の中井克樹氏に登壇いただき、琵琶湖の環境保全(特に侵略的外来生物への対策)をテーマにご講演をいただき、琵琶湖の環境保全の現状を学びました。また、後半では現地で2大学が連携して活動できるように学生同士の意見交換会や交流会も実施されました。

16日の活動は長浜市南浜漁港で特定外来生物に指定されているナガエツルノゲイトウの駆除を中心に行いました。活動現場はナガエツルノゲイトウが群生しており、停泊している船が出港できず漁協の方が困っている状態であったため今回の活動場所になりました。ナガエツルノゲイトウは水辺に生えているため湖から引き上げなければならず重労働でしたが、参加者は懸命に駆除活動を行っていました。また、活動は役割を分担し協力しながら実施したため、活動を通して参加者に一体感が生まれ、最終的には今回の目標となっていた駆除エリアを全て片付けることができ、達成感も味わうことができました。市ヶ谷ボランティアセンターは今後も関西大学と連携をして合同ボランティアを実施していきたいと考えています。

## 4. 学生参加者数

オンライン講座、事前説明会 30名(法政10名、関西18名、明治2名)  
実践編(ボランティア活動) 38名(法政9名、関西29名)

## 5. 参加学生の感想

水草の処理は、すぐに終わるという先入観は今回のボランティアを行うことにより完全に払拭されました。画像や動画だけだと大変さというのは全く伝わらなく、実際に行くことによって理解できました。これは、水草の処理だけでなく他の事にも当然当てはまると思います。なので、物事を傍観のみだけではなく実践を行なったのちに改めて考えることを増やしていきたいと思いました。また、かなり大変な作業ではあったものの達成感を強く感じることができました。今まで、ほとんど自分のためにしか生きてこなかったけれど、人のために体を動かすことがこんなにも気持ちの良いことなのだと感じました。参加して良かったです。

2022年度「3大学共通(関西・明治・法政)ボランティアセンター」共同企画  
**琵琶湖の環境保全 募集!**  
～琵琶湖ツーリズム！大学生で考える環境ボランティアの未来 2022～

**\*オンライン講座**  
【実施日】9月14日(水)13:30～15:30  
【場所】Zoom  
【定員】なし  
【内容】・琵琶湖の環境について(講演)・小グループにわかれての交流会  
【スケジュール】  
13時30分～13時40分 開会・関西大学から琵琶湖活動の紹介  
13時40分～14時40分 講演  
14時40分～15時25分 交流会  
15時25分～15時30分 閉会・記念撮影・アンケート

**\*琵琶湖外来植物駆除活動**  
(駆除活動に参加の方は上記のオンライン講座の参加も必須です。)  
【実施日】10月16日(日) ※予備日11月20日(日)  
【定員】10名  
【参加費】10,000円(昼食費込)  
【内容】琵琶湖での外来植物駆除活動  
【スケジュール】(予定)  
・6:45 東京駅集合  
・7:00～9:48 新幹線で現地駅まで移動  
・10:00～16:00 関西大学の指示に従い駆除活動、昼食、記念写真撮影など  
・16:00～20:00 移動中東駅で解散  
【申込方法】  
市ヶ谷ボランティアセンター (chiyavoc@ipc@kai.ac.jp)までメールにて、  
件名「琵琶湖の環境保全」とし、「氏名」「学部・学科」「学生証番号」「メールアドレス」  
【①オンライン講座参加希望又は②両方参加希望】を明記してください。  
お問合せ 市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1号・学生センター内)  
TEL. 03-3284-9516 Email: ichiyavoc@ipc.kai.ac.jp



丸子船から駆除活動を行う学生たち



関西大学の学生と集合写真

理工学部機械工学科3年 稲見 竜弥

## 38. 大学生と簡単・楽しい楽器作り

1. 日程 2022年9月17日(土)
2. 場所 千代田区高齢者総合サポートセンター かがやきプラザ1階  
ひだまりホール

### 3. 概要

千代田区社会福祉協議会 Ciao 様にご協力いただき、参加者を6つの班に分けて、交流しながら楽器を手作りし、制作した楽器を用いて全員で演奏するイベントを実施した。

前半の楽器作りでチーズの箱を使ったタンバリン、ペットボトルマラカス、ペットボトルのキャップと牛乳パックを組み合わせて作るカスタネットを用意し、未就学児や高齢者と学生ボランティアと一緒に楽器作りを楽しんだ。またイベントの後半では子どもから大人まで楽しめるように、おもちゃのチャチャチャ、かえるの合唱、幸せなら手をたたこうの3曲を用意し手作りの楽器を演奏しながら交流を深めた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科3年 飯村 美南

4. 学生参加数 14名

### 5. 企画学生の感想

今回の音楽工作企画に携わり、参加者の方々が自分たちで作った楽器を音楽に合わせて楽しそうに演奏する姿を見て、普段何気なく捨ててしまっているペットボ

トルや牛乳パックなどでもこんなに楽しむことができるのだと感じました。リサイクルにもなり、楽しむこともできる当企画からはSDGsに対する意識も高まりました。未就学児から高齢者まで幅広い年代の方々と交流をできてとても良い機会になりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科3年 松村 早紗

### 6. 参加学生の感想

・音楽が好きで特に打楽器に興味があり参加しましたが、身近にあるものを使って楽器を作ることが、楽しかったです。既存の楽器にとらわれない様な楽器を自分で考えて作るといったような物もあるととっても面白いと思いました。9歳のお子さんと一緒に作りましたが、マスカラとタンバリンを組み合わせたたりして。演奏していて面白かったです。



手作り楽器の作成



全員で記念撮影

ちよだて多世代交流  
ちやお  
**Ciao!**  
VSP

大学生と  
簡単・楽しい  
楽器作り

事前申込制  
9/17(土)  
10:30~12:00  
かがやきプラザひだまりホール  
定員20名

- ・マラカス
- ・タンバリン
- ・カスタネットを作ってみよう

参加費：無料  
対象：区内在住の方  
協力：法政大学ボラン  
ティアセンター

かがやきプラザ  
多世代交流担当  
千代田区九段南1-6-10  
かがやきプラザ4階  
電話：03-6265-6563  
mail: ciao@chiyoda-  
cosw.jp

# 39. 千代田区男女共同参画センター 第10回MIW祭り

1. 日程 2022年10月1日(土)

2. 場所 千代田区役所1階

## 3. 概要

2022年10月1日(土)に、千代田区の男女共同参画センター(MIW)の主催するMIW祭りに参加しました。10回目をむかえるMIW祭りの今年のテーマは「色とりどりの幸せのカタチ」です。世の中の「普通」に当てはまらない、いろいろな幸せのカタチがあることを想像しながら、「誰もが生きやすい男女共同参画社会」について各団体がそれぞれ考え、展示や体験ブースを設けました。

私たちVSPは、ポッチャの体験ブースを設置し、多くの方にご来場いただきました。男性、女性はもちろんのこと、お子さんからお年寄りまで幅広い年齢層の方がポッチャを楽しまれました。

ボランティアセンター学生スタッフ・VSP 人間環境学部人間環境学科2年 富島 祐菜

4. 学生参加者数 3人

## 5. 企画学生の感想

今回初めてMIW祭りに参加して、他大学さんや地域でボランティアを行っている方々と交流することができ、とても良い機会だったと思います。

子どもから高齢者まで多くの方がポッチャ体験ブースに来ていただきました。皆がポッチャを体験し楽しんでいる姿を見ることができ良かったと思う反面、「ポッチャ」という名前は知っていてもやったことはないという方が多く、中々このような体験ができる機会ってないのかもしれないと思いました。バラスポーツの一つであるため、もっと多くの方にポッチャを体験してもらい、どのような競技でどれほど難しいのか知ってほしいなどと改めて感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ・VSP 法学部法律学科3年 飯村 美南

数年ぶりのMIW祭りということで、多くの方に楽しんでいただけるか不安だったのですが、小さいお子様からご高齢の方まで、幅広い年代の方がご参加してくださいました。また、「ポッチャは知ってるけど、やったことがない」という方がほとんどだったのですが、体験し終わった後は、「楽しかった」「もっとみんなに知られてほしい!」と好意的な感想を多くいただくことができました。

バラスポーツ種目を実際に体験するような機会はあまりないと思うので、今回このような機会をみなさんに提供できて良かったです。

ボランティアセンター学生スタッフ・VSP 法学部政治学科3年 田中 みのり



千代田区役所一階展示の様子



ポッチャを楽しまれるご家族

## 40. エコキャップでカラフルカメレオン

1. 日程 2022年10月～2023年3月末（設置期間）

2. 場所 外濠校舎1階エレベーターホールに設置

3. 企画人数 2人

### 4. 概要

ペットボトルキャップを回収するためのボックスを作成しました。カラフルなカメレオンをイメージしており、キャップの色ごとに分けて入れてもらうものです。市ヶ谷キャンパスを利用している方にペットボトルキャップの寄付を楽しんでいただく目的で作成を開始しましたが、10月に完成してからおよそ3か月でボックスが満杯になるまで寄付していただきました。ご協力いただきありがとうございました。今後も外濠校舎1階に設置しておく予定ですので、よろしくお願いいたします。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 太田 健介

### 5. 企画学生の感想

ただ漠然と、エコキャップ回収の方法に関してどのようにしたら興味を持ってもらえるのか、なにか案を探っていました。ふと学校の帰り道に帰っている途中、何気ない時間に友達と思いついたのが、VSPのキャラクター、カメレオンでした。制作に携わってくれた友人がどこかの駅でキャップアートを見たという情報をきっかけにして、2人で思いついたのを今でも覚えています。ただ、制作期間は長かったので、大変ではありましたが、その分、完成したときのやりがいは大きかったです。職員さんのお手伝いなども借りながら、なにか友人と協力して成し遂げることの嬉しさを感じられました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 杉山 裕都



色別にエコキャップを入れる様子



完成したカラフルなカメレオンと記念写真

# 41. 外来魚・外来生物駆除ボランティア ゼニタナゴ放流会

1. 日 程 2022年10月2日(日)  
2. 場 所 千葉県我孫子市四つ池(NEC 我孫子事業場内)

## 3. 概 要

本企画は昨年度に開催された「外来魚・外来生物駆除企画」の延長企画である。この企画の講師である手賀沼水生生物研究会様と NEC 様が主催されるゼニタナゴの稚魚の放流会に参加し、放流会のお手伝いをするという企画である。今回は人工池で育った在来魚のゼニタナゴの稚魚を、外来魚を駆除した NEC 我孫子事業四つ池に放流するという流れである。当日の内容は、まず午前中に人工池からゼニタナゴの稚魚の捕獲を行った。胴長を着て実際に池に入り捕獲網でゼニタナゴの稚魚の捕獲をした。午後は始めに手賀沼水生生物研究会様から外来魚の危険性、今の池の現状、これからの在来魚問題についての講義が開かれた。その後、稚魚の放流会が行われた。午後からは地域住民のご家族が参加され、千葉県我孫子市の市長様も参加された。外来魚駆除と在来魚保護を行い我孫子の池の生育環境を保全するだけでなく、地域住民の交流の場となっている本事業は大きな価値があり、引き続きこの活動を手助けしていけたらと思う。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科 2年 高木 偉大

4. 学生参加者数 4名

## 5. 参加学生の感想

実際に池の中に入って網を使いながら小魚をとるといふ今後絶対にならざる貴重な経験ができてとても楽しかったです。また、ゼニタナゴの放流ができるまでに色々な苦労があったことや今回放流ができる機会に参加出来たことはとても運が良かったなと思いました。特に生き物の生態については環境に強く依存していると思われるため、予測がつかない変化に対応していく事はとても難しいことだと感じました。このような経験をするまで私は今回のゼニタナゴのような活動を知ることがなかったため、自分の知らないところでは様々な環境に対する取り組みがされているという事を肌で感じる事が出来て、とても新鮮で学ぶことが沢山ありました。新しい価値観に触れられた事にとても感謝しています。今回はありがとうございました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部システムデザイン学科 3年 風澤 俊哉



ゼニタナゴを網で捕獲



ゼニタナゴの稚魚を放流する様子

# 42. 手話講座 入門編 (全8回)

1. 日程 2022年10月5日、12日、19日、26日、11月9日、16日、30日、12月7日 (全8回)

2. 場所 富士見ゲート6階 G602 教室

### 3. 概要

手話講座入門編では、手話通訳士としてご活躍されている中野佐世子先生を講師に招き、全回対面で開催しました。

テキスト「遊んで学べる手話ゲームブック」や先生の手作りの教材も使用し、全8回の講義を通じて手話の語源から、指文字の表し方まで幅広い知識を身に着けました。また、基本的なあいさつや日常会話は、歌にのせて楽しく覚えられました。さらに、障がいとのかかわり方について、中野先生の実体験を交えた貴重なお話を聞くことができました。初めて手話に触れる学生が多い中、毎回ペアを組んで練習を行い、学年や学部を越えて助け合いながら学びを深めることができました。

先生のお言葉で「手話は、ろう者にとって『コミュニケーション手段』ではなく、『言語』である」というものが特に印象に残りました。今後の人生において障がいのある方に出会った際には、この言葉を思い出して接するとともに、手話講座を通して得た知識や技術を応用して障がいと向き合っていきたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科1年 渡邊 修

4. 学生参加者数 236名 (全8回延べ人数)

### 5. 参加学生の感想

言葉、想いを丁寧にまっすぐに伝える手話がとても好きになりました。普段話していると、声が小さくなってしまったり、相手を見ていなく、'伝える'ということに対して少し雑になってしまっているときがあると感じていました。それに対して手話は相手を見て、全身で伝える、そんなコミュニケーション手段がとても素敵だと思いました。中野先生の手話や講義がとても楽しかったです！少しの興味だったものが大きい興味になったのでこれからも手話や様々な人が過ごしやすいようになるための理解をしていきたいと思いました。

経営学部経営学科1年 浅見 有萌



法政大学市ヶ谷ボランティアセンター主催・ボランティアプログラム

## 手話講座 入門編

楽しい歌やゲームも交えて簡単な会話を学びます。新型コロナウイルス感染防止の為、講義をオンライン (Zoom) で行う場合があります。

※手話初心者対象です。 ※全8回に出来る限り参加できる方を募集します。

**10月5日 (水) ~全8回**  
10月5日、12日、19日、26日、11月9日、16日、30日、12月7日 毎回水曜日に開催します。

時間: 16:50~18:30 (5限) 場所: G602教室  
募集対象: 本学部学生・定員40名 (定員に達し次第締切り)  
講師: 手話通訳士 中野 佐世子 氏  
申込方法: 右下のGoogleフォームまたは下記メールにてお申し込みください

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター  
Tel: 03-3264-9516  
Mail: [ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp](mailto:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp)




歌に合わせて手話を学ぶ



講座終了後、習った手話で集合写真

市ヶ谷ボランティアセンター  
活動について  
活動の報告

# 43. 一緒に優しい社会を作ませんか？～ダウン症から考える共生社会③交流編～

1. 日程 2022年10月6日(木)

2. 場所 Zoom

### 3. 概要

「ダウン症」という言葉は多くの人に知れ渡っている一方で、当事者の方々に対する理解や配慮が、現在の社会では不十分なのではないかという問題意識を持っている。当事者の方々に対して偏見の目を持たずに、理解や配慮ができるようになるためには、知識を得ること、知識を基に自分たちがすべきことを考えること、実際に交流することの全てが必要だと私たちは考えている。また、ダウン症に関する企画はこれまで5回実施してきており、特に今年度は企画をより活発化させるために開催頻度を増やしている。今年度の1回目はオンラインにてNPO 法人アクセプションズにご協力いただき、ダウン症に関する講義を実施し、2回目は一人一人のダウン症のある人たちにスポットライトを当て、学生間で共生社会を実現するためにはどうすればよいかについて話し合いをした。そして3回目となる今回はオンライン上でダウン症のある人たちとの交流をした。当日は8人のダウン症のある人たちに参加していただき、学生とグループを組んで「好きなもの紹介」と「絵で答える連想ゲーム」を通して交流を深めた。その後、全体で感想を共有し、協力団体のアクセプションズの方からまとめのお言葉を頂いた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 平津 桜那

4. 学生参加数 9名(法政大学7名、関西大学2名)

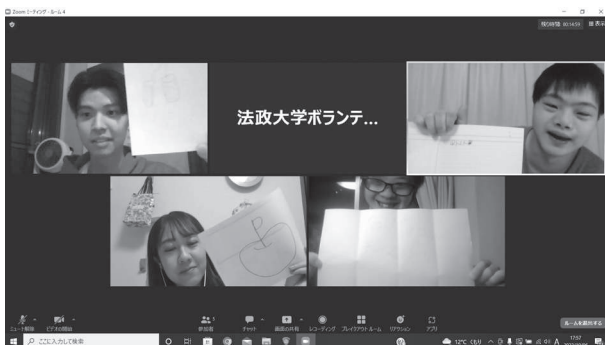
### 5. 企画学生の感想

ダウン症企画の第3弾として今回行った企画が、今年度ダウン症のある人と初めて直接関わるものとなりました。まず第一に、交流の経験がなく心配していた学生参加者の方々にも楽しんでもらえたことがとても嬉しく感じました。また、アンケートから、実際に話を聞いて配慮すべき部分や、私たちと変わらないところなどを学べたという声が多く、そのような学びの機会を提供できたことも良かったと思います。運営面では課題も感じましたが、それを改善できるように努め、次のイベントはより良いものにしたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科2年 菅原 光里

### 6. 参加学生の感想

ここからは事後アンケートの結果を参照し記載していく。まず本企画全体の満足度については、5段階評価で4が44.4%、5が55.6%という回答であった。「当初はダウン症のある方たちとどう交流すればいいかわからず緊張していたが、みんな明るく優しくだったのでむしろ元気をもらいすごく楽しかった」や「普通に生活をしていると関わる機会が少ないダウン症の子ども達と交流することができてよかった」など交流企画ならではの感想が多く寄せられた。また、「ダウン症の子ども達と会話のペースを合わせることによって、コミュニケーションがとりやすくなったと感じた」や「今までどこか住む世界が違う人というイメージを持っていたけど、今回のイベントで同じ目線に立つことができた気がする」などこの企画を通して学びを深められた学生もいて大変うれしく思う。



連想ゲームでは絵で勝負



笑顔で記念撮影

# 44. 「もしも」に備える 防災キャンプ

1. 日程 2022年10月8日(土)～9日(日)

2. 場所 外濠校舎全体、市ヶ谷体育館他

## 3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは10月8日(土)から9日(日)にかけて、防災啓発活動の一環として防災キャンプを実施しました。今年は「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」の東京家政学院大学と二松学舎大学から5名の学生にご参加いただき、法政大学の学生と合わせて44名が本企画に参加しました。震度6強の首都直下型地震(大学内の電気ガス水道等は使用不可、火災等の複合災害はなし)を想定として、新型コロナウイルス対策を徹底した上で実施しました。1日目は講師の宮崎賢哉氏によるガイダンス、起震車での地震体験、防災備蓄倉庫の見学、災害発生時の学生ボランティアスタッフの動きを学ぶ学内探検、担架・車椅子講座、非常食の実食、クロスロード(防災ゲーム)企画、AED・胸骨圧迫講座、SNSの使用法などの防災講習、段ボール等を使用した寝床作りを行いました。2日目は避難所で発症し得るエコノミー症候群対策として人間環境学部の朝比奈教授によるヨガ講習、身近なものを使用して防災グッズ作り、災害時に便利なアイテムの紹介、停電を想定した暗闇体験を行いました。

ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ  
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 小林 なな

4. 学生参加者数 44名(法政39名、東京家政学院2名、二松学舎大学3名)

## 5. 企画学生の感想

今回参加していただいた皆さんからこの防災キャンプに来られて良かったという声をたくさんいただき、企画を担当したチームオレンジのメンバー共々、防災キャンプを行うことができ良かったと思います。普段では考えることのできないようなエスカレーターが使えない、暖かいご飯がない、布団の上で寝れない等様々な困難を体験したことによって、被災した際に何が必要なのか、何を準備しておけばいいのかなど普段からの防災意識の重要性を改めて感じました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 影山 絢菜

自分が被災した時の状況が大まかには理解でき、楽しかったが、1泊2日だけでもとても疲れた。しかし、実際に被災した場合はトイレもインターネットも使えない可能性が高い事を考えると、この防災キャンプよりも過酷なものになることが怖くなった。班としては非常食の準備を担当したのだが、食べ終わった後に皆に感想を聞くと、美味しかったと言ってくれた。自分たちで味見をせずに決めて、美味しいか心配だったためとても安心した。

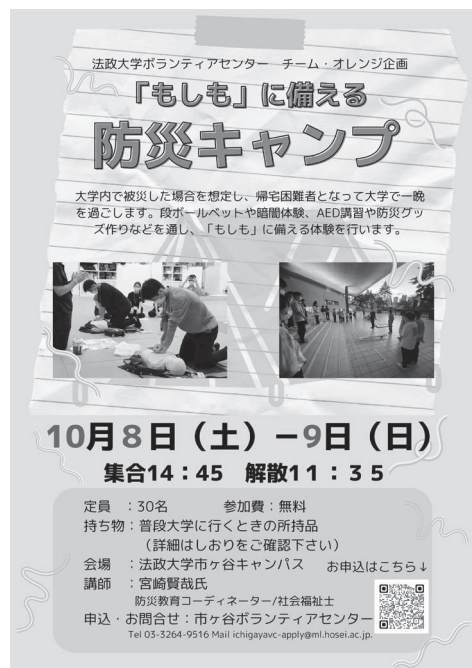
ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科1年 中村雪輝

## 6. 参加学生の感想

防災キャンプに参加して、いつ起こるか分からない災害のために意識を高く持つ必要があると改めて学べました。2日間を限られた食料と備品で過ごさなければならないのはこんなに大変なことなんだと実感しました。特にスマホのバッテリーがいつでも充電できる環境でないことが大変で普段いかに連絡手段、娯楽、電子マネーと全てをスマホに頼っていたのか実感しました。緊急事態を想定して、ちょっとした食料や現金、便利グッズなどを普段から持ち歩くようにしたいと思うようになりました。

人間環境学部 2年

今回の防災キャンプを通じて、災害に関する知識が深まり、地震に対する心構えを持つことが出来ました。学内で被災したらどうなるのかを実際に体験したことで、「災害」がより身近になったと思います。はじめに起震車体験をしたことで、震度7の揺れの恐ろしさを感じ





られたため、その後の防災企画により真剣に取り組むことが出来ました。特に印象的だったのは、法政大学が備蓄している食料の量です。1人3L×3日分が推奨されているにも関わらず、1人1L×3日分しか備蓄されていないことに驚きました。また食べ物の量も非常に少なかったのが印象的です。日々飲み物や食べ物を持ち歩くようにしたいと思います。

法学部 1年



起震車で地震体験



ブルーシートを使った担架



段ボールで寝床づくり



全員で記念撮影

# 45. 富士山企画～よりよい環境づくりへの挑戦～

1. 日程 事前講義・説明会 2022年10月11日(火)

自然保全企画 2022年10月23日(日)

2. 場所 事前講義・説明会 大内山校舎8階Y802教室

自然保全ボランティア 静岡県 富士山麓

## 3. 概要

VSPの学生スタッフは、NPO法人富士山クラブ様にご協力いただき、富士山の環境問題について考える講義企画、富士山麓での自然保全企画と2種類の形式で活動を実施しました。現地で行う自然保全企画の前に参加学生に富士山の環境問題に関しての理解を深めてもらうために講義企画を行いました。講義では富士山周辺で起きているシカ問題やごみ問題を中心に説明していただきました。ディスカッションでは各グループに分かれ、前半の説明を踏まえ、富士山の「ゴミ問題」をテーマとして日常生活と自然環境との結びつきに関して意見を出し合い、学生の中での自然保全の理解を深める機会となりました。

自然保全企画では企画の初めに富士山クラブ様に里山づくりについての説明をいただき、4チームに分かれて薪割り、木の伐採、シイタケの栽培地の移転、木の階段づくりと各グループ異なった活動を行いました。木の特徴を理解していないと上手くない作業が多々あり、林業従事者の経験の高さを感じるとともに、私たちの生活が自然から離れていることを再認識する機会となりました。今回の活動を通じて自然保全の実態の一端を知ることができたとともに、自然の中での活動が私たちに与えてくれる学びを多く理解できました。今後も富士山の自然に関する活動に関われるようにしたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 2年 薄井 春彦

4. 学生参加数 事前講義・説明会 33名(法政28名・共立女子大学1名・明治大学2名三輪田学園2名)

自然保全企画 35名(明治大学2名)

## 5. 企画学生の感想

### ・講義企画

私はこの企画が初めての企画であり期待と不安でいっぱいでした。夏休みから準備を始め教室でのリモートのつながり方や参加者の座り方を考え、講義前のリハーサルで当日の流れを把握し本番に挑みました。利用する教室が前時間に授業を行っていて準備に時間がかけられなくあたふたしてしまったり、と富士山クラブさんにも迷惑をかけてしまいました。しかし受講者の方々はしっかりと富士山クラブさんの講義を聞いてくださっていて良かったです。今回得たことを今後に生かしていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1年 富士 祥花

### ・自然保全企画

今回、私は3度目の富士山現地ボランティアへの参加でした。班ごとにそれぞれの作業が振られ、私達の班は薪割りをやりました。作業をする中で、現地のスタッフさんからコツや、木の状態についてなど、普段なかなか身近ではない自然に直接触れる機会だからその経験と知識を得ることが出来ました。参加してくれた学生からも「はじめは面倒だなと思ったけれど、エネルギーをやることの大変さを実感できた」という声を直接聞くことができ、現地ボランティアを意義あるものにできたことを企画者として嬉しく思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科 2年 浅香 光希

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP企画

## 富士山企画

～よりよい環境づくりへの挑戦～


富士山のゴミ問題は解決に向け前進していますね。登山道ではゴミを見かけることが少なくなりました。ところが富士山の山麓や周辺の道路、林道には様々なゴミが捨てられています。なぜこのような違いが生じているのか、そもそも富士山でどのような環境問題が生じているのか考えてみませんか。

10月23日(日)に富士山麓で行う保全活動に参加希望の方は必ず本企画に参加してください。現地活動に参加したいけれど、本企画に授業等で参加できない方は別途対応いたしますのでお気軽にご相談ください。  
※本企画のみの参加申し込みも受け付けております。

日時:2022年10月11日(火)16:50~18:30  
場所:大内山校舎Y802  
講師:NPO法人富士山クラブ  
定員:40名  
お問い合わせ:法政大学市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター内)  
TEL:03-3246-9516  
Mail:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

(スケジュール)  
16:50~:導入  
16:55~:講義  
17:35~:ディスカッション  
18:05~:現地ボランティアについて  
~18:30:終了予定

お申込みは  
こちらのQRコードから



## 6. 参加学生の感想

とても充実した内容で楽しみながら学びを得ることができた。グループに分かれて活動したが、活動するうちに協力体制が整って行ったことを実感した。そして、指導員の方からは普段学校で習わないような、現場のリアルな情報を教えていただいた。また、食料が手元にあることが当たり前と思うが、その裏には沢山の苦勞があることを知りさらに感謝の気持ちが芽生えた。

経済学部国際経済学科 4年 三木 愛結実

今回、初めてボランティアセンターのボランティアに参加しましたが、想像以上に充実とした内容でした。普段生活している時には体験できないような様々な経験をする事ができ、貴重な一日となりました。私の班では、伐採された木や地面にある枝を回収し、運搬する作業だけでなく、太さ30センチ程の木を伐採する作業も行いました。どの作業もかなりの体力を要し、帰宅時には疲労困憊でしたが、みんなと協力して楽しみながら遂行できたので、非常にやりがいがありました。また、林業というのは木を切り倒すのが主ではなく、その後の作業が大変である事を身に沁みて感じました。富士山クラブの方々との交流を通じて、自然と人との関わり合いの大切さだけでなく、これまで知る機会がなかった林業の魅力についても知ることができました。今後も自然に関係するボランティアに参加したいと思います。

法学部法律学科 3年 加藤 大喜



事前説明会の様子



木の階段が完成！



木の伐採にも挑戦しました



活動後の集合写真

# 46. 東北被災地ボランティアツアー 報告展示会

1. 日程 2022年10月14日（金）～10月20日（木）

2. 場所 外濠校舎1階 メディアラウンジ

### 3. 概要

2022年8月25日～27日、8月28日～30日の2回にわたり、NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークの皆様のご協力のもと、東北被災地ボランティアツアーを実施いたしました。現地東日本大震災の伝承館訪問や講和では、未来へ繋ぐべき震災の記憶と教訓を学び、想像をはるかに超える被災地の爪痕に参加学生全員の心が大きく動かされる経験となりました。このボランティアツアーを通して学んだ被災地の現状を少しでも多くの方に知ってもらうためにボランティアツアーを運営したチーム・オレンジの学生スタッフがボランティアツアーの記録を展示しました。

4. 企画学生数 5名

### 5. 企画学生の感想

今回、8月下旬に実施した東北被災地ボランティアツアーの活動内容や現地での学びを外へ発信することを目的とした展示企画を実施しました。ボランティアツアーでは、現地にて貴重な体験やお話しをして頂きました。ボランティアの活動内容やその意味、講話の内容や訪れた施設の説明等を展示し、ボランティアツアーで得たものを他の法大生にも伝えたいと思いこの企画を考えました。他にも、現地の様子や震災遺構などを展示し、「現地の今」を知ってもらう機会になるよう工夫しました。今まで、ツアー企画を通し、現地で得たものを外に発信する機会は中々ありませんでした。震災の風化防止や現地の今を知ってもらうためにも、現地で得たものを外へ発信していく活動をこれからも行っていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科3年 宮本 花穂

今回は東北被災地ボランティアツアーの展示をメディアラウンジで行ってみるのはどうかという宮本さんからの提案を受け、ボランティアツアーで、企画リーダー・現地リーダーの双方を担当していたので、ボランティアツアーの経験を更に広めることが出来るかと思い、参加しました。私が行ったことは展示に使う写真の提供・選定、そして一部の文章の書き出しなどの部分、後はメディアラウンジのボードに写真や文章を固定する作業を行いました。参加した感想は、自分が企画で担当したボランティアツアーを参加していない人にも知ってもらえる機会が作れたこと、自分の中で講話をして下さった方や現地の写真を選定することで、改めてボランティアツアーや被災地に想いを馳せることができたということが、時間が経っても東日本大震災を忘れないことに繋がっていくと思いました。また自分の中で学んだことを整理し、震災を経験していない世代や関東圏の学生に伝えていくというチームオレンジの目指す目的を体現する活動になったのではないかと思います。

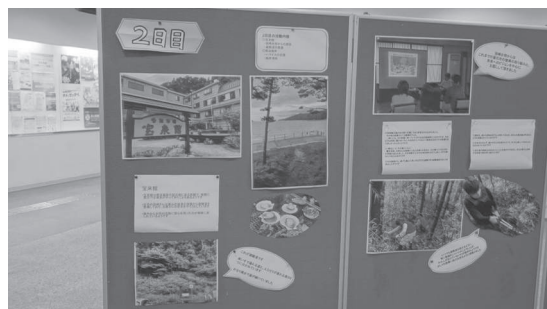
ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科3年 竹内 健晃

私たちはこの企画でいくつか工夫した点があります。1つ目は写真をメインにし、印象的になる様に伝えることです。ただ文字を並べるのに比べ、津波の恐ろしさや現在の被災地の様子をわかりやすく伝えられたのではないかと思います。2つ目は被災地に存在する『命』を伝えることです。どうしても被災地に対してネガティブな印象を持ちがちですが、一度津波が来たところに生える植物や一度被災しても立ち上がった現地の人々の命の強さを伝えられて、被災地に対する印象が変わったのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 経済学部経済学科2年 滝野 健太



展示の準備をする学生スタッフ



現地での活動や学びをわかりやすく展示した

# 47. Beach Clean Project 第2弾

1. 日程 2022年10月22日(土)

2. 場所 平塚ビーチセンター付近

## 3. 概要

学生に向けて近年深刻化している海の環境問題について考える機会を作ることを目的として本企画を計画した。第二弾となる今回も平塚ビーチセンター前にて日本で唯一の海岸美化専門の団体である「公益財団法人かながわ海岸美化財団」様のご協力のもと海岸清掃を実施した。参加学生とともに4グループに分かれて海岸清掃を行い、最後に集めたゴミをブルーシートの上を広げてゴミの種類等のフィードバックをもらった。また、今回はFMヨコハマ様に本企画の活動について取材していただいた。

今回の清掃ではフィギュアの部品やデッキブラシのブラシ部分、錠剤のプラスチック包装など明らかに海で捨てられたものでない細々としたゴミが多くあった。前回の講義での海岸ゴミの大半は海で捨てられたものではないというお話が改めて実感できた。それと同時に海岸清掃だけでなく日常的な大学の清掃活動などを通して町のゴミが海岸に流れ着かないように一人一人が意識する必要があると感じた。また、今回は本企画が初めてのボランティアだという方が多く参加してくれたため、新たに学生がボランティアや環境問題に関心を持つ機会となれば良いと思った。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 守綾乃

4. 学生参加者数 20名

## 5. 企画学生の感想

五月に海岸清掃をおこなったときは、途中で雨が降ってきてしまったため十分な活動時間がとれなかった。しかし、今回は約1時間海岸清掃の活動時間がとれたことがよかった。ゴミ袋を可燃と不燃に分別して集めたことで、海岸ゴミの特徴が前回よりも可視化されてやりがいを感じた。同時に清掃活動をしている団体がいたにも関わらず、ゴミがたくさん拾ってしまったのでまた海岸清掃活動をしたと思った。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 今給黎 優那

今回は、前回よりも長い時間で活動できたため満足感があつた。チームに分けたことで参加者同士の交流も見られ、より活動に意欲的になっていたと感じた。集めたゴミをブルーシートの上を広げ、チームごとに共有しフィードバックをいただいた時間は、海岸ゴミについて深く考えられ有意義であった。運営面では時間の管理や企画メンバー内の情報共有不足等の課題を感じたため、次回開催する際は改善に努める。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 高木 偉大

## 6. 参加学生の感想

川から流れ着いたゴミは、変形したり、1部しかなかったりと、それぞれに物語がある気がしました。それを考えながらゴミを拾うと楽しくて、あっという間に時間が過ぎました。プラスチックの問題とか考えるきっかけになる良い経験が出来ました。1回で終わらせずやり続けていくことが大事だと思いました。

経営学部経営学科3年 前田 野乃花

海岸の清掃は初めての経験でしたが金属やマイクロプラスチック、発泡スチロールなどのさまざまな種類のごみを拾う体験を通して海岸がどんなもので汚れているのを見て学んだり、どのようにゴミが流れ着くのかを考えたりすることができ、環境のことに気をつけるいい機会となりました。また、一緒にボランティア活動に参加した人達とコミュニケーションを取りながら楽しくクリーン活動をすることができました。可能なら次回も参加したいと思います。

経営学部市場経営学科2年 富澤 悠大

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画  
公益財団法人  
かながわ海岸美化財団様 協賛

# BEACH CLEAN PROJECT 第2弾!

【内容】海岸清掃 あなたのその手で 海を綺麗にしませんか?  
【定員】30名程度  
【日時】10/22(土) 10:30~12:30 ※雨天時は29日  
【活動&集合場所】平塚ビーチセンター前 ※平塚駅から徒歩20分

【お問い合わせ先】 市ヶ谷ボランティアセンター (外瀬校舎1階学生センター内) TEL:03-3264-9516 MAIL:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

【申し込み先】



清掃後の集合写真



神奈川県平塚ビーチセンターにて清掃作業

# 48. 神保町ブックフェスティバル

- 1. 日程 2022年10月29日(土) 30日(日)
- 2. 場所 神田神保町 すずらん通り 神保町三井ビルディング公開空地

**3. 概要**  
 第30回「神保町ブックフェスティバル」が10月29日と同30日の2日間、2019年以來3年ぶりに開催されました。会場は東京・千代田区の神田神保町、すずらん通り、神保町三井ビルディング公開空地になります。本学からも2日間で40名のボランティアスタッフが参加しました。活動内容は見回り隊(感染対策・マスク着用の声掛け、ゴミの回収) 交通案内(道路横断者の誘導、案内)、インフォメーション(入り口で来場者への検温・消毒の呼びかけ、会場案内)を各人グループに分かれ担当しました。

全国でも最大級の規模を誇る、読書の秋にふさわしい本のお祭り「神保町ブックフェスティバル」。出版社をはじめとした多数のブースが並び、幅広いジャンルの書籍を販売されました。お天気にも恵まれ、また学生、社会人の方のボランティアスタッフの活躍もあり、本好きにだけでなく、老若男女、ご家族みんなで楽しめる2日間となりました。

- 4. 学生参加者数 10月29日(土) 18人
- 10月30日(日) 22人

**5. 参加学生の感想**  
 インフォメーションを担当しましたが、ブースの場所などを聞かれ、地図を出しながら説明するとお礼を言うてくださる方やチラシを配ると「ありがとうございます」と声をかけてくださる方がいました。とても、些細なことですが、感謝してもらえることがやりがいになりました。3時間という短い時間でしたが、一緒にボランティアした人たち、ブックフェスティバルに来てくださった人たちなど多くの人と関わることができ、大変充実した時間を過ごすことができました。

経営学部経営学科3年 石田 和香

ボランティア活動に参加するのは初めてだったのですが、非常に有意義な時間を過ごすことができ、とても良い経験になりました。元々、本が好きということもありブックフェスティバルの存在も知っていたので、今回少しでもお手伝いをする事が出来て嬉しかったです。また参加させていただけたらと思います。

文学部日本文学科2年 永利 有里

市ヶ谷ボランティアセンター・地域貢献ボランティア  
 本の街  
**神保町ブックフェスティバル**  
 連盛ボランティア募集!  
 10月26日(土) 27日(日)  
 場 所 : 神田神保町 すずらん通り・さくら通り  
 集合場所 : すずらん通り本館前 (神保町駅下車A7出口)  
 本の街として知られる東京・神田神保町で60日目を迎える「神田古本まつり」、10月25日(金)～11月4日(月)にかけて行われます。中でも盛り上がるのは、10月26日(土)、27日(日)に行われる「神保町ブックフェスティバル」。大手から中心のまでさまざまな出版社が趣向で本を販売します。本好きが「掘り出し物」や「お宝」を求めて神保町に集まります。新刊本をいち早く読みたいが、地域に届けたいが、本の街でのボランティア、神田神保町を身近に感じてみませんか。  
**ボランティア概要**  
 ●受付ボランティア(4時間)  
 9:30～13:30 各日1名(26日・27日)①  
 13:30～17:30 各日1名(26日・27日)②  
 ●その他(ゴミ回収、インフォメーション、交通案内など)(3時間)  
 10:00～13:00 各日6名(26日・27日)③  
 13:00～16:00 各日6名(26日・27日)④  
 16:00～19:00 各日6名(26日・27日)⑤  
 ★開始15分前までに受付をすませてください。  
 イベント保険加入、食事(軽食)が付きます。  
 時間帯が重複しなければ複数コマ活動が可能。



青空の中、3年ぶりに賑わいをみせた神保町ブックフェスティバル



インフォメーション担当のボランティア学生の様子

市ヶ谷ボランティアセンター  
 活動について  
 活動の報告

# 49. ユニバーサルシアター で学ぶバリアフリー映画 ～ユニバーサルシアターについて知ろう、その表現について考えてみよう～

1. 日程 2022年11月2日(水)  
2. 場所 CINEMA Chupki TABATA (シネマチュプキタバタ)  
3. 概要

11月2日(水)に誰もが映画を楽しむことができる、日本で唯一のユニバーサルシアターであるシネマチュプキ田端にて、耳や目に障害を持つ方にも映画を楽しんでほしいと尽力する方々に密着したドキュメンタリー映画「こころの通訳者たち」の上映会を実施しました。当日は映画を見る前にバリアフリー映画鑑賞推進団体シティアライブの代表でシネマチュプキタバタを運営している平塚千穂子さんからシアターの特徴やバリアフリー映画について話を伺い実際に映画を見ました。映画を見た後は感想共有や質疑応答をしました。我々企画学生はポスターの制作や当日の司会進行、アンケートの収集に用いるGoogle formの作成などを行い、結果として当日は良い流れで企画を進めることができました。普段、障がいを持った方に関わる機会は少なく、ましてやその方にも十分な配慮をした映画があることを知らない人も多いと思います。この企画は、普段では知りえることのできないものに触れられる、貴重な機会となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 生命科学部生命機能学科2年 西川 孝明

4. 学生参加者数 13名

### 5. 企画学生の感想

私は元々身体面で障がいを持つ方に対して、どのような価値観、人生論を持っているのかに興味がありました。企画前では障がいの方に対する配慮などの知識に乏しかったのですが、今回の企画を通し障がいを持つ方々への接し方や価値観、映画館のつくりからわかる配慮といった、彼らに対する造詣を深めることができました。また、VSPに参加して初めての企画でしたが、参加者からの学生スタッフに対するインプレッションも好印象のものが多く、スキルアップと共に自信にも繋がる大変良い経験となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 生命科学部生命機能学科2年 佐野 友哉

### 6. 参加学生の感想

私自身手話を習っており、盲者ろう者はどうコミュニケーションを取っているのだろうか気になったことがありました。ただ作中でも語られた通りすごく複雑で、難しく、センシティブな「盲者の立場で見る手話」というものをテーマにした媒体には出会ったことがありませんでした。ろう者が演劇と手話通訳を同時に見ながら理解できるように、僕たちも同時に流れる音声を聞き分けることができる。忙しさを感じることができると語るシーンで初めて盲者からみた「手話」をみることができました。同時に自分が手話を習い始めて感じたことがフラッシュバックして自分の知らないことに触れる楽しさも思い出しました。他にも、石井さんがアクセサリーを付けていたことに(盲者もアクセサリー付けている!)と思ったことがすごく心に残っています。普通にアクセサリーをつける人つけない人がいるのと同じように、考えてみれば当たり前のことですが、一瞬そこに驚いたという事実から自分の気が付かない無意識なバイアス/偏見に気が付きました。手話を通してその人のことを個人ではなく「ろう者」とカテゴリーしてしまう自分に嫌気が指したのに、またその時「障がい者」と括ることはやめようと思っただけに関わらず偏見も持ってしまったと苦虫を噛み潰したような顔になってしまいました。ただ、それはきっと悪いことではなくて、そう感じ、気がついたことができた今回の体験はとてとても尊いものだと思います。また来ます。

グローバル教養学部グローバル教養学科 星山 彩あや

主催元：法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ (VSP)

## ユニバーサルシアター で学ぶバリアフリー映画

～ユニバーサルシアターについて知ろう、  
その表現について考えてみよう～

場所：北区東田端 2-9-4  
CINEMA Chupki TABATA (シネマチュプキタバタ)  
募集人数：20名  
上映映画：こころの通訳者たち

映画「こころの通訳者たち」  
耳の聞こえない人にも演劇を楽しんでもらうために挑んだ、3人の舞台手話通訳者たちの記録。その映像を目の見える人にも伝えられないか？見えない人に手話を伝えるには、...。諦めない思いが繋がった心温まるドキュメンタリー。

公式サイト：<https://cocorono-movie.com>

2022年11月2日(水) 18:00～21:00  
17:40までにJR田端駅北口に集合

講師：バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティアライブ 平塚千穂子氏

ユニバーサルシアターとは  
視覚障がいの方も聴覚障がいの方も、  
車いすの方も小さなお子様連れの  
ママたちも「誰もが一緒に」楽しむこと  
ができる映画館です。

問い合わせ先：市ヶ谷ボランティアセンター  
メール：[shibayococoro@ml.hosei.ac.jp](mailto:shibayococoro@ml.hosei.ac.jp)  
TEL: 03-5842-6225  
申し込みフォーム



司会進行をする学生スタッフ



参加者から質問を受ける様子

# 50. 一緒に優しい世界を作ませんか？～ダウン症の子と一緒に大学祭をまわろう～

1. 日程 2022年11月3日(木)
2. 場所 法政大学 市ヶ谷キャンパス
3. 概要

ダウン症に関する企画はこれまで6回実施してきており、特に今年度は企画をより活発化させるために開催頻度を増やしている。今年度の1回目はオンラインにてNPO法人アクセプションズによるダウン症に関するご講義を実施し、2回目は一人一人のダウン症の子供たちスポットライトを当て、学生間で共生社会を実現するためにはどうすればよいかについて話し合いをした。3回目はオンライン上でダウン症の子供たちとの交流をした。4回目となる今回は今年度の集大成として、法政大学市ヶ谷キャンパスの大学祭を一緒に回るとい企画を実施した。2部制でチームに分かれて1時間程度大学祭を回った。事前に参加できそうな教室企画などをピックアップし、マップを作るなど準備を重ね、充実した企画を実施することができた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科3年 平津 桜那

4. 学生参加数 17名(法政大学12名、共立女子大学5名)

### 5. 企画学生の感想

今回は、ダウン症のある方と大学祭をまわろうという企画でした。班ごとに多少のハプニングはありつつも、楽しかったという声が多く、ダウン症のある方について

新たなことが分かったとも言っていたので、楽しみと学びを両方体験できる機会にできたことがとても嬉しかったです。企画者の人数が少なく大変なときもありましたが、とてもやりがいがありました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科2年 菅原 光里

### 6. 参加学生の感想

- これまでは知らないことが多く、どのように接すれば良いかわからない部分があった。しかし、1時間という短い時間ではあるが、思っているよりもコミュニケーションの壁はないということがわかった。
- ダウン症のある子ども達は純粋で素直であり、とても明るい性格で障がいを持っていない子ども達と変わらないと学んだ。分け隔てなく接することが大切だと感じ、これからもそのように行動しようと感じた。



チームに分かれて大学祭を案内



スタンプラリーにも参加

法政大学ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)企画

## 一緒に優しい世界を作ませんか？

～ダウン症の子と一緒に大学祭をまわろう～

今年度4回目のダウン症企画で、今年度初の対面企画！ダウン症の子供たちと一緒に大学祭をまわって子供たちと深く関わることができます。大学祭を通してダウン症の理解を深め、皆さんも一緒に共生社会を目指しませんか？

日時：11月3日(木) 午前の部 12:00～13:00  
午後の部 14:00～15:00

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス

協力団体：NPO法人アクセプションズ

参加費：屋台での食事や体験の費用は自己負担となります。

定員：午前午後それぞれ10名程度

申し込み・お問い合わせ  
市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎一階学生センター内)  
Tel:03-3264-9516 Mail:ichigayav-apply@ml.hose.ac.jp



お申込みはこちら



# 51. チーム・オレンジ HU コラボグッズ作成企画

1. 日程 2022年5月～

2. 販売場所 法政大学生生活協同組合、一口坂校舎1階法政グッズショップ法政大学オリジナルグッズショップ（ネットショップ）、大学祭チーム・オレンジのブースなど

## 3. 概要

・チーム・オレンジサーモステンレスボトル 1650円（税込み）

企画学生が考案したえこびよんのイラストがデザインされています。保湿保冷に優れ、持ち歩きやすいサイズのサーモボトルです。災害時の飲料水はとても貴重なので、常日頃から持ち歩くことが備えになります。

・トートバッグ（チーム・オレンジ） 1,980円（税込み）

企画学生が考案したえこびよんのイラストがデザインされています。ノートパソコンもゆとりをもって入る大きさで、開けた時に物が見やすい横長タイプのトートバッグです。

・えこびよん金太郎飴 324円（税込み）

えこびよんのデザインが入ったオレンジ味の飴になります。えこびよんがイラストされた白い小箱に入っており、一口サイズで食べやすくなっています。

・法政の湯バスソルト（未完成）

色は法政カラーのオレンジで香りがグレープフルーツ、パッケージのデザインも決定しましたがまだ完成には至っておりません。担当の方と相談を続け、来年度の完成を目指しています。

※上記二点（飴、法政の湯バスソルト）が学園祭での販売に間に合わなかった為、代わりに学祭では以前制作したペンとポーチを販売いたしました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科1年 鈴木 彩夏  
法学部法律学科1年 後藤 元香

4. 学生参加者数 4名

## 5. 企画学生の感想

自分たちのアイデアが実際に商品化され、大学祭等で売り出したことはとても新鮮で貴重な経験ができました。何回も考えを出し合い、いい商品ができたと思います。大変なことも多くありましたが、売り上げが被災地に寄付されとてもやりがいがありました。これからも多くの人の手に持っていただき、災害、防災、チーム・オレンジの活動等を知る、考えるきっかけになって欲しいです。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科1年 石津 咲

グッズデザインや自分が作った商品の販売という経験は今まで全くなく、戸惑うこともたくさんありましたが、メンバーと何度も話し合ったり、職員さんや株式会社エイチ・ユースなど様々な方に手助けしていただいたりすることで素敵なグッズを作り上げることができました。苦労することもありましたが、大変勉強になるとてもいい経験になりました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部哲学科1年 中川 月海



完成されたグッズ

## 52. ～あなたもその手で野鳥を助けてみませんか～野鳥行徳区の保全活動

1. 日程 2022年11月12日(土)  
2. 場所 行徳鳥獣保護区(千葉県市川市福栄4-22-11)

### 3. 概要

現在、水質汚染を原因とした環境破壊や都市圏の拡大により、野鳥の生息地が減少しています。そして、これらの問題に対応するため、野鳥保護区の保全活動が行われていますが、野鳥に迫る問題や活動団体の認知度は低いというのが現状です。そこで、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、野鳥に関する問題と保護区での活動の認知度を高めるとともに、学生に「日常と自然のつながり」を実感してもらうことを目標に本企画を実施し、合計20名の学生が参加しました。本企画ではNPO行徳自然ほごくらぶの野長瀬様に講師をお願いし、千葉県行徳鳥獣保護区の歴史を学ぶガイダンスや清掃ボランティア、バードウォッチング体験を行いました。普段は立ち入ることができない保護区での清掃ボランティアは、鳥たちが直面している環境破壊の問題を直接見ることが出来たため清掃ボランティアもやりがいがあったと、参加学生から多くの声が寄せられました。都心で過ごしているからこそ、実は自然が身近にあるということに気が付けなくなっています。知らず知らずのうちに自然を傷つけてしまわないよう、自分や社会の動きがどのように生物と彼らの暮らしを変えているかを学ぶ機会が作れてよかったと感じています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科2年 長尾 美紅

4. 学生参加者数 20人

### 5. 企画学生の感想

法政大学ボランティアセンターでは過去に様々な動物をテーマとした企画を行ってきたが、野鳥をテーマとしたのは初めての試みだったため少し不安だった。しかし、実際には定員を超えるほど多くの方が申し込んでくれて、とても有意義な企画となった。また、野鳥保護区の水辺に多くのプラスチックゴミが漂着していることや野鳥の生態などを実際に現地へ行き、説明していただいたことは私にとっても良い経験となった。参加者の方々が楽しそうに活動している様子を見てこの企画に携われて良かったと思った。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科2年 守 綾乃

### 6. 参加学生の感想

東京湾の干潟は植生遷移の初期段階を維持するために積極的に人の手が加えられていると知り、より干潟の管理に対して興味が高まった。水辺に漂着するプラスチックごみは、細かく分解されたものが非常に多く散らばっており、予想以上に収集の大変さがわかった。

文学部地理学科2年 佐々木 虎太郎

あなたのその手で野鳥を助けてみませんか

### 野鳥保護区の保全活動

法政大学ボランティアセンター 学生スタッフVSP企画  
『NPO行徳自然ほごくらぶ』様 協賛

【日時】11月12日(土) 10:00~12:00  
→雨天延期 11月19日(土)  
【場所】行徳鳥獣保護区  
(千葉県市川市福栄4-22-11)  
【定員】20名  
【最寄り駅】「東京メトロ東西線行徳駅or行徳駅」から徒歩25分

『行徳鳥獣保護区はかつて湿地地帯でした。しかし環境の変化に伴い、湿地が減少し、水鳥を始め多くの生き物が危機的な状況に追い込まれています。そこで保護区を設置し、湿地環境を取り戻す努力をしています。』

お申し込みはこちらから▼

「タイムスケジュール」

- 10:00 ガイダンス
- 10:30 野鳥保護区の保全活動/  
野鳥ウォッチング
- 12:00 終了予定

お問い合わせ：法政大学市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター内)  
TEL: 03-3246-9516  
Mail: ichigayave-apply@ml.hosei.ac.jp



双眼鏡を手に野鳥観察体験



企画終了後、全員で集合写真

## 53. 高齢者支援企画

### ～スマホを使ってまち歩きしてみよう～

1. 日程 2022年11月13日(日)
2. 場所 千代田区役所 富士見出張所区民館、ポアソナードタワー 26階スカイホール

#### 3. 概要

本企画は、高齢者の方々と学生と一緒に街中を歩き、学生が高齢者の方々にスマートフォンの使い方を、実践を通して教えるといったイベントとして実施した。

本企画の目的としては、コロナ禍により高齢者の方々が人との交流の機会が減っていることや学生が他の世代の人と交流できる機会が少ないことをふまえて、高齢者の方々と学生が交流することである。また、高齢者の方々が実際の日常生活におけるシチュエーションの中でのスマートフォンの使い方を体感することで、スマートフォンの実用的なスキルを身に付けることも本企画の目的としている。具体的には、出発地点から目的地まで地図アプリを活用したり、コンビニで実際にスマホ決済を使って買い物したりといった形でスマートフォンの使い方を実践してもらった。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科  
3年 西山 諒

4. 参加者数 学生参加者 17名(法政13名、共立女子大4名)、高齢者の参加者 12名

#### 5. 企画学生の感想

今回的高齢者企画では、高齢者と交流できるボランティアができればと思い参加しました。スマートフォンの使い方を散歩のなかで教える企画ということで、散歩のルートの設定が大変だと感じました。当日はスタッフとして参加者の各グループを見て回りましたが、学生と高齢者の方々が打ち解けて交流している様子が見られてとてもよかったです。天候が途中で崩れてしまい企画の途中にアナウンスが滞ってしまったこと等の対応がこれから必要であると思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法律学部政治学科 2年 薄井 春彦

#### 6. 参加学生の感想

- すごく自由な感じだったので、グループや人によって本当にそれぞれたくさんスマホの使い方を教わった人もいれば雑談メインで交流出来た方など様々だったと思います。個人的には初対面の方たちと色々お話し出来て良い経験になりました。
- 参加者の方がスマホの使い方をよくわかっていたので、私の出番が少なかったですが、短い時間の中でいろいろなことを学べてよかったです。また参加したいと思いました。
- 大学近くを散歩して新たに知れることがあったり、世代の違う方とお話出来たので良かったです。



スマートフォンの使い方をレクチャー



地図アプリを活用し、まち歩きへ出発

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ (VSP) 企画

## 高齢者支援企画

～スマホを使ってまち歩きしてみよう～

ご協力 富士見2丁目町会様

【日時】 11月13日(日)  
13:00～15:00

定員 20名  
※雨天時:室内で高齢者がスマホを使えるように支援します。

【集合場所】 千代田区役所 富士見出張所・区民館  
飯田橋駅から徒歩4分

タイムスケジュール

- 13:00 集合
- 13:30～14:30 散歩
- 15:00 解散

地域の方々にスマホの使い方を教えながら、楽しく交流しましょう！  
お問い合わせ先・申し込み先  
市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター)  
TEL:03-3264-9516  
MAIL:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

# 54. 移民サポートボランティア講座

- 1. 日程 2022年11月21日(月)
- 2. 場所 外濠校舎5階523～526会議室
- 3. 概要

世界には多くの移民が存在し、現在日本には約296万人の在留外国人が暮らしています。本企画では、レクチャーで移民が抱えている課題について知り、グループワークを通してその解決策を考えました。今回は、武庫川女子大学文学部英語文化学科専任講師の加藤丈太郎氏を講師に迎え、「日本の移民(外国人)の受け入れのこれまで」、「移民(外国人)が相談を必要とするときは」という2つのテーマで講義していただきました。講義で学んだことを受け、「移民と生きるための9つの施策」と題してグループワークを実施しました。移民と共に暮らすための9つの方法をダイヤモンドランキング形式で順位付けし、全体で意見の共有を行いました。何を価値基準とするかでグループによって様々な意見がみられ、新たな発見がありました。また、三輪田学園の学生も参加し、大学生と高校生が交流する機会を作ることができました。



ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科 1年 高田 結衣

- 4. 学生参加者数 20名(法政大学13名 三輪田学園7名)

### 5. 企画学生の感想

講座を通して、日本の移民の受け入れの現状と、解決への具体策を知ることができました。グループワークでは、人によって全く異なる主張がみられたのがとても興味深かったです。意見が尽きることなく、個々が深く考えるいい機会になったのではないかと思います。2時間でも足りないほど濃い内容となりました。今回の講座のキーワードでもあった、「多文化共生」に関して、違う環境で育った人々と対話を図り、異なる価値観を積極的に受け入れていくことが大切であるとわかりました。同じ日本人でも考えの違いは生まれてしまうので、外国人との考え方の違いはなおさら大きいと思います。他の文化や価値観を歓迎し、共存できるような思考の柔軟性を身につけていきたいと考えるようになりました。移民や外国人労働者が日本で暮らすハードルを低くし、より快適な生活ができるような支援を行ってほしいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科 1年 高田 結衣

### 6. 参加学生の感想

国際「政治」ではなく、国際「文化」を学ぶ1人として、多文化社会に興味があり、今回参加させて頂きました。入学当時から自分の中で漠然と抱いていた「生まれた環境も育ってきた文化も違う私たちが共に生きるためには何が出来るのか」「もしかしたら私に出来ることはないのかもしれない」と思っていたのですが、加藤先生の仰っていた「講座に来たことが参加」という言葉を聞き、勇気を出して参加して良かったなと思いました。移民(immigrants)が日本では未だに「在留外国人」と区別され、同じ日本で暮らす人であるのに、あくまで彼らは外から来た人と扱われている現状を改めて確認しました。そして、ケーススタディやグループワークを通して、移民の方がどのような問題を抱えているのか、どのような支援の手段が日本にはあるのか、また、どのように社会構造を変えていけば移民の方も暮らしやすい日本になるのかを考えることが出来ました。移民の方と「共生」するのではなく、「共創」していく社会を作りたいと改めて強く思いました。

国際文化学部国際文化学科 1年 渡辺 夏海



ディスカッションの様子



企画学生の皆さん

## 55. 今こそ献血へ

1. 日程 2022年11月22日(火) 24日(木)

2. 場所 富士見坂庭園

### 3. 概要

令和4年11月22日(火)と24日(木)に市ヶ谷キャンパスの富士見坂庭園にて今年度3度目の開催となる献血を実施しました。2日間で合計99名の方にご参加いただきました。受付は富士見坂食堂とし、献血前も献血後もゆっくり休憩が取れるよう、配慮しました。体調の理由などで残念ながら献血できなかった方もおられましたが、80名の方に採血いただきました。1週間前より外濠校舎入り口や富士見ゲート門、食堂入り口などに看板を設置し周知しました。

多くの学生の皆さんにご協力いただけたかたと思います。ありがとうございました。

4. 参加人数 99人(不採血者19名)

### 5. 参加者の感想

・針が太いので採血より痛いと言われて怯えていたが、そんなに痛みは変わらなくて安心した。アレルギーやアトピー持ちなので献血可能か心配だったがOKが出てよかった。私が無駄に過ごしている一日で誰かの命を救えるのだと実感できた。

・私自身、献血をするのは4回目ですが、献血バスでやるのは初めてでした。普段でのルームでは、学生の人をあまり見ないので、新鮮な感覚でした。また、献血中ではスタッフの方との会話であっという間に終わりました。また大学で献血があれば是非参加したいと思います。

・2回目の献血でしたが、職員の方が優しく誘導して下さり安心して行う事が出来ました。今後も大学等で機会があったら、献血ボランティアに参加したいです。

・今回は緊張から結局献血出来なかったが、継続的にこういう機会を用意していただければ何度もチャレンジする内に緊張も和らいでいくと思うので、今後とも行っていただければ非常にありがたい。



富士見坂庭園にて開催された献血



受付もスムーズに行われました

## 56. デザイン企画（オリジナル腕章の作成）

1. 日程 12月から作成し、2月中旬に完成

### 2. 概要

本企画は、従来のような外部講師を招く講義形式や一般学生と共に校外活動を行う活動企画ではなく、それらの企画をより良いものにするための“企画のための企画”である。具体的に述べると、VSPが企画する活動で使用する腕章の作成である。腕章は大きく分けて2種類作成した。1つ目は校内で企画者と参加学生の区別を図るために“VSP”の文字が入った腕章を、2つ目は校外で企画者および参加学生と外部の方の区別を図るために“法政大学”の文字が入った腕章を作成した。腕章を作成したことにより企画者と参加学生の区別が分かりやすくなり、外部講師やスタッフ同士の連携がとりやすくなる効果が得られると考える。企画者同士で意見を交わし合い、腕章ごとに背景のキャラクターを数パターン用意したり腕章の取り付け方を安全ピンとマジックテープの2パターン用意したりと様々な工夫を凝らしたので、今後の多くの企画で活用していけたらいいと感じる。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 高木 倅大

3. 企画学生数 6名

### 4. 企画者学生の感想

VSP主催の企画に、一体感を得られる腕章を作成できた。企画メンバーとミーティングを重ねて、各々アイデア出しやデザインについて相談した時間は、いろんな意見があって面白かった。できあがった腕章は、観光地清掃の企画にてはじめて活用された。参加者と企画者が腕章をつけていた光景を見られたことが、VSPの一体感と作りがいを感じられた瞬間だった。今後の企画でより腕章が活躍することを楽しみにしている。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 今給黎 優那



HOSEIカラーが目立つデザインの腕章



実際に清掃企画で腕章を着用した学生

# 57. 福島被災地スタディツアー

- 1. 日程 2022年12月4日(日)
- 2. 場所 福島県いわき市、双葉郡双葉町
- 3. 概要

「法大生の知らない放射能の世界 ～今もまだ残る震災の傷跡～」をテーマに、東日本大震災の学習と福島県の魅力発見のためのスタディツアーを実施しました。

午前は福島県いわき市にある環境水族館アクアマリンふくしまを訪れ、震災講和を聞きました。そこでは、震災時にアクアマリンふくしまが受けた被害の説明に加え、早期復興へ向けてどのように動いたか、どのような心境で復興作業を行っていたかを伺いました。午後は福島県双葉郡双葉町にある東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れました。東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う原子力災害によって福島県ではどのようなことが起きていたのか、原発周辺の遺構や住民の思いが伝わる展示物を見学しました。また、浪江町で震災を経験し避難生活を送った当時小学6年生だった方の講和を聞きました。今回の参加者は、最年少者でも震災当時は小学1年生でした。原子力災害伝承館で講話をして下さった方は私たちと年齢がさほど変わらず、体験談がとても身近に感じられました。私たちより下の世代は震災当時はまだ幼く、当時のことを鮮明に覚えていられる年代ではなくなります。そしてすでに、今の小学生たちは東日本大震災のことを知りません。私たちが、東日本大震災を経験したその教訓を後世に伝えられる最後の世代ではないでしょうか。私たちも、いつ、どこで災害が起こりどのような災害が発生するのかわからない状況に常にあります。私たちができることは、災害が起きる前に私たちが体験したり聞いた経験談を後世に伝え、同じ被害が出ないようにする事だと思えます。その役割の一端を、チーム・オレンジが担うことができるよう、今後も防災啓発活動が続けていきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 角 優子

- 4. 学生参加者数 40名

## 5. 企画学生の感想

アクアマリンふくしまも東日本大震災・原子力災害伝承館のように長く時間を取って欲しかったと直接意見をいただいた。見学時間を減らせばよかったかと悩みましたが、震災当時の語り部の生の声を聞き、災害と向き合ってきた日々を知ることが未来への道標であることを感じ、ゆっくり時間をかけて本当によかったと思えました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部哲学科1年 中川 月海

## 6. 参加学生の感想

・アクアマリンふくしまでも災害伝承館でも本当に貴重なお話の聞けるいい機会だったと思えました。今まで東日本大震災について知ることから逃げていた部分が多々あったが、これを機に正しい知識を身につけること、過去の経験を教訓にしていくことにもっと尽力したいと思えた。

・目の前の津波が映像によっても震災をリアルに感じた。伝承館では語り部として私たちと年齢が変わらない方が震災を伝える姿に尊敬の念を抱きました。教訓として伝えて下さったことを忘れずに日々過ごしていきたいと思えました。ツアーに参加することでしか得られない経験が出来たと思えます。

**福島被災地スタディツアー**  
法大生の知らない放射能の世界 ～今もまだ残る震災の傷跡～  
主催：法政大学ボランティアセンター / チーム・オレンジ企画

実施日 2022年12月4日(日)  
募集対象 本学学生 40名  
参加費用 2000円  
募集代 1650円  
(現地にて徴収。お申し込み時ご請求ください。)

集合・解散時間  
7:20 法大 市ヶ谷体育館前 集合  
21:00 法大 市ヶ谷体育館前 解散

**アクアマリンふくしま**  
東北最大級の美しく学べる体験型水族館！福島の特徴である「潮目」(右図)をテーマに800種を超える生物を展示！また、環境保全の大切さを伝えるイベントも盛りだくさん！

原子力災害を中心とした資料を収集・保存し、展示することで震災の記憶の風化防止のための情報発信を行い、防災・震災を目指す資料館。

**東日本大震災・原子力災害伝承館**

【申し込み方法】  
Googleフォームにて受付します。下記QRコードを読み取ってください！！  
※定員に達し次第締め切らせていただきます

申込締切 11月18日(金)  
【お問い合わせ】  
市ヶ谷ボランティアセンター  
(外濠校舎1F学生センター内)  
Tel→03-3264-9516  
Mail→hokuyawc-app@vet.hosei.ac.jp



アクアマリンふくしまでの見学風景



アクアマリンふくしまで被害からの復興講話を聴く様子



伝承館で同世代の体験談を聴く様子



参加者全員で記念撮影



## 58. KUG で学ぶ避難所運営～あなたの知らない避難所の世界～

1. 日程 2022年12月5日(月)
2. 場所 外濠校舎5階523～526会議室
3. 概要

12月5日、法政大学課外教養プログラム「KUGで学ぶ避難所運営～あなたの知らない避難所運営～」を実施致しました。本企画は、地震大国である日本において、大学生の防災に対する意識を向上させるだけでなく、なかなか学ぶ事が出来ない避難所や帰宅困難者支援施設をどのように運営するのかという点について学ぶことを目的としています。法政大学は「地域住民及び帰宅困難者等の被災者への一時的施設の提供」といった条項を含む「大規模災害時における協力体制に関する協定」を千代田区と締結しています。その事から、今回は帰宅困難者支援施設の運営方法について机上で学ぶ事が出来る「帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)」を行いました。講師には特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)から古越武彦様をお招きしました。また、今回は本学ボランティアセンターで防災啓発に関連するプログラムを法大生向けに企画しているチーム・オレンジと共同で企画を実施しました。チーム・オレンジは毎年、法大生向けに東北被災地ボランティアツアーや防災キャンプ等を実施している実績があり、今回、共同でプログラムを考える事で、チーム・オレンジならではのノウハウや知識を踏まえる事で、より深い学びを学生に提供できると考え、共同でプログラムを実施しました。本企画はすべての内容を対面で行いました。プログラムは、KUGの概要をチーム・オレンジ学生スタッフの石田さんが説明してから、1回目のKUGを行い、その後、古越様からゲームに対する解説を行って頂いた後にさらに、KUGを行い、最後に古越様よりフィードバックを頂くという構成で行いました。1回目のKUGでは、スタッフが司会となりゲームを進行しました。その中で、避難者の情報を読み上げるだけでなく、避難者が抱えている問題(怪我をしているや障がいを持っている等)を説明し、参加者にどのように対処するか問いかける事で参加者に考えることを促すという工夫を行いました。また、参加者の間でも「避難者の属性によって一時待機場所を変える」という「受入方針」をあらかじめ作るといった工夫が見られました。1回目のゲームに対する解説では、「喫煙所や仮設トイレを設置する際はルールが必要であること」や「避難所のスタッフのみならず、避難者の方々にも時には助けを求めることが必要だ」という事を教えて頂きました。その中でも、避難所はすべての人が助け合う場所であるというお話が印象に残りました。解説を踏まえた2回目のKUGでは、日本語が話せない避難者に対し、「避難している他の人で英語が出来る人を探す」という解決策が出るなど、参加者は1回目の解説を踏まえた解決方法を提案できていました。その後のフィードバックでは、「避難所では様々な方が存在し、どのような人を最優先で保護するか」といった様なお話を頂きました。また、フィードバックの後には講師の方に質問する時間を設けました。多くの人が講師の方に質問を行っており、非常に活発な議論がなされていました。法政大学が帰宅困難者支援施設になった際には、学生もボランティアとして動かなくてはならないかもしれません。参加者からも、「避難所では何が重要で、何が必要か学ぶことが出来た」「帰宅困難者支援運営に関する知識を知ることが出来た」という声があり、充実した企画となりました。

KYOPRO スタッフ 法学部・国際政治学科3年 藤井 航一

#### 4. 参加者数 12名

#### 5. 企画学生の感想

今回の企画はKYOPROさんとチーム・オレンジの共同企画ということで、企画力に長けているKYOPROさんと防災啓発活動を行うチーム・オレンジ、お互いの特徴を活かした企画となったのではないかと思います。本企画で使用したKUGは、私たちの通う法政大学が舞台となっています。そのため、震災が起こった時に自分たちが学生ボランティアとなった場合の具体的な想像がしやすいものだったのではないかと感じます。又、今回お越しくくださった古越様からは避難所生活の実態や、そこで考えられる様々なシチュエーションとそれに対しどう対応すべきか、などを様々な観点からお聞きできたことは、チーム・オレンジとしては大変貴重な時間だったと感じます。

チーム・オレンジ学生スタッフ 法学部・法律学科3年 石田 里菜



KUG体験の様子

# 59. ゼロから学ぶ LGBTQ ～より良い社会を私たちが作るために～

1. 日程 2022年12月8日(木)
2. 場所 外濠校舎5階523～526会議室
3. 概要

12月8日、法政大学課外教養プログラム「ゼロから学ぶ LGBTQ ～より良い社会を私たちがつくるために～」を実施いたしました。本企画は、参加した学生が LGBTQ の歴史や文化、そして現代の当事者への取り組みについて学び、LGBTQ に関する正しい知識をインプットする事、多様性に対する理解を深める事を目的として実施致しました。また、この企画は本学ボランティアセンターで様々なボランティアプログラムを法大生向けに企画している VSP (ボランティア支援プロジェクト) 学生スタッフと共同で企画を実施しました。VSP は法大生向けに様々なボランティア企画を実施しており、「障がい」や「生理」といった多様性に関する企画も多く実施している実績がある事から、VSP ならではのノウハウや知識を踏まえて共同でプログラムを考案する事で、より深い学びを学生に提供できると考え、プログラムを実施しました。講師は、臨床心理士であり特定非営利活動法人 SHIP

でカウンセラーも務められている宮島謙介氏をお招きしました。同団体は、セクシュアルマイノリティの人々が自分らしく心身共に健康に暮らせる社会、多様性が尊重される社会の実現を目指して、神奈川県内を中心にセクシュアルマイノリティの方の居場所づくり事業や支援事業を行っています。また本企画は対面形式で実施しており、アイスブレイクの後、宮島氏から講義をしていただき、それを踏まえてグループディスカッションを行うという構成で実施しました。初対面同士の参加者の緊張を解きほぐすためのアイスブレイクでは、お互いに呼んでもらいたいニックネームを紹介し、自分が今持っている LGBTQ に対してのイメージを話し合ってもらいました。講義では LGBTQ の歴史、当事者の方々を作り上げてきた文化といった基礎知識について教えて頂きました。その後は日本と海外における LGBTQ の価値観や文化の違い、宮島氏のこれまでのご経験についてお話していただきました。学術的な話題だけではなく、宮島氏のご経験や小話も伺うことができたので、とても興味深く、有意義な時間を過ごす事ができました。グループディスカッションでは、宮島氏の講義を踏まえ、「LGBTQ に対する日本の現状を踏まえて、当事者がより生きやすい社会とは」、「そのために自分や周囲、国や地方自治体ができること」の2点について話し合い、全体で話し合いの内容を共有しました。どのグループも発言や議論が絶えることなく、時間ギリギリまで話し合いを行っていました。各グループの議論では「LGBTQ についての内容を教育に取り入れるべき」という意見が共通して挙がり、宮島氏もその重要性を感じておられました。本企画を通して学生たちが多様性について理解し一人ひとりが自分らしさを大切にしつつ、社会に出た後もお互いを自然に受け入れられるような環境を作っていくことを期待しています。

KYOPRO スタッフ 法学部政治学科 2年 津嶋 千早

4. 参加者数 11名

## 5. 企画学生の感想

近年、さまざまな場所で聞かれるようになった「多様性」という言葉の中の一つとしての「LGBTQ」についての学びを深められる企画ということで今回 KYOPRO スタッフと共同で企画を考えさせて頂きました。平等な社会を目指すうえで歩み寄りが不可欠な内容ながら、センシティブな問題として扱われることが多く、知識を得る場があまりに少ない「LGBTQ」の歴史や文化、現状について、体験談も含めたお話を聞ける貴重な機会で、とても良い経験になりました。多様性が浸透しつつあるこの社会で生活していくうえで、得られた知識、経験を活かせたらと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科 2年 浅香 光希

学生センター・課外教養プログラム  
法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP  
(法政大学後援会補助事業)

間違った理解や偏見で大切な人を傷つけないために私たちにできることを考えてみませんか？

## ゼロから学ぶ LGBTQ

～より良い社会を私たちが作るために～

【日時】  
12月8日(木)  
17:00～19:00

【場所】  
法政大学外濠校舎  
5階短期会議室  
523～526

【対象】  
本学部生  
定員：25名  
参加費：無料

【概要】  
生活の中で耳にするようになった「LGBTQ」という言葉ですが、その意味や背景などを皆さんは説明できますか？セクシュアリティへの偏った知識、偏見に当事者が悩んでいる様子やセクシュアリティの多様性を抱えたりという事例があります。自分にとって普通だと思っていたことは、相手にとっても普通であるとは限りません。「多様性」が定まらないうちに、セクシュアリティに関する歴史や現代の取り組みについての学びを通して、改めて誰もが暮らしやすい社会について考えてみませんか？

講師 宮島謙介氏  
SHIPカウンセラー、臨床心理士  
横浜国立大学大学院「教育学修士」後、地域のスクールカウンセラーとして働きながら厚生労働省「HIVと社会疫学研究班」研究事業に参加、2008年にニューヨーク大学大学院で「Master of Arts」の留学期間中に横浜でコミュニティスペースを立ち上げたSHIPとの関わりが生まれ、以降SHIPのカウンセラーとしてSHIPの活動事業に関わる。

【お申込みはこちらから】  
※ログインの際に使用するメールアドレスはご自身の法政大学のメールアドレス(①@edu.hosei.ac.jp)をご入力ください。

お申込み：各学生生活課  
お問い合わせ：管轄学生生活課  
TEL.03-3264-9475

## 6. 参加学生の感想

実際にカウンセラーとして活動されている方の目線からお話を聞くことができ、とても有意義な時間でした。また、講義の中でLGBTQの歴史という具体例もあったので、個人でも深く調べていきたいなと思いました。この企画に参加して自分が進路を決める上で、どのような企業や社会で働きたいかの指標であったり、自分がどうありたいかの参考になりました。

国際文化学部国際文化学科 1年



講義の様子。



グループディスカッションの様子。



グループディスカッションの様子。活発な議論が行われていました。



集合写真

# 60. 清掃工場見学企画～清掃工場の新しい一面を発見しよう！～

1. 日程 2022年12月10日(土)
2. 場所 見学 渋谷清掃工場、ワークショップ 大内山校舎5階 Y505 教室

### 3. 概要

現在の日本は大量生産・消費型社会であり、近年ではコロナ禍の影響でマスクや医療品の廃棄量が増加していることが問題視されています。このように家庭や企業から出た廃棄物を清掃工場が処理しています。今までに社会科見学などで清掃工場に行き清掃工場の担っている仕事は把握していることが多いと思いますが、環境や地域に対しての細かな取り組みについて知らない人が多くいるのではないかと考え実施いたしました。当日は渋谷清掃工場に見学に行き、見学後に学校でワークショップを実施いたしました。見学時には質問が多く出て活発的なものとなり、職員の方々に清掃工場の細かなところまで丁寧に教えていただき有意義な時間になりました。ワークショップでは3グループに分かれ、大学生、ごみ回収・処理業者、スーパーの経営者の3つの役割からごみを減らすためにできることをテーマに議論を行いました。はじめにグループ内で1つの役割について考え、次に違うグループで違う役割の人達と意見交換を行い、最後に個人で最善策を1つに決めてもらう流れで行いました。議論中は様々な観点からの意見が飛び交い、精力的な議論になりました。清掃工場見学を行ったことで新しい発見を得るとともにごみ問題に対して意識するきっかけになりましたら嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1年 富士 祥花

### 4. 学生参加者数 13名

### 5. 企画学生の感想

清掃工場の見学に行ったのは小学生の時以来でしたが、今回は新たな発見でいっぱいでした。清掃工場でサーマルリサイクルや流動床式焼却炉、大気汚染防止対策などの様々な取り組みが行われていることを詳しく知り、実際に現場を見学できたのは非常にいい経験だったと思います。特に近年は環境問題に対する取り組みに力を入れているとお話を聞き、時代によってごみ焼却の方式も随分変わってくるということを実感しました。普段自分が大学で学んでいることと結びつけて考えることができたのが良かったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科 2年 富島 祐菜

### 6. 参加学生の感想

ゴミは身近な存在でありながら、自宅から消えた後のその流れを知っている人は少ないという状況の中、このような企画に参加ができたことはとても有意義であった。ゴミの処理には税金がかかっている。税金がかかっていることに対して無関心であることは結果的には個人個人の損益につながってくるだろう。そして有機的な社会の流れを知らないことは視野の狭窄にもつながる。工場内部が印象に残っているので、今後はゴミを捨てる際に良性的緊張感を持つことができると感じた。

文学部日本文学科 2年 高橋 梨咲

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画

## 清掃工場見学

～清掃工場の新しい一面を発見しよう！～



コロナの影響でマスクや医療品の廃棄量が増えていることを知っていますか。そのように消費されたものの多くは清掃工場が処理しています。しかし、多くの人は清掃工場の大きな働きを理解しているもの。清掃工場が行っている細かな取り組みや環境への配慮については知らないことが多いと思います。そこで私たちと一緒に清掃工場の新しい一面を発見しませんか。

日時:12月10日(土)  
定員:本学学部生14名  
見学場所:渋谷清掃工場(JR渋谷駅徒歩約5分)  
お申込み・お問合せ:法政大学市ヶ谷ボランティアセンター  
(外濠校舎1階学生センター内)  
TEL:03-3246-9516  
Mail:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

スケジュール  
10:00~11:45 渋谷清掃工場見学  
12:30~13:15 ワークショップ  
(市ヶ谷キャンパス)



清掃工場前で集合写真

# 61. 手話講座特別編

1. 日程 2022年12月21日(水)  
2. 場所 富士見ゲート6階 G602教室  
3. 概要

10月から全8回行われてきた手話講座(入門編)の参加者から「ろうの方から話を聞いてみたい」という希望が多くあったため、手話エンターティナーとして幅広く活躍している那須映里様を講師としてお迎えした手話講座(特別編)を実施しました。又、手話通訳士として、手話講座の講師を務めてくださった中野佐世子先生、佐伯富美子様をお迎えしました。講話では、実際のところ手話がどの程度使われているのかといったお話から、ろう者と聴者が協働していくために大切なことといった那須様の想いまで、様々なお話をさせていただきました。ドラマなどの影響で手話が広まりつつある今、実際に手話を第一言語として使っている那須様からお話を聞いたことはとても有意義な時間でした。この講座を通して多くの参加学生が、ろう者のことを知る一歩を踏み出せたのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科3年 石田里奈

4. 学生参加者数 68名(法政43名 家政学院6名 共立女子8名 明治4名 三輪田学園7名)

## 5. 参加学生の感想

恥ずかしながら初めてろう者の方の手話を拝見しました。手だけではなく、表情、口型、からだの動きとてもダイナミックで多彩な言語だと感じました。また、那須さんと手話通訳の方が楽しそうに手話で会話しているのを見て、とても羨ましいと感じました。私も手話を学んで、手話を使う方々とおしゃべりを楽しみたいと思いました。本日は貴重なお話ありがとうございました。

文学部史学科1年 今津 華音

「手話は言語である」というお話が特に印象的でした。私自身もろう者のコミュニケーションのひとつと考えてしまっていた部分があったため、手話を見直すきっかけとなりました。また、手話にも男性的、女性的といった表現があることを知り、それも私が普段使っている日本語と同じだと認識しました。手話を言語としての「手話」と一概に捉えるのではなく、一人一人の手話があることを意識してみたいと思いました。貴重なお話ありがとうございました。

社会学部社会学科3年 中山 京佳



市ヶ谷ボランティアセンター主催 ボランティアプログラム

# 手話講座

特別編

手話講座(入門編)の受講生のもと学びたいを実現するため、この度ろう者である那須映里氏をお招きし講演の開催が実現しました。  
ぜひこの機会に手話を学んでみませんか?  
手話講座(入門編)受講生以外の方もご参加いただけます

講師 那須 映里氏  
ろう者/役者/手話エンターティナー  
テーマ: ろう者として生きるうえで  
現在放送中ドラマ silent 出演中  
NHK みんなの手話 出演中

12月21日(水)

時間: 16:50~18:30(5限)  
場所: 富士見ゲート6階 G602教室 参加費: 無料  
募集対象: 本学部生・定員50名(定員に達し次第締切り)  
講師: 那須 映里氏(手話役者)  
中野 佐世子氏(手話通訳士・本学手話通訳講師)  
佐伯 富美子氏(手話通訳士)

申し込み方法: Google フォームまたは市ヶ谷ボランティアセンターまでメールにてお申込ください。

お申込はこちら▶

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター  
tel. 03-3264-9516 Mail. ichigaya-apply@ml.hosei.ac.jp



多くの学生が参加しました。



講師の那須映里氏

# 62. 多世代交流クリスマス会～大学生とゲームをしよう～

1. 日程 2022年12月24日(土)
2. 場所 千代田区社会福祉協議会 かがやきプラザ 1階ひだまりホール

### 3. 概要

本企画は、千代田区社会福祉協議会千代田区多世代交流「ciao」さんと市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が共同しておこなった多世代交流イベントです。クリスマスイブの開催となったため、イントロクイズではクリスマスにちなんだ歌で盛り上がりました。絵しりとりは、グループごとに一つのテーブルを囲みながら、年齢に関係なくみんなで一生懸命に取り組む様子がとてもほほえましい和やかな時間でした。親子や高齢者など多世代が集い交流を深めている姿が見受けられ、会場全体が温かい雰囲気包まれた場となりました。イベント終了後に「また開催してほしい」という声をいただけたときは、学生スタッフ一同がやりがいを実感した瞬間でした。今後もこのような交流の機会を大切にしていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 2年 今給黎 優那

4. 参加者数 34名(学生参加者4名、区内在住の方30名)

### 5. 企画学生の感想

小さなお子さんから高齢者まで、普段触れ合う機会のない世代や多様な個性を持った方々との交流はとても貴重な経験でした。最初は考えた企画で本当に参加者全員に楽しんでもらえるのか不安もありましたが、実際ゲームが始まると年齢や性別に関係なく自然と交流が広がり、たくさんの笑顔を見ることができてとても嬉しく感じました。孤立しがちなコロナ禍ですが、こういった機会ですし少しでも明るい気持ちになって頂けたら嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科 2年 星野 美郷

Ciaoさんとの多世代交流としてクリスマス会を企画しました。子どもからお年寄りの方までの広い世代で、楽しめる要素を取り入れるのは難しいと思っていたのですが、参加者の方向士が自然と交流される場面もあり、やってよかったという気持ちになりました。世代を超えた交流は普段の生活の中ではあまり生まれにくいものなので、今回のような機会がより増えていけばいいなと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 2年 薄井 春彦

多世代交流「ciao」さんと市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が共同して開催する多世代交流イベントです。クリスマスイブの開催となったため、イントロクイズではクリスマスにちなんだ歌で盛り上がりました。絵しりとりは、グループごとに一つのテーブルを囲みながら、年齢に関係なくみんなで一生懸命に取り組む様子がとてもほほえましい和やかな時間でした。親子や高齢者など多世代が集い交流を深めている姿が見受けられ、会場全体が温かい雰囲気包まれた場となりました。イベント終了後に「また開催してほしい」という声をいただけたときは、学生スタッフ一同がやりがいを実感した瞬間でした。今後もこのような交流の機会を大切にしていきたいと思います。

事前申込制(申込順) 「多世代交流クリスマス会 ～大学生とゲームをしよう!～」

法政大学VSPの学生さんと「絵しりとり」「イントロクイズ」をしよう!!

暮らしの保健室プレゼント! ハンドベルの演奏 もあります!!

クリスマス会の定章曲をお届け!

ひだまりサロン 町だまり 年代を超えた新たな出会い! ご近所さんとのぬくぬく! いずれも地域の皆さんと一緒に交流の場です。月に一度町だまりホールで開催します。

参加費: 無料 対象: 区内在住の方 お申し込み

かがやきプラザ多世代交流担当 千代田区九段南1-6-10 かがやきプラザ2階 電話: 03-6255-6563 Mail: ciao@chiyoda-cosw.jp

誠意シニア募集中 チェアでのイベントを一緒に盛り上げませんか?



イントロクイズの様子



多世代でテーブルを囲む絵しりとり

## 63. 伝統工芸品で環境問題を考える

1. 日程 2023年1月27日(金)  
2. 場所 外濠校舎5階523～526会議室  
3. 概要

使い捨てやインスタント製品が溢れかえる現代では、捨てられてしまうゴミの量は年々増加しています。また、ゴミ処理場の受け入れの限界やゴミの堆積により懸念される環境問題が顕在化してきたため、「ゴミを出さないこと」を念頭にした物の使い方を考える必要が出てきました。そこで、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、長年にわたり培われた技と手の温かさが生んだ上質で丈夫な材質をもつ伝統工芸品の特徴に注目し、伝統工芸品であればインスタント製品に代わってゴミ問題を解決できるのではないかと考えました。本企画では、NPO法人伝統工芸つくも神さんに講師をお願いし、伝統工芸品に関する講義と和紙の紙漉き体験を行いました。合計15名の学生とともに得た、SDGsとしての伝統工芸品の在り方の学びや、伝統工芸品を作る体験は、普通の大学生では出会えない貴重なものでした。環境に配慮された物を長く大切に使うことは、ゴミを新たに作らない手段の一つです。この意識が一人ひとりに広まり、環境について意欲的に考えることの出来る学生が増えることを願っています。

法政大学ボランティアセンター  
学生スタッフVSP企画  
伝統工芸品で環境問題を考える

世代を超えて使うことのできる伝統工芸品を事例に「エンカル消費(人や社会、環境に配慮した消費活動)」の観点から環境問題を考える企画です。和紙作り体験を通して実際に環境負荷の少ない伝統工芸品を作ってみませんか

日時：2023年1月27日(金) 15:00-17:00  
場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階523-526会議室  
定員：25名  
参加費：500円  
講師：NPO法人伝統工芸つくも神

お申込みはこちら

<タイムスケジュール>  
15:00 はじめの挨拶・講師紹介  
15:05 講義  
16:00 ワークショップ 和紙の紙漉き体験  
17:00 終了予定

お問い合わせ：法政大学市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター内)  
TEL：03-3216-9516  
Mail：ichigayave-apply@mi-hosei.ac.jp

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科2年 長尾 美紅

4. 参加者数 15名

### 5. 企画学生の感想

伝統工芸品に触れたことの無い人が増えている中、この状況をどうにかできないかと思い本企画に参加しました。和紙すき体験を行ったことのある学生は少なく、このような機会を設けることができ良かったと思います。また、私自身も和紙作りに関する知識を新たに得ることができました。体験は個人作業でしたが、どのように和紙をすいているのかといった学生同士のコミュニケーションがみられました。今後もボランティアを通して学生同士のつながりを作れるような企画を考えていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部地理学科2年 小林 咲穂

### 6. 参加学生の感想

和紙自体の知識として知っていたことが何かの水を使う程度だったのですが、実際にやってみて科学的側面もあり思っていたよりも複雑に感じました。特に使用するもの全て自然由来のもので、薬剤等を使用していないこと、講演の中で「伝統製品は全て自然と関わっている」という発言がとても印象に残りました。人間環境学部生としてSDGsはよく学びますが、どれも理論としてのみ学ぶだけで、実践的な学習はしていませんでした。そのため今回のような何かを作ることを通してこれから先将来残していきたいものや達成していきたいものが「なぜか」を考えていききっかけとなりました。

人間環境学部人間環境学科2年 吉野 綾馬



全員で紙漉き工程の説明を受ける



好きな材料を漉き込む学生

# 64. 観光地清掃活動

1. 日程 2023年2月20日(月)

2. 場所 東京都台東区 浅草駅周辺

### 3. 概要

ボランティアは性質上、お堅いイメージを持たれやすいです。そんなイメージの中、清掃ボランティアはボランティアを始めたい人にとって比較的手をつけやすい活動の一つだといえます。一方で、清掃ボランティアは街中にあるゴミを拾い、集め、捨てるという単調な活動ともいえます。それゆえ、ボランティア活動に楽しみを見いだせず、再度参加しなくなることも珍しくありません。そこで、従来の清掃ボランティアをひと工夫することでボランティア活動を楽しみつつ、活動後も継続的に参加してもらうことを目的に、本企画では魅力的で人気のある雷門の周辺を清掃場所とすることで、普段味わえないような経験により心から楽しむ、清掃に観光要素を取り入れたボランティア活動にしました。企画当日は19名の方に参加していただき、5グループに分けて清掃ボランティアを実施しました。また、幸いなことに2月にしては寒くなく、清掃ボランティアを実施しやすい日でした。本ボランティア活動に関しては「非常に満足できた」というお声をいただき、今後、参加者がボランティアに興味を持ち、継続的に参加するだけでなく、ボランティアについて考える側になっていただければ、本企画者として大変喜ばしく思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 鶴田 淳

4. 学生参加者数 25名

### 5. 企画学生の感想

メイン通りはゴミが少なかったものの、少し外れて脇道に行くと煙草の吸い殻といったゴミが多くあり、どの地域でもポイ捨てが地域課題なのだと感じました。今後はポイ捨てをさせないという取り組みにも着目していきたいと思いました。また清掃場所を観光地である浅草にしたこと、実施時期を春休み期間にしたことにより、当日は多くの学生に参加してもらえ、楽しく清掃活動を行うことが出来、とても有意義な時間となりました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科2年 佐藤 莉乃

### 6. 参加学生の感想

想像以上にゴミが落ちていて、驚いた。中には花壇の中や私有地のすぐ近くにゴミが落ちており、周辺住民の居住環境の向上を目指さなければならないと考えた。観光客のマナーを向上させるために、何か取り組みが必要だと考えた。

人間環境学部人間環境学科1年 田宮 帆華



清掃活動中の様子



雷門前集合写真

法政大学ボランティアセンター 学生スタッフVSP企画

## 観光地清掃活動

魅力的で人気のある浅草駅周辺を、一緒に楽しみながら清掃しませんか？

比較的手をつけやすい清掃ボランティアは街中にあるゴミを拾い、集め、捨てるだけの単調な活動でもあります。そこで従来の清掃ボランティアに「観光要素」を加え、普段味わえないような経験により心から楽しむようにと思いを込め企画しました！

**【実施日時】2023年2月20日(月)10:00-11:00**  
(※小雨決行)


**【実施場所】東京都台東区 浅草駅の周辺**

**【参加者】**  
本学学部生20名程度

**【実施内容】**  
東京都台東区 浅草駅周辺の清掃

**【雨天時の予備日】**  
当日に大雨が降ってしまった場合は、再公募の形を取らせていただきます。ご了承ください。(※小雨決行)

**【お申し込みはこちらから】**



**【お問い合わせ】**  
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター  
(外濠校舎1階学生センター内)  
TEL: 03-3246-9516  
MAIL: ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



# 65.「東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会」

1. 日程 2023年3月2日(木)
2. 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 Y402 教室
3. 概要

東京メトロ飯田橋駅で行っている見守りボランティアに関して、東京地下鉄株式会社、日本ケアフィット共育機構、在学生に向けた報告会を行いました。今年度は4年ぶりに対面で開催することができました。

報告会では、私たちが普段行っている活動内容のみならず、研修会や日々の活動を通じた学びや学生同士の交流、ボランティア活動の日々の生活における活用などについて報告を行いました。報告会をより良いものにするために事前の打ち合わせやリハーサルを綿密に行うなど、本番に向けて多くの準備を行いました。今年は1年生が中心となって準備や当日の発表を行いました。当日は幸いにも多くの方々からお褒めの言葉を賜るなど、日ごろの活動成果の発表にふさわしい場に行うことができました。表彰では、7名のメンバーに東京地下鉄株式会社様より表彰していただきました。メトロボランティアの活動の意義・目的や改善点を活かし、より活発かつ効果的な活動を行うべく尽力してまいります。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア  
社会学部社会政策学科 2年 鈴木 瑛士

4. 学生参加者数 12名

## 5. 企画学生の感想

今回の報告会を開催するにあたり、昨年の12月から準備を進めてきました。発表用のスライドと原稿を一から作成するのは大変でしたが、意欲的な仲間と協力することにより、素敵なものを創り上げることができました。予想以上に多くの方々からお褒めの言葉をたくさん頂き、本当に嬉しかったです。来年度はメトロボラ活動をより充実させたものにしたいと改めて思った報告会でした。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 1年 山本 真衣

## 6. 参加学生の感想

報告会に参加して、法政大学が東京メトロと連携しているボランティア活動について認識を深めたほか、1年間努力してきた学生たちが表彰を受けられるところを見て、同じ法大生であることに誇らしい気持ちになり、今後周辺地域との交流を促進するために、自分から何かできることはないかと考えさせられる機会になりました。

法学部国際政治学科 1年 周 義浩



・場所：大内山校舎 Y402 教室  
・開催日：3月2日(木)  
・時間：13時～  
・定員：本学学生30名  
・申込方法：メール(市ヶ谷ボランティアセンター宛)  
【お問合せ・お申込】  
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター内)  
TEL：03-3264-9516  
Email：ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



東京メトロ様より表彰される学生



全員で記念撮影

# 66. 令和4年度「学生ボランティア団体助成事業」表彰式

1. 日程 2023年2月6日(月)
2. 場所 新宿NSビル30階 スカイカンファレンスルーム
3. 本学参加者数 2名

## 4. 概要

一般財団法人学生サポートセンターが実施しているボランティア団体助成事業にVSPが応募し、選考の結果「優秀レポート」選ばれ、活動資金として10万円を助成いただきました。

2月6日(月)は「ボランティア団体助成事業」及び「学生ビジネスプランコンテスト(学生サポートセンター主催)」に採択された団体の表彰式が行われ、VSPの代表、副代表が出席しました。

表彰式では各団体の代表が一人ずつ表彰され、VSPも代表の長尾さんが表彰状を受け取りました。表彰式は表彰の他、学生による活動紹介や謝辞、理事による激励お言葉をいただいた後、記念撮影をして終了しました。普段から、地道に取り組んでいるVSPの活動がこのように外部から評価を受けることは学生スタッフのやる気に繋がります。いただいた助成金を有意義に使わせていただくと共に、今後もVSP学生スタッフ及び市ヶ谷ボランティアセンターではボランティア活動を積極的に行い、地域や社会に貢献していきます。

## 5. 参加学生の感想

この度、VSPの活動をまとめたレポートが優秀レポートとして選出されることになりました。どのようなボランティアが社会に必要なのか、どのようなボランティアが学生に求められているのか、これらを考え続けた2年間でした。そのため、VSPの活動を一つの可視化された結果として実らせることができ、とても誇らしく嬉しい気持ちで一杯です。現在、VSPのスタッフは多くのボランティア企画を考案しています。どのようなボランティアが必要とされ、求められているのかを追求するとともに、既存の形にとらわれない、今の社会に合うボランティアの形を自分たちの手で作っていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科2年 長尾 美紅

VSPがコロナ禍で行ってきた活動を「学生ボランティア団体助成事業」に「学生ボランティア団体活動体験レポート」として応募し、見事優秀レポートに選ばれました。ボランティア活動は目に見える形として成果が得られにくいので、本当に活動を行った意味があったのか考えることがあります。私は今回レポートに記載したコロナ禍での活動に直接携わることはありませんでしたが、VSPの活動が他人の目から見て評価され、大変喜ばしく思うと同時に自信にもつながりました。表彰当日は表彰学生の同伴として式に参加しましたが、他学生の発表を聞き、私たちVSPとは違う種類のボランティア活動を知ることができました。今後の活動にも活かせる、大変貴重な経験でした。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 鶴田 淳



表彰式に参加したVSPの二人



表彰状を受け取る学生

# 67. 災害時寄り添いサポーターの会 ～防災かるた～

1. 日程 2023年3月4日(土)  
2. 場所 千代田区社会福祉協議会かがやきプラザ4階会議室

### 3. 概要

千代田区かがやきプラザにて、災害時寄り添いサポーターの会主催のイベントに参加しました。約1時間半のイベントでしたが、熱心に学びに来ている参加者の方々が多く、非常に有意義な時間を過ごすことができました。私たち「チームオレンジ」は、団体の活動紹介をした後、防災について啓発するために開発した「防災かるた」を使って、参加者の方々と防災について学びました。多くの方がゲームに興味を持ち、積極的に参加してくださり、楽しく学ぶことができました。また、私たちの防災ゲームには改善点が多く見付き、今後の改良の方向性を見出すことができました。さらに、あらゆる世代に通用することが分かり、私たち自身も学ぶことが多かったと感じました。このような貴重な体験を通じて、防災に対する意識が高まり、災害時における自己・他者救助能力の向上につながることを期待しています。今後も、私たちは防災啓発活動に取り組み、地域社会の防災力の向上に貢献していきたいと思ひます。

ボランティアセンター学生スタッフチームオレンジ 経済学部経済学科2年高橋 駿介

### 4. 学生参加者数 3名

### 5. 企画学生の感想

今回のイベントは、新しく改良された防災カルタを初めて使用したので、良い緊張感の中で挑めたと思う。結果として、本イベントでのチームオレンジは好評であった。しかし、問題点は数多く存在していると考えている。実際に感じた反省点としては1. ゲーム展開が間延びしがち2. 逆転要素がないためモチベーションの維持が難しい3. 絵札と読み札の結び付けが甘いものがある4. イベントに向けたスケジュール管理が甘かった。これらの点をしっかりと反省し、次に活かしていこうと考えている。

ボランティアセンター学生スタッフ チームオレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 吉岡 拓人

### 6. 参加学生の感想

今回は新しいカルタを実演する初の機会でした。試作段階で紛らわしい札があり、懸念していたが、参加者からは「紛らわしいけどその分考えられる」などと好印象でした。また、カルタ以外では自分が住んでいる地域の防災について考えさせられました。自分の住んでいる地域ではどのような災害がおこり、どこに避難をすれば良いのか考える機会になりました。反省点としては、参加者に我々の活動等を説明するパワーポイントがわかりにくい部分があったので、時間を掛ければよかったと思ひました。

ボランティアセンター学生スタッフチームオレンジ 経済学部経済学科2年 滝野 健太

**災害時寄り添いサポーターの会  
第3回勉強会**

日時	令和5年3月4日(土)
時間	午前10時00分～11時30分
場所	かがやきプラザ4F会議室1/2 <small>千代田区九段南1丁目6-10</small>

**若者たちと一緒に防災を学ぼう!**

**第一部** 法政大学の防災ボランティア「チームオレンジ」が開発した「防災かるた」の解説を聞きながら防災を考えます。

**第二部** ワールドカフェ  
「防災かるた」を体験しながら自分の読み札を作ります。

ちよだボランティアセンター主催の「災害時寄り添いサポーター養成講座」を受講された方、受講予定の方が対象です。

参加申し込み→メール [kojirookawa@icloud.com](mailto:kojirookawa@icloud.com) 及川宛

**主催：「災害時寄り添いサポーターの会」  
後援：ちよだボランティアセンター**



チームオレンジの紹介をするメンバー



防災かるたで地域社会と交流

# 68. 2022 年度 東北被災地スタディツアー

1. 日程 事前説明会 2023年2月21日(火)  
実施日 2023年3月7日(火)～9日(木)
2. 場所 岩手県(陸前高田市・釜石市・宮古市・山田町・大槌町)  
宮城県(仙台市・気仙沼市・石巻市)

## 3. 概要

2023年3月7日から9日にかけて、東北被災地スタディーツアーを実施しました。このツアーは、東日本大震災の被災地を訪れることで、現地での体験を通じて防災意識を高めることを目的としています。1日目は、仙台市立荒浜小学校と仙台市荒浜地区住宅基礎の視察を行いました。荒浜小学校は、津波によって全壊した建物であり、現在は震災遺構として保存されています。荒浜地区住宅基礎では、津波によって家屋が流された後に残った住宅の基礎部分を見学しました。午後からは石巻市に移動して、「防災まちあるき」に参加し、市内視察をしました。2日目は、宮城県の大島を訪れ、語り部の村上まきこさんの講話を聞きました。村上さんは、大島で震災に遭い、被災地での経験を通じて防災の重要性を訴えていました。その後、気仙沼市に移動し、リアスアーク美術館と気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を訪れました。リアスアーク美術館は、津波によって被災した地域の復興を写真や被災物を通して支援する活動を行っており、その取り組みについて学びました。気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館では、津波被災地の現状や復興の様子を展示しており、被災地の実情を知ることができました。そして岩手県のいわて TSUNAMI

メモリアルと奇跡の一本松を訪れ、いわて TSUNAMI メモリアルでは、津波被災地の様子をリアルに感じ取ることができ、ガイドの解説を通じて防災意識を高めることができました。奇跡の一本松は、津波によって周囲の木々が倒壊した中で、唯一生き残った松の木であり、震災の生存者たちの希望の象徴となっています。最終日は、三陸鉄道震災学習列車と宮古観光協会の「学ぼう防災ガイド」に参加しました。午前中、三陸鉄道の列車に乗り、被災地の現状を列車に乗りながら見学しました。列車内では震災時の様子や復興の様子がパネルで紹介され、震災当時の恐怖や復興の大変さを実感しました。また、列車から見える被災地の風景には、まだまだ復興が進んでいないところもあり、盛り土を行っている様子も確認でき、改めて被災地の現状を実感しました。午後からは、宮古市の観光協会で「学ぼう防災ガイド」の講話を聞きました。講話では、震災時の避難方法や備蓄の重要性、避難場所の選び方など、防災についての基礎知識を学びました。また地震発生時には携帯電話の利用やラジオの情報収集などが大切であることや、災害時には周りの人々との協力が必要であることも学びました。このような講話を聞くことで、被災地の現状や防災の重要性を改めて認識することができました。今後は、自分たちも防災のために備蓄や情報収集の準備を行い、災害が発生した場合に備えることが大切だと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 経済学部経済学科2年 高橋 駿介

4. 学生参加者 35名(事前説明会22名)

## 5. 参加学生の感想

・多くの写真や資料、被災地の方の声を通して、参加者全員が、震災についてより深い学びを得ることができたと思います。3月11日が近いお話をして下さった語り部の方々の、(被害を二度と繰り返さないようにここで得たことを周りの人に伝えて欲しい、自分たちが震災で起こったことを伝えることで、防げる未来がある)という言葉が印象的でした。私自身も、スタジアムで学び感じた多くのことを持ち帰り、家族や友人に伝えるつもりです。

・今回のスタディーツアーでは、過去を顧みつつ、未来を向いて復興への道を進む被災地の姿が非常に印象に残っている。震災遺構等の、震災の傷跡をまちながらも復興を進め、その様子を後世に伝えていく被災地を、私たちは実際に見た。これを踏まえて、私はこの被災地の思いを自分たちこそが継承し、さらに周囲に、伝えていく活動をするべきだと感じた。最後に企画者として、このツアーを企画することができ良かった。

市ヶ谷ボランティアセンター・チームオレンジ企画

## 東北被災地スタディーツアー

実施日 **2023年3月7日(火)～3月9日(木)**

集合/解散 行き JR 東京駅 7:30 集合 帰り JR 東京駅 21:10 解散

募集人数 35名

参加費用 15,000円(申込用紙に紙幣貼付)※昼食自己負担

申込締切 2月2日(木) 17:00まで ※先着順

申込方法 Google フォームにて受付。QRコードはこちら→  
(<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAAbQLSf3C3mV1169YqYOL5XueNFFL0t4M6r8QdNM6mibEmXEQ/viewform?usp=sharing>)

事前説明会 2月21日(火)14時～16時 @市ヶ谷/大内山校舎4階Y404教室  
\*申込者は参加必須\*

1日目(3月7日)  
・仙台市周辺施設見学予定  
・JR 東部新幹線(7:30)  
・JR 仙台駅(9:30着)  
・ホテル宿泊

2日目(3月8日)  
陸前高田市周辺施設見学予定  
・ホテル宿泊

3日目(3月9日)  
宮古市周辺施設見学予定  
・JR 盛岡駅より新幹線で帰路  
・JR 東部新幹線(21:10)

詳細は変更になる場合があります。変更内容は事前説明会でご案内します。

お問合せ  
市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階 学生センター内)  
TEL: 03-3264-9516 E-mail: [ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp](mailto:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp)



震災遺構 荒浜小学校を見学



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館にて震災時の様子を聴講



三陸鉄道 震災学習列車に乗車



全員で記念撮影

# 69. Ocha no Jikan (ベイラー大学とのオンライン交流会)

1. 日程 2023年3月15日(水)

2. 場所 Zoom

## 3. 概要

ローバル化が進行する中、新型コロナウイルス感染症の大流行により、海外への渡航が困難な状況となり、学生も海外へ留学する機会も減少してしまいました。近頃、海外への渡航も以前のような状況に戻り始めていますが、まだ以前のような状況には戻るまでには時間を要しそうな状況です。そこで今回、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP は、現地に渡航せずに、オンラインで海外の学生と日本の学生が交流できる場を作り、「海外の学生と日本の学生が気軽にオンラインで交流できる機会を作ること」を目標に本企画を実施しました。また、本企画ではベイラー大学の藤井先生とベイラー大学の学生に協力していただき、Ocha no Jikan という名前のオンライン交流企画を実施しました。参加した学生は、ベイラー大学や、テキサス大学、西南学院大学、法政大学等の学生がおり、1時間という短い時間ではありましたが、英語と日本語でコミュニケーションをとっていました。小さなグループに分かれてお互いの文化に関して、意見交換を行う際には、どちらかの言語に偏るといことがなく、二言語が混ざり合った環境で互いに意見交換をしている空間が印象的でした。オンラインでの短時間の交流ではありましたが、海外の学生と日本の学生の交流の場を作れて良かったと感じるとともに、今回のような企画が今後も続けばいいと願っています。

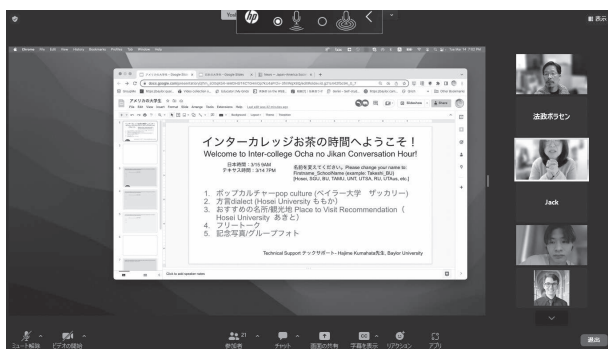
ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1年 関下 桃可

4. 学生参加者数 20名(法政5名)

## 5. 参加学生の感想

思ったよりも参加学生が多く、比較的盛り上がったのではないかと思います。しかし、私たち企画運営側が、第二言語でのコミュニケーションによる遅延の時間を考慮しきれず、時間配分が不適切だったと感じております。また zoom での実施だったため、喋らない人はミュートしてしまっていたので、より意見しやすい環境を作ることが出来れば、もっと企画が盛り上がったのではないかと反省しています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP グローバル教養学部グローバル教養学科 1年 大石 晶人



オンライン交流会の様子



全員で集合写真

# 70. 2022 年度 東京メトロ飯田橋駅ボランティア年間活動報告

1. 活動実績
- 4月 2022 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会
  - 5月 新入生交流会
  - 6月 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会
  - 11月 HOSEI DIVERSITYWEEKs 2022 (紹介動画作成)
  - 3月 東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会

## 2. 概要

東京メトロ飯田橋駅ボランティアは、東京地下鉄株式会社様と協力しながら東京メトロ飯田橋駅構内で「見守る目」として巡回、見守り、ご案内等の活動を行っています。2017年に活動が始まったこの活動はこの春で7年目を迎えます。新型コロナウイルス感染症の拡大により一昨年、昨年と我々の活動は大きな制約を受けていましたが、今年度はコロナ禍が続く中ではあるものの活動制限が緩和されました。多くのメンバーが積極的に活動を行い、コロナ前の光景が徐々に戻りつつあります。

今年度は上限の20名の新規メンバーを迎えた中で、交流会やシフトでの活動など新入生への手厚いサポートを実施しました。それにより多くの新入生が積極的に活動を行うことができました。今年度は7名のメンバーが駅での活動について東京地下鉄株式会社様から表彰を受けましたが、うち6名は新入生であるなど、その活躍ぶりは顕著でした。また引継ぎ体制の強化を目的としメールのやり取りを公式メールアドレスに一元化、各種資料のドライブへの共有などを行いました。一方、情報共有や連携については課題が見られました。23年度は状況の共有ややるべきことの下級生への割り振り、メンバーで自主的に集まる準定期会の実施を積極的に行い団体全体での連携を強化します。また、議事録や引継ぎ書の作成など、引継ぎ体制を強化していきます。23年度はコロナによる制限がより緩和されていく中で、メンバー同士の交流もより一層活発化されることを期待しています。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア  
社会学部社会政策学科 2年 鈴木 瑛士

## 3. 参加学生の感想

・メトボラ活動そのものについて、最初は案内しながら自分もスマホで調べるといことも多かったが、次第に自信をもって案内できるケースが増えた。来年は、お体が不自由なお客様の案内方法をおさらいし、外国のお客様向けの英語対応にも力を入れたい。交流会については、先輩方の提案で男子交流会を共に主催することができてよかった。また、報告会では、幸運にも表彰を受けることができ、今後も活動頑張っていこうと力が入った。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア  
グローバル教養学部 1年 荻野 賢輝

・「この大学でしかできないことをしたい」と思い4月に加入して1年間活動しました。最初は、複雑な飯田橋駅の構造を理解するのが大変で、利用者に十分な案内が出来るか不安でした。しかし、活動の度にメンバーと復習したり、案内の際に分からなかったことがあれば協力しあったりすることで、今では楽しく活動できています。来年度は、国内外の観光客を案内する機会が増えると考えられるので、英語での案内方法も学んでいきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア  
キャリアデザイン学部 1年 前田 すみれ



メンバー揃って記念撮影



飯田橋駅構内で活動する様子

# 多摩ボランティアセンターについて

2022年度 多摩ボランティアセンターの活動の概要 (荻部 俊二 多摩ボランティアセンター長) . . . . .	103
2022年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計 . . . . .	105
2022年度 多摩ボランティアセンター学生団体紹介 . . . . .	106
2022年度 多摩ボランティアセンターイベントカレンダー . . . . .	107
2022年度 多摩ボランティアセンター活動の報告 . . . . .	109



## 多摩ボランティアセンターの活動の概要

### 多摩ボランティアセンター2022年度活動の総括

多摩ボランティアセンター長 荻部 俊二

2020年からの新型コロナウイルス感染症の流行によって、2020年度、2021年度はボランティアセンターの活動は、休止や変更、延期など、多くの制限、制約を受けてきました。2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響は残りつつも、ようやく少しずつ本来の活動を再開できるようになってきました。前多摩ボランティアセンター長の大崎雄二先生から引き継いだ課題「新しいボランティア活動の検討」「近隣地域、行政との連携」については、十分な成果を収めるには至りませんでした。多くの「地域との絆」を紡ぐ取り組みが実施できました。2022年度の学生スタッフ登録者は、24名で、それほど多くはありませんでした。しかし、4月4日、5日の2日間開催された新歓祭では、多摩ボランティアセンターの学生スタッフブースに63名が来訪、5月当初は新入生の学生スタッフ登録が14名となり、学生のボランティア活動への関心、意識の高さを感じさせるものとなりました。学生スタッフのミーティングは11回を数え、活発な意見が交わされ、学生の自由な発想と行動力によって多くの活動が展開されました。

#### 主な活動

- ・防災館見学会（5月15日）
- ・献血ボランティア（6月1日、7月11日、11月1日）
- ・子どもセンターばお夏祭り（7月31日）
- ・相原地区協議会大学連携事業 地域交流会「竹カフェ」（9月24日）
- ・さがまち club「つながりマルシェ」（10月15日）
- ・子どもセンターばおハロウィンイベント（10月23日）
- ・相原中央公園スポーツイベント（11月3日）
- ・市民協働フェスティバル「まちカフェ！」（11月26日）
- ・相原地区協議会大学連携事業 地域交流会「竹カフェ」クリスマス会（12月17日）
- ・芹ヶ谷公園「緑の物語をつくるワークショップ」（2月25日）
- ・多摩地域交流センタープロジェクト「地域交流 DAY」（2月25日）
- ・学生活動報告会「ガクマチ EXPO」（3月21日）

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響から、オンラインでの活動もありましたが、今年は多くのイベントが対面で実施できました。私は多摩ボランティアセンター長の立場で、9月24日と12月17日に開催された相原地区協議会大学連携事業 地域交流会「竹カフェ」に参加させていただきました。9月24日は、「ポッチャ大会」、12月17日は「クリスマス会」を学生が企画、運営し、地域の皆様に楽しんでいただきました。これらのイベント

は大学と地域を繋ぎ、地域の抱えている問題を知る良い機会となります。学生のみならず、私も地域の皆様と良い交流ができました。そして、参加した学生のボランティア活動への自発的かつ真摯な取り組み、さらに豊かな創造性を強く感じさせてもらいました。新型コロナウイルス感染症による活動制限を経て、影響は残存しつつもそれを乗り越えることによって創設以来の基本方針である「学生スタッフによる自律的な企画運営」を実現できたのではないかと思います。その企画、運営の実現は、ボランティアセンター事務局の多大なるお力添えによるものであり、この場をお借りして御礼申し上げます。

多摩ボランティアセンターは、多摩地域交流センターと統合され、2023年度からはソーシャル・イノベーションセンターとして改組されます。学生スタッフはそのままソーシャル・イノベーションセンターに引き継がれることとなります。ボランティアとイノベーションは重複する機能も多少はございますが、性質の異なる概念です。統合後もボランティア活動の意味や定義を堅持し、学生のボランティア活動に対する灯を消すことのないよう活動の場を確保していただきたくお願い申し上げます、最後の多摩ボランティアセンター長としての総括とさせていただきます。

## 2022年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数(人)	学生(人)	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	45	45	0	45	20
5月	27	24	3	24	17
6月	38	35	3	32	22
7月	23	20	3	19	21
8月	7	6	1	6	18
9月	28	26	2	22	22
10月	48	45	3	41	21
11月	68	64	4	62	21
12月	50	45	5	45	17
1月	6	6	0	6	16
2月	6	6	0	6	19
3月	1	0	1	1	22
合計	347	322	25	309	236

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

## 多摩ボランティアセンター 学生団体紹介 ～学生スタッフのことば～

### (多摩ボランティアセンター統括)

多摩ボランティアセンターでは学生スタッフがそれぞれに興味のある分野のボランティアに参加したり、企画したりしています。地域交流・防災・清掃など多岐にわたるボランティア活動を行っています。

多摩ボランティアセンターでは、本年度も多摩キャンパス周辺での地域交流に力を入れて取り組みました。代表的なものを挙げると、多摩キャンパスに地域の方々を招待して交流を行った「地域交流会竹カフェ」、同じ町田・相模原地域で活動する他大学の学生団体と交流を深めた「学生活動報告会ガクマチ EXPO」・「つながりマルシェ」、町田市の市民協働フェスティバル「まちカフェ!」、多摩キャンパスから程近い場所にある子どもセンターばおでの夏祭りのお手伝いなどです。それぞれの活動を通して、地域の方々から喜びの声を直接伝えられ、学生スタッフも十分なやりがいを感じました。

中でも特に印象に残っている活動は「地域交流会竹カフェ」です。「竹カフェ」は、参加者と一緒にパラリンピック正式種目のポッチャを行った会と、学生が用意した出し物を楽しむクリスマス会の計2回開催しました。ポッチャでは地域の方々と試合を通して交流を行い、その日のうちに皆さんと仲良くなることが出来ました。ポッチャを実際に体験することは初めてだったのですが、イメージしていたよりもボールをコントロールすることが難しく、ポッチャの奥深さを知ることが出来ました。

来年度は地域交流センターと統合しますが、地域に貢献する活動を軸に、親しみやすいボランティアを続けたいと思います。

2022年度 学生スタッフ代表 矢野 聖悟



学生スタッフ集合写真

## 2022 年度・多摩ボランティアセンター活動報告

実施日	プログラム	団体名、講師、協力先
5月15日(日)	防災館見学会	池袋防災館
6月1日(水)	日本赤十字社献血ボランティア	東京都赤十字血液センター
7月11日(月)	日本赤十字社献血ボランティア	東京都赤十字血液センター
7月31日(日)	子どもセンターばお 夏祭り	子どもセンターばお
9月24日(土)	—相原地区協議会大学連携事業—地域交流会「竹カフェ」	Slow World Café
10月15日(土)	つながりマルシェ	さがまちコンソーシアム、さがまち club
10月15日(土)・16日(日)	第75回自主法政祭多摩地区(多摩祭)	町田市防災安全部市民生活安全課
10月23日(日)	子どもセンターばお ハロウィンイベント	子どもセンターばお
11月1日(火)	日本赤十字社献血ボランティア	東京都赤十字血液センター
11月3日(木・祝)	相原中央公園スポーツイベント～FUN DAY～	相原中央公園、相原スポーツクラブ委員会
11月26日(土)	第16回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ!」	町田市地域活動サポートオフィス、町田市市民部市民協働推進課
12月17日(土)	—相原地区協議会大学連携事業—地域交流会「竹カフェ クリスマス会」	はもるぶ、Slow World Café
2月25日(土)	芹ヶ谷公園イベント「緑の物語をつくるワークショップ」	さがまちコンソーシアム
3月21日(火・祝)	学生活動報告会「ガクマチ EXPO」	町田市生涯学習センター、町田、相模原で活躍する学生団体

概要	場所	参加者数 (実数)	学生数	(内)留学生数	備考
防災について実践的に学ぶため、防災館の見学と体験プログラムに参加	池袋防災館	8	8	0	
受付や献血車への誘導・案内	多摩キャンパス センタープラザ前	11	11	0	
受付や献血車への誘導・案内	多摩キャンパス センタープラザ前	1	1	0	
子どもセンターばお夏祭りイベントの運営補助	子どもセンターばお	12	12	0	
地域の方をお招きした、ポッチャ体験による交流会	多摩キャンパス EGG DOME 多目的ホール	43	17	0	
相模原・町田地域の学生団体による地域活性化イベントにて、防災ワークショップを開催	芹ヶ谷公園 多目的広場	2	2	0	
町田市市民生活安全課と協働した、反射材を利用した暗闇緑日企画	多摩キャンパス 経済学部棟 220 教室	11	11	0	
子ども企画「ちぎり絵体験」の運営	子どもセンターばお	5	5	0	
受付や献血車への誘導・案内	多摩キャンパス センタープラザ前	0	0	0	
子ども向けの走り方教室の運営	相原中央公園 多目的広場 2 (スポーツ 広場)	3	3	0	
折り紙を用いた「ちぎり絵」のワークショップ	町田市役所 おうえんルーム	4	4	0	
地域の方をお招きした交流会。アカペラサークル「はもるぷ♪」によるライブやクリスマスカード作成、クイズ大会を実施	多摩キャンパス EGG DOME Slow World Café	18	10	0	
相模原・町田地域の学生団体による地域活性化イベントにて、防災ワークショップを開催	芹ヶ谷公園 多目的広場	4	4	0	
学生団体による活動報告会と交流会イベント	町田市生涯学習センター	5	5	0	

# 1. 防災館見学会

1. 日 程 2022年5月15日(日)

2. 場 所 池袋防災館

## 3. 概 要

学生スタッフが池袋防災館を訪問し、防災館の見学と防災体験ツアーに参加した。平時から備えておくべき事柄、被災時取るべき行動について実践的に学んだ。

4. 学生参加者数 8名

## 5. 参加学生の感想

堅苦しい雰囲気はなく、インストラクターの方も面白い方で非常に和やかでした。印象に残った体験は地震体験で、東日本大震災を再現した震度7を体感したのですが、非常に激しい揺れで、頭の中が一瞬で真っ白になりました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 矢野 聖悟

体験前と後で心持が変わった点は、火災の中での行動が想定よりも圧倒的に制限されるということであった。視界不良、呼吸制限等、実際に直面した場合にパニックになる要素は多々あった。体験なしには気づかない点であった。一方で、体験前から後で、一貫して確立されたことは、地震対策と食糧備蓄、特に水は重要であるということだった。

経済学部 現代ビジネス学科1年 廣瀬 耀介

今回、防災館で地震・煙・消火・救急の4つを体験しました。この中で特に私が印象に残ったものは地震体験でした。地震体験では特別な装置を使い、震度7の揺れを実際に体感することができたのですが、机の脚にしっかり掴まっても机ごと投げ飛ばされてしまう程のものであり、今まで経験したことのないような揺れで、声も出ない位、非常に怖かったです。現在、南海トラフや首都直下型地震など、間違いなく大地震が起きると予想されているので、改めて防災というものの見直しや実行を個人レベルで行わなくてはいけないなと思いました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科1年 三石 帆波



防災について実践を交えて学んだ

## 2. 日本赤十字社献血ボランティア

1. 日 程 ① 2022年6月1日(水)

② 2022年7月11日(月)

③ 2022年11月1日(火)

2. 場 所 多摩キャンパス センタープラザ前

### 3. 概 要

多摩キャンパスにて献血協力を呼び掛けた。参加学生は当日来場者の受付や案内など、補助ボランティアを行った。

4. 学生参加者数 ① 11名 ② 1名 ③ 0名

### 5. 参加学生の感想

(6/1)

今まで献血のボランティアはしたことがなく不安もありましたが、献血の雰囲気の間近で感じることができ、良い経験になりました。機会があればまた参加して、呼び込みなどでもできるように頑張りたいです。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 田中 遥

今回のボランティアを通して献血の大切さを感じました。又指導してくれる方々も優しくしてくださり、伸び伸びと活動することができました。

経済学部 経済学科1年 森田 陸生

私は呼びかけの仕事を行いました。看板を持ってキャンパス内を歩くだけでも、献血に興味を持ってくれる方が多くいて嬉しかったです。

経済学部 経済学科1年 滝田 実加

今回、献血ボランティアスタッフとして活動したことで、献血に対するハードルが下がったような気がしました。次回は当事者として献血をしてみたいなと思いました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科1年 三石 帆波

(7/11)

授業の合間でも協力して下さる方は途絶えることがなかったので、献血の認知度とその協力して下さった多くの方の想いに感動しました。活動は猛暑日でしたが、一緒に運営する方が何度も水分補給の声掛けをしてくださいました。そのため、献血に協力して下さった学生の方、運営する側、ともに優しくあたたかい空間になっていたと思います。

社会学部 メディア社会学科4年 大島 瑞稀





(6/1) 順番を待つ学生たち



(6/1) たくさんの方にご協力いただいた



(7/11) 暑い中での活動となった



(7/11) 参加者の荷物を管理



(11/1) 今年度最後の学内献血だった



(11/1) 2022年度はのべ150人が献血に参加した

## 3. 子どもセンターぱお 夏祭り

1. 日程 2022年7月31日(日)

2. 場所 子どもセンターぱお

### 3. 概要

町田市の子どもセンターぱおが主催する夏祭りにて、運営補助を行った。参加学生は工作コーナーと駐輪場整備を担当し、地域の方々と交流した。

4. 学生参加者数 12名

### 5. 参加学生の感想

工作を教えるのは難しかったですが、楽しく参加することができました。実際に子どもたちと関わり、一人ひとりに合った伝え方をすることが大切なのだと実感しました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 田中 遥

今回のボランティア活動では、さまざまな年代の方とお話をする機会がありました。特に、小さい子どもとの会話は、工作コーナーで多くありました。小さい子に説明するためには、言葉ではなく実際に動きで表現した方が良いということがわかりました。

経済学部 経済学科1年 村田 晴太



子どもたちと工作①



子どもたちと工作②



ステージの受付を担当



たくさんの方にお越しいただいた

## 4. - 相原地区協議会大学連携事業 - 地域交流会「竹カフェ」

1. 日程 2022年9月24日(土)

2. 場所 多摩キャンパス EGG DOME 多目的ホール

### 3. 概要

地域の方々をお招きし、東京オリンピックの正式種目にも選ばれたポッチャの体験イベントを実施した。地域の方と学生の混成チームによる対戦形式で試合が行われ、地域の方々 26名と学生スタッフ 17名の計 43名が参加した。

4. 学生参加者数 17名

### 5. 参加学生の感想

こうした地域の方と交流するボランティアというのは初めてだったが、自分なりに積極的に関わりを持って行くことができた。こうした初めて会う方々と交流することはボランティア以外にもあるだろうから、今回の経験を活かしていきたい。

社会学部 社会政策科学科 3年 鶴淵 尊

去年の竹カフェは参加することができなかったため、今年参加できて本当に良かったです。チーム内で交流したり、状況を見て対応したりすることも多かったですが、とても爽やかな活動になりました。4月に言った『みんなが楽しめる活動』を実践できたのではと思います。12月の活動にも活かしたいです。

現代福祉学部 臨床心理学科 2年 佐藤 菜歩

想像していたよりも、地域の方と一緒に盛り上がることでとても楽しかったです。対戦相手でも、応援しあったり、ほめあったりしていい雰囲気だと感じました。

現代福祉学部 臨床心理学科 1年 竹内 琴音

同じチームの方とたくさんお話することができました。初対面でしたが全員でポッチャを楽しむことができ、1位になれたのが嬉しいです。また地域の方と交流する機会があれば参加したいと思いました。

経済学部 経済学科 1年 滝田 実加

地域の方々と交流できて楽しかったです。ポッチャというスポーツを通しての交流は、普通に交流する以上に互いに打ち解け合うことができたと思います。これからも機会があったら参加したいです。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 1年 三石 帆波

地域の方とたくさん関わることができて楽しかった。自分たちも、参加してくださった方々も楽しく、笑顔で過ごせた良い時間だった。

現代福祉学部 臨床心理学科 1年 佐藤 萌々香

ポッチャとは？  
白いボールに、自分のチームのボールを近づけて得点を競う、カーリングのような競技。  
パラリンピックの正式種目として採用されています。



今回の竹カフェではポッチャ大会を開催します！参加費ありません！優秀賞のプレゼントあります！

地域交流会 竹カフェ  
法政大学生と  
ポッチャを  
しませんか？



みなさんで楽しみいただけます！  
ぜひご参加ください！

2022年9月24日(土)  
13:00~15:30  
法政大学多摩キャンパス  
EGG DOME 5階

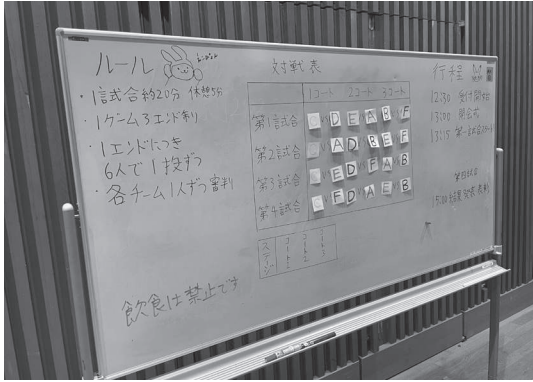
12:30~ 受付  
13:00~ 試合開始  
15:00~ 表彰式  
~15:30 解散



申し込みは  
法政大学多摩ボランティアセンターへ

電話 : 042-783-2073  
メール : tama-vc@hosei.ac.jp  
\*9/9(金)までにお申し込みください。

当日会場では、  
・アルコール除菌  
・こまめな換気  
・検温とマスク  
を、徹底してまいります。  
どうぞ皆様、お気軽にお越しください。



当日の対戦表



学生によるデモンストレーション



ボール間の距離を測定



大盛り上がりのイベントとなった

## 5. つながりマルシェ

1. 日程 2022年10月15日(土)

2. 場所 芹ヶ谷公園 多目的広場

### 3. 概要

さがまち学生クラブ主催の地域イベントに学生スタッフが参加。新聞紙で作るスリッパや、ゴミ袋で作る雨合羽など、緊急時に役立つ防災グッズ作りのブースを運営した。

4. 学生参加者数 2名

### 5. 参加学生の感想

当日だけでなく全5回のミーティングも通して、参加されたたくさんの団体の方と、お互いの活動について知ることができました。今後もこのつながりを活かして、お互いが人手や助けが欲しい時に協力者を募ったり、イベント等を企画することができるのではないかと思います。特に今回は、当日だけでなくミーティングでも対面で会うことが多かったため、知り合いになれる機会も多かったです。防災に関するワークショップも、今回は参加者の反応が良かったと思います。参加された団体の方も、興味を持って来ていただいた方が多かったです。

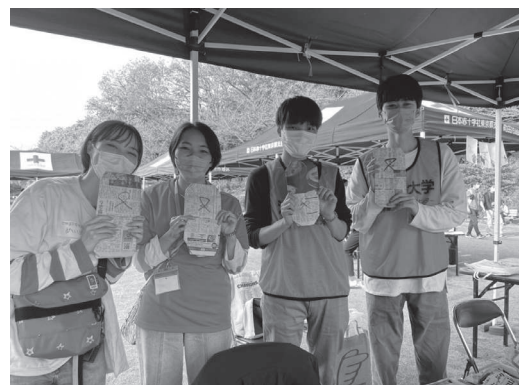
社会学部 社会学科4年 山中 一智也

今回、つながりマルシェに参加させていただき、ブースにて身近なもので作る防災グッズの作成体験と気仙沼の郷土料理紹介を行いました。防災グッズの作成体験をしていただいた方に「いざというときにタメになる!」といった感想や「是非お金を払ってでも聞きたい!」といった感想をいただき、本当にこの企画を行うことができ良かったと思いました。また、小さいお子さんにとっても工作をする感覚で楽しんで作成していただけたことも嬉しかったです。つながりマルシェということで、他の団体の方にもブースに来ていただいたり、自分自身もいろんなブースをまわることができて、つながりを深めることができました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 矢野 聖悟



子どもたちと防災グッズ作り



他大学と交流する良い機会となった

## 6. 第75回自主法政祭多摩地区（多摩祭）

1. 日程 2022年10月15日（土）～16日（日）

2. 場所 多摩キャンパス 経済学部棟2階 220教室

### 3. 概要

第75回多摩祭にて、町田市市民生活安全課にご協力いただき、照明を落とした部屋で反射材を利用したミニゲームを行う「暗闇縁日」を実施した。

4. 学生参加者数 11名

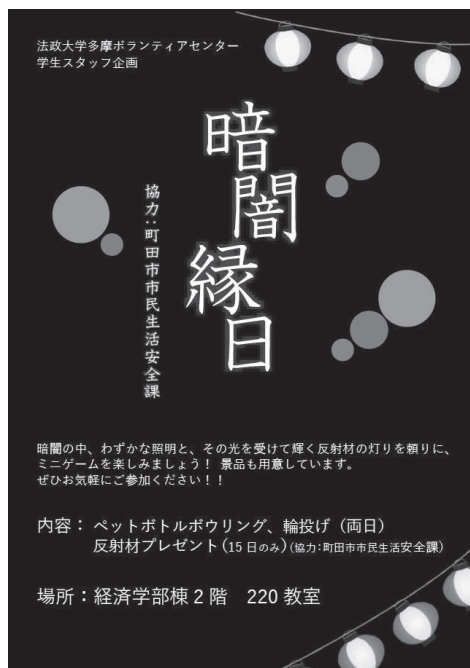
### 5. 参加学生の感想

今回の多摩祭は昨年に比べ多くの方にご来場いただいたのではないかと思います。中には私たちの活動に興味を持ちどのようなことをやっているのかお聞きくださった方もいらっしゃいました。15日の反射材のコラボは、関心を持ち実際につけて帰っていった方々も見られ、良い企画になったのではないかと思います。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 中山 紗希

僕は今年が多摩祭には16日（日）のみの参加となってしまったのですが、16日も40名を超える方に来場していただき、出し物を楽しんでいただいたり、暗闇での縁日というアイデアを「面白い!」と褒めていただいたり、この企画をやって良かったと思えることの連続でした。来場していただいた方の中には、前日のつながりマルシェ（町田市芹ヶ谷公園で行われたイベント）に学生団体として同じくブースを出されていて、そこで仲良くなれた八王子学生委員会の方にも来ていただき、いろんな方との縁も感じながら、参加していただいたことに対して本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。準備のときからうまく進めることができずに、反省も多く残りましたが、様々な方のご協力もあり、無事に終わることができてホッとしています。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 矢野 聖悟



輪投げブース



町田市市民生活安全課にご協力いただいたブース

## 7. 子どもセンターばお ハロウィンイベント

1. 日程 2022年10月23日(日)

2. 場所 子どもセンターばお

### 3. 概要

町田市の子どもセンターばおが主催するハロウィンイベントにて、学生スタッフが、子ども対象の工作企画としてちぎり絵体験を実施し、地域の方々と交流した。

4. 学生参加者数 5名

### 5. 参加学生の感想

参加人数が読めなかったため、どうなるか不安でしたが、何度も戻ってきて参加してくれたり、付き添いのお母さんも一緒に楽しんでもらったりと、やって良かったと思える時間でした。ただ作るだけではなく雑談をしたり、折り紙を覚えてくれたりと、だんだんと心を開いてくれているなど感じながら交流ができたように思います。「また今度来てね」と言ってくれる子もいたので、今後もイベントを企画してがんばっていきたいです。

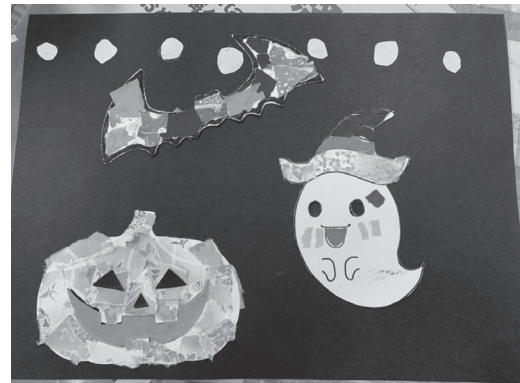
現代福祉学部 臨床心理学科 2年 佐藤 菜歩

初めて子どもセンターばおに行っただけのボランティアをしましたが、スタッフの皆さんもとてもやさしく、子どもたちも、私たちが部外者と思わないで受け入れてくれて、とても温かい空間だなあと感じました。

現代福祉学部 臨床心理学科 1年 水上 菜那



子どもたちと工作



完成したちぎり絵

# 8. 相原中央公園スポーツイベント ～ FUN DAY ～

1. 日程 2022年11月3日(木・祝)  
 2. 場所 相原中央公園 多目的広場2(スポーツ広場)

3. 概要  
 町田市相原中央公園スポーツ広場で行われた、子どもを対象としたスポーツイベントの運営補助として参加した。学生は「走り方教室」のブースを担当し、子どもたちに正しい走り方の指導や50メートル走のタイム測定を行った。

4. 学生参加者数 3名

5. 参加学生の感想  
 3回目となる相原での走り方教室ですが、去年も来てくれた子がまた参加してくれていたのが嬉しかったです。去年をふまえて、小学校にあがる前の子も多く来ていたので分けて行おうとしましたが、学生の人数が少なく合同で行うことになりました。しかし、慣れもあり子どもたちが走って帰ってくる時にそのままレースを帰って次の人とぶつかることを避けるよう伝えられたので、小さい子もケガなく取り組めるものとなったと感じられました。毎回、名札を付けるのはすごく良い点だと思っています。

社会学部 メディア社会学科4年 大島 瑞稀



昨年に引き続き、走り方教室のボランティアに参加させていただきました。「速になりたい人〜?」と聞くと一斉に手が挙がるほどやる気がある子どもたちを教えることは非常に楽しく、私も走る楽しさを改めて思いださせてもらいました。貴重な時間を本当にありがとうございました。

スポーツ健康学部 スポーツ健康学科4年 新井 涼香



50メートル走のタイムを測定



大勢の子どもたちと触れ合った

多摩ボランティアセンター  
 活動について  
 活動の報告



## 9. 第16回町田市市民協働フェスティバル 「まちカフェ！」～ちぎり絵ワークショップ～

1. 日程 2022年11月26日(土)

2. 場所 町田市役所 おうえんルーム

### 3. 概要

町田市内で活動するNPO法人や市民活動団体が互いの活動を知り、交流を深め、地域で活動するきっかけ作りの場になることを目的としたイベントに参加。学生スタッフのブースでは、ちぎり絵ワークショップを行い、売上金額は医療支援を目的に、全額町田市に寄付をした。

4. 学生参加者数 4名

### 5. 参加学生の感想

今回、まちカフェでちぎり絵ワークショップを行ったが、以前子どもセンターばおで同じような活動をしていたため、その経験を基に前回よりもスムーズに交流することができた。また自分たちと同じような活動をしている学生の方々にも来ていただき、交流を深められた。そういった点でも非常に有意義な時間になったと思う。今後こういった様々な団体が参加するイベントに自分も参加し、多くの人々と交流していきたい。

社会学部 社会政策科学科3年 鶴淵 尊

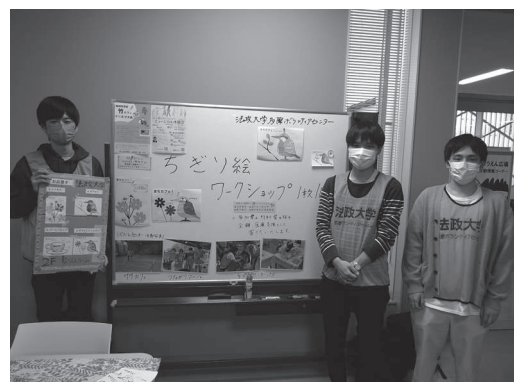
今回のまちカフェが、実際に参加する初めてのまちカフェでした。企画内容は、自

分で提案したワークショップであったため、子どもたちやいらしてくださった方が皆さん楽しそうにちぎり絵をしている姿を見ることができ、提案して良かったなと思いました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 中山 紗希



学生たちが作り方をレクチャー



たくさんの方にご参加いただいた

# 10. 一相原地区協議会大学連携事業 地域交流会「竹カフェ クリスマス会」

1. 日程 2022年12月17日(土)  
2. 場所 多摩キャンパス EGG DOME Slow World Café

3. 概要  
地域の方々をお招きし、クリスマスにちなんだプログラム(クリスマスカード作り、アカペラサークル「はもるぶ♪」によるライブ、クイズ大会)を実施した。地域の方々8名と学生スタッフ10名の計18名が参加した。

4. 学生参加者数 10名

5. 参加学生の感想  
クリスマスカードとクイズ大会の両方とも盛り上がっていて良かったと思います。今回は周辺に住む方は参加されませんでしたが、もし参加された場合でも、楽しみやすい内容だったのではないかと思います。準備に関してはほとんど関わることにはできませんでしたが、それぞれ分担が上手くかかっていると感心しました。クリスマスカードも、メッセージ欄の記入について、もう少し時間が取れたらなお良かったように思いました。

社会学部 社会学科4年 山中 一智也

参加者の方々と一緒にアカペラやクイズ大会を楽しむことができた。今回は比較的小規模での開催となったが、特にクイズ大会はもう少し参加者がいた方が盛り上がると思うので、次回は集客から力を入れていきたい。

社会学部 社会政策科学科3年 鶴淵 尊

クリスマスカードを作るという企画を提案し、スクラッチカードを削り、オリジナルのカードを作りましたが、参加して下さった方々が楽しそうに、またやりたいと話されていたので良かったです。クイズも、簡単なものから難しいものまで、チームで楽しみながら取り組むことができました。今回も楽しく活動できました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 中山 紗希

クイズ大会のとき、端末の不具合によって、きちんと参加できていないグループがあったので、一度リハーサルを通して様子を見ておくべきであった。合唱がダイナミックで、とても興味深かった。

経済学部 経済学科1年 森田 陸生

皆さんと一緒に楽しむことができました。クイズ大会では全員で意見を出し合いながら答えられたので、交流できたと思います。またこのような機会があれば参加したいです。

経済学部 経済学科1年 滝田 実加

## 地域交流会

# 竹カフェ クリスマス会

法政大学生と楽しむ

### イベント内容

日時: 12月17日(土) 13:00~15:00

場所: 法政大学 多摩キャンパス

エッグドーム2F Slow world cafe

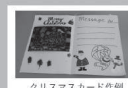
定員: 30名(どなたでもOK)

内容: クリスマスカードの作成

法政大学 アカペラサークル「はもるぶ♪」ライブ

チーム対抗クイズ大会

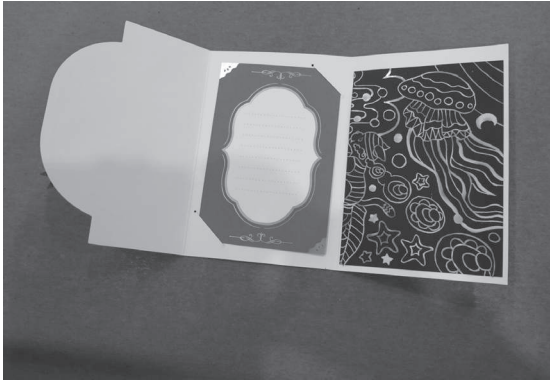
※お茶菓子の提供を予定していますが、感染状況によりお持ち帰りになる可能性があります。



クリスマスカード作り例

申し込みは「多摩ボランティアセンター」へ (詳細は裏面に記載)  
住所 〒194-0298 東京都町田市相原町4342  
電話 042-783-2073 FAX 042-783-2074  
メール tama-vc@hosei.ac.jp

**申し込み締切: 12月9日(金) まで**



クリスマスカード



アカペラサークル「はもるぷ♪」によるライブ



クリスマスにまつわるクイズ大会



楽しい時間を過ごした

# 11. 芹ヶ谷公園イベント 「緑の物語をつくるワークショップ」

1. 日程 2023年2月25日(土)

2. 場所 芹ヶ谷公園 多目的広場

### 3. 概要

「ハンズオン(体験型学習)」をコンセプトに、様々な体験を通じて芹ヶ谷公園の緑と維持管理にいて学ぶイベントに学生スタッフが参加。新聞紙で作るスリッパや、ゴミ袋で作る雨合羽など、緊急時に役立つ防災グッズ作りのブースを運営した。

4. 学生参加者数 4名

### 5. 参加学生の感想

今回防災グッズワークショップを出展してみて、参加された方から驚きのリアクションをいただき感謝されることが本当に嬉しくて、出展して良かったと思う場面が多くありました。また、今回の芹ヶ谷公園でのイベントに違和感なくマッチしていたと思い、他の団体さんのブースに参加した流れでボラセンに参加してくれた方もいたので、今回から新しく参加した身としてホッとした思いでした。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 矢野 聖悟



**芹ヶ谷公園** 2月25日(土)  
 (雨天:2月26日(日)延期)  
 緑の物語をつくるワークショップ  
 ~芹ヶ谷の緑で“OOしたい”を実践しよう~  
 参加費無料 一部有料  
 会場: 芹ヶ谷公園 芝生広場周辺・多目的広場  
 第4回  
**ハンズオンで**  
**学ぶ・過ごす**  
 全体ファシリテーター: 村山 史世 氏  
 (麻布大学 准教授)  
 芹ヶ谷公園ワークショップ  
 ●木こり体験 ●ネイチャーアート ●ブッシュクラフトワークショップ  
 ●モルック体験 ●防災グッズづくり  
 お問い合わせ先: 町田市都市づくり部公園緑地課公園計画係 (直通: 042-724-4397)



子どもたちと防災グッズ作り



たくさんの方にお越しいただいた

## 12. 学生活動報告会【ガクマチ EXPO】

1. 日 程 2023年3月21日(火・祝)

2. 場 所 町田市生涯学習センター

### 3. 概 要

主に町田・相模原で地域活動を行う大学の学生団体が、地域の方々へ向けた活動のPRや学生間の交流を行うイベント。今年のガクマチ EXPOは、約3年ぶりに完全対面式でのイベント開催となり、本学学生スタッフ5名を含め、11団体が参加。学生スタッフは「オリジナルルールでポッチャをしよう!」という企画を実施し、参加者と話し合っオリジナルのルールを設定し、ポッチャを楽しんだ。

4. 学生参加者数 5名

### 5. 参加学生の感想

ポッチャのルールを様々に変えて楽しんだり、正規ルールでしっかりプレイしたりと、人によって参加の仕方は様々でした。ですが、どの方にも楽しんでいただきました。参加者が楽しめるよう柔軟に授業内容は変えていきましたが、それでもコンセプトはそのままに実施できました。一緒にスポーツをする上でどの程度規定をし、どの程度自由にすれば楽しめるのか、それを考える上で良い経験になったと思います。

社会学部 社会学科4年 山中 一智也

全体を通した授業という形にとらわれすぎることなく、休みの時間にも多くの方がポッチャを体験しに来てくださいました。子どもから大人まで、楽しいという声を多く聞くことができ、参加して良かったなと思いました。誰でも楽しめ、さらにルールを自分たちで決められるという点で皆さん楽しんでくれたのではないのでしょうか。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 中山 紗希



オリジナルルールを考えた



多くの参加者と楽しめた

# 小金井ボランティアセンターについて

2022年度 小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括 （ 小金井ボランティアセンター長 相原 建人 ）	125
2022年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）	126
2022年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）	127

#### 第4章 小金井ボランティアセンターの活動の概要 小金井ボランティアセンター活動総括

小金井ボランティアセンター長  
相原 建人

2022年度、小金井ボランティアセンターの活動は、新型コロナウイルスの影響は少なくなかったものの、学外活動のほとんどは実施できなかった。一方、学内活動については、小金井祭はコロナ禍以前の状態に戻りつつあり、ゲームスペース企画と屋台企画、工学展が開催された。昨年度と比較すると参加者数は増加し、受験生や近隣住民など多くの人々が参加できるようになり、貢献度は高かった。

コロナ禍の収束に伴い、課せられていた制限が各キャンパスで緩和され、多くの企画が実施された。小金井キャンパスの学生が市ヶ谷主催の企画に参加するなど小金井キャンパスにおいてもボランティア活動の活発化の兆しが見え始めている。

ボランティアセンターは、学生が自ら考え、行動することで成長する機会を提供することが目的である。そのため、ボランティア活動をサポートする体制を整えることが重要である。小金井キャンパスでは専属学生の不足や教職員の体制が課題となっているが、市ヶ谷や多摩の関連部局と連携し、この問題を解決することを目指している。

2022 年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）

小金井ボランティアセンターではまだ組織だったボランティアセンター活動が実施できていないため、例年、参考として小金井キャンパスのボランティア活動について報告している。

2022 年度の小金井キャンパスのボランティア活動の学内行事については、感染予防対策を実施しながら小金井祭の企画を中心に活動し、近隣地域への連携を主とする活動とすることができた（詳細は下表参照）。

イベント名等	内容	2021 年度		備考
		実施時期	ボランティア参加者数	
学内献血	日本赤十字社主催の学内献血。	7月5日	74名（献血協力者）	例年工体連本部の協力を得ていたが、本部員数不足により、協力を得られず。
学内献血	日本赤十字社主催の学内献血。	9月27日	55名（献血協力者）	例年工体連本部の協力を得ていたが、本部員数不足により、協力を得られず。
工学展	技術連盟が工学展で理科体験教室を出展（対象：小金井在住者）。	11月3日～5日	115名	来場者 707名
小金井祭でのゲームスペース企画	小金井企画実行委員会が学生・地域住民の交流の場として、ボードゲーム・カードゲーム企画を実施（対象：小金井市在住者）。	11月3日～5日	90名	
小金井祭での研究室紹介	小金井3学部の7研究室の研究室見学を開催（対象：小金井市在住者）。	11月3日～5日	62名	※参加研究室のうち申請した3研究室に対し「ボランティア活動・研究公開サポート制度助成」制度を適用。
小金井祭での屋台企画	小金井祭で屋台企画を実施（対象：小金井市在住者）。	11月3日～5日	12団体	
学内献血	日本赤十字社主催の学内献血に会場を提供。	12月8日	51名（献血協力者）	例年工体連本部の協力を得ていたが、本部員数不足により、協力を得られず。
校内タバコ吸殻・ゴミ拾い	ボランティアセンター小金井職員が年間を通じて校内のタバコ吸殻・ゴミ拾いを実施。	4月～3月	1名	出勤したボランティアセンター職員が実施。

以上



# 2022年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）

小金井キャンパスで実施しているボランティア活動・研究公開サポート制度の採択状況について、下記の通り報告する。

記

## 1. 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度について

本制度は、小金井キャンパスにおける地域貢献を目的としボランティア等の活動を活性化することを目的に、2016年度より新設された。

小金井キャンパス周辺地域（小金井市・西東京市・三鷹市・武蔵野市・国分寺市・調布市）を対象としたボランティア活動や小金井祭における地域住民への正課研究の公開を目的とする活動をする小金井キャンパスに在籍する学部生・院生及び登録団体に対し、1回の活動につき10万円を上限、一団体年間2回まで助成する。企画の実施期間について、申請年度中に活動を実施し、完了することが条件となる。

活動実施1か月前までに申請することが必要で、毎年度12月上旬を最終受付としている。

## 2. 2021年度の応募・採択状況

2021年度は3件の応募があり、全件採択された。

団体名	事業名	実施期間	助成額（円）
理工学部機械工学科 吉田研究室	小金井祭り研究室紹介 加工計測・機能デザイン研究室の研究室紹介	11月3・4日	100,000
理工学部創生科学科 田中研究室	小金井祭研究室紹介 学際宇宙ゼミナールの研究室紹介・星野村プロジェクト	11月3・4・5日	100,000
生命科学部生命機能学科 今村研究室	小金井祭研究室紹介 微生物細胞機構学研究室の研究室紹介（DNA解析実験体験）	11月3・4・5日	100,000
合計			300,000

以上

2022 年度採択された

助成金一覧・メディア掲載一覧

## 2022年度採択された助成金一覧

●社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会「養成事業助成金」に採択（市ヶ谷）

助成活動名：災害救援ボランティア講座 ⇒報告書はP48を参照

●令和4年度「千代田学」共同提案事業（補助金）に採択（市ヶ谷）

事業名：自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究

（2）職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発

活動名：防災キャンプ ⇒報告書はP70を参照

※防災キャンプは本事業内のプロジェクトの一つです。

※防災キャンプでは補助金の一部を使用しました。

●一般財団法人 学生サポートセンター 「令和4年度学生ボランティア団体助成事業」に採択。

レポートタイトル：積極的なオンライン活動での成果と今後の展望

※本助成金はVSPが申請した助成金のため、VSPに対して助成された。

メディアへの掲載・各種広報実績

キャンパス	媒体名	発行時期・放送日	ボランティアセンタープログラム名・内容	実施日	番号
市ヶ谷	保護者の皆様へ 2023	5月～6月（配布時期）	学生スタッフへの取材 市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「VSP」飯村美南、杉山裕都	4月上旬	①
	広報千代田	2022年8月5日	災害救援ボランティア講座	6月18日、25日、7月2日	②
	京葉銀行情報誌「きずな」2022秋・冬号 N o.25	2022秋・冬	外来魚・外来生物駆除ボランティア	8月31日	③
	FMヨコハマ『Kiss & Ride/ 守ろう！私たちの綺麗な海』	12月7日、8日 13:40～	Beach Clean Project 第2弾！	10月22日	—
	広報誌「HOSEI」2023年1・2月号	2023年1・2月	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「VSP」髙瀬矢 記事タイトル：総長と学生の座談会企画「誰かのために」に私たちが できること～自由を生き抜く実践知～	10月7日	④
	広報誌「HOSEI」2023年3月号	2023年3月	取材：市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ 「チーム・オレンジ」代表 磯網巴 記事タイトル：東日本大震災から12年が経ち	1月12日	⑤

メディア掲載概要（掲載誌（紙）・掲載日）※一部抜粋になります。



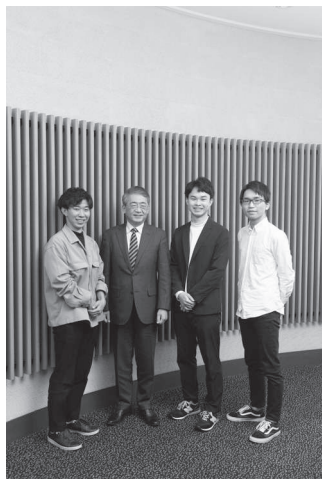
※① 保護者の皆様へ 2023



※② 広報千代田



※③ 京葉銀行情報誌「きずな」2022秋・冬号 N o.25



※④ 広報誌「HOSEI」2023年1・2月号



※⑤ 広報誌「HOSEI」2023年3月号

## 2022 年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書

発 行 2023年8月

発行者 法政大学ボランティアセンター

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

Tel: 03-3264-9516 Fax: 03-3264-5728

E-mail: [ichigaya-vc@hosei.ac.jp](mailto:ichigaya-vc@hosei.ac.jp)

印 刷 株式会社エイチ・ユー 学内印刷室



市ヶ谷ボランティアセンター  
市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階  
学生センター内  
〒102-8160  
東京都千代田区富士見2-17-1  
TEL:03-3264-9516  
FAX:03-3264-5728  
Mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

ソーシャル・イノベーションセンター  
多摩キャンパス1号館(総合棟)2階  
〒194-0298  
東京都町田市相原町4342  
TEL:042-783-3014  
FAX:042-783-2167  
Mail:sic@ml.hosei.ac.jp  
※多摩ボランティアセンターは2023年4月より多摩地域交流センターと統合し、ソーシャル・イノベーションセンターとなりました。

小金井ボランティアセンター  
小金井キャンパス  
管理棟2階小金井学生生活課内  
〒184-8584  
東京都小金井市梶野町3-7-2  
TEL:042-387-6041  
FAX:042-387-6201  
Mail:kgakusei@hosei.ac.jp